

# JCCA中国

Japan Civil Engineering Consultants Association Chugoku Branch.

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会中国支部

2017.3  
VOL. 45



## CONTENTS

### VOL.45 目次 2017. 3.

#### ■ 巻頭言

- 01 続く予想外の出来事『当たり前は無い』  
支部長 小田 秀樹

#### ■ 夢 追 人

- 02 自動車業界からのメッセージ  
守るために変えていく／新型ロードスター  
の開発を通じたものづくりへのこだわり  
マツダ株式会社 山本 修弘
- 06 大学からのメッセージ  
「地震の揺れを科学する」ために  
－研究のこれまでとこれから－  
鳥取大学 香川 敬生

#### ■ 会 務

- 10 平成28年度中国支部第46回定時総会  
10 役員会  
11 役員、常設部会委員の異動

#### ■ 総 務

- 12 総務部会等の開催  
13 国土交通功労者表彰  
29 平成28年度災害時対応演習  
30 講習会等  
30 建設関連5団体共催独禁法講習会  
30 建設技術フォーラム2016 in 広島  
31 RCCM資格試験  
33 若手技術者の会の設立  
34 建コン中国支部ホームページリニューアル検討中!!  
36 官民合同新年互礼会

#### ■ 業 務

- 37 業務部会の開催  
37 平成28年度意見交換会実施概要  
39 中国地方ブロックとの意見交換会  
57 中国地方整備局との意見交換会  
64 広島県との意見交換会  
72 岡山県との意見交換会  
77 鳥取県との意見交換会  
81 広島市との意見交換会  
85 協会本部と中国支部意見交換会

#### ■ 技 術

- 86 技術部会の開催  
86 技術講習会、見学会  
86 情報セキュリティ講習会  
87 マネジメントセミナー  
88 GIS講習会2016－広島  
89 現場見学会報告  
90 品質セミナー“エラー防止のために”  
90 ICT普及セミナー2016  
91 研修講師の派遣  
93 CIM推進ワーキング活動報告

#### ■ 技 術

- 94 河川委員会の活動報告  
97 道路委員会の活動報告  
98 構造委員会の活動報告  
99 港湾委員会の活動報告  
100 防災委員会の活動報告  
104 地域計画委員会の活動報告

#### ■ 厚 生

- 106 平成28年度親睦活動  
106 第52回ゴルフ大会  
108 第8回フットサル大会  
112 第51回ボーリング大会

#### ■ グループ活動

- 114 ウエスコ ジョギング部の紹介 ウエスコ 赤池 曜  
115 Youth Talk 若手社員プレゼン大会  
荒谷建設コンサルタント 浅野 拓馬

#### ■ 寄 稿

- 116 “我が中国”は生き残れるか 連載第8回/楕円形の地域構造  
元 復建調査設計 池上 義信
- 118 海外研修報告  
～ハワイ諸島におけるエネルギーシフトの現状と国際観光のあり方～  
中電技術コンサルタント 村上 紀章

#### ■ 読者のコーナー

- 121 社会人1年目 日水コン 高木 雄貴  
121 新入社員紹介 フクヨシエンジニアリング 松本 龍也  
122 新入社員の抱負 荒谷建設コンサルタント 金子 剛  
123 入社して感じたこと ヒロコン 吉岡 隼也  
123 入社して感じたこと 西部技術コンサルタント 大寺 葉月  
124 新入社員紹介 宇部建設コンサルタント社 高垣 京平  
125 今思うこと アサヒコンサルタント 山口 裕季  
126 創業100周年を迎えることができました  
荒谷建設コンサルタント 中村 慈孝
- 130 創業70周年を迎えて  
復建調査設計 高橋 祐司

#### ■ 新任自己紹介

- 132 自己紹介 いであ 藤井 登  
132 ご挨拶 明伸建設コンサルタント 大石 宏  
133 自己紹介 エイト日本技術開発 岩本 方克  
134 ご挨拶 明伸建設コンサルタント 福原 真爾  
134 就任ご挨拶 宇部建設コンサルタント 渡辺 忍  
135 新任ご挨拶 長大 貞入 将人  
135 ご挨拶 荒谷建設コンサルタント 荒谷 悦嗣  
136 新任のご挨拶 大日本コンサルタント 友光 宏実

#### ■ 事 務 局

- 137 支部日誌  
140 事務局からのお知らせ

表紙写真説明（別所砂留：べっしょすなどめ、所在地：広島県福山市）写真提供：土木学会中国支部選奨土木遺産選考委員会

別所砂留は、福山藩による江戸時代の大小様々な形態の砂留めが、一溪流に30基以上、良好な状態で現存している貴重な土木遺産である。（土木学会ホームページ 選奨土木遺産選考委員会）写真は10番砂留。



## 続く予想外の出来事『当たり前は無い』

(一社)建設コンサルタンツ協会中国支部

支部長 小田 秀樹

昨年は、あらゆるところで、予想外の出来事が、起こった一年であったように思います。

世界に目を向けてみると、イギリスの国民投票によるEU離脱や、アメリカ大統領選挙で実業家のトランプ氏が勝利したこと。韓国では、政治への潔癖さを買われていた朴大統領に対する、国民からの批判と弾劾決議。日本では、日経新聞年頭の専門家による年初株価動向予想が、30人全員はずれ暴落、その後株価は急上昇。オバマ大統領による、アメリカ大統領としての初めての広島訪問。そして、私にとってはうれしい誤算でしたが、我が愛する広島カープの、『神ってる』活躍と25年ぶりのセリーグ優勝。等々、先を予想することが益々難しい時代となりました。

元日の日経新聞1面には、もはや『当たり前は無い』との記事があり、この記事が載る頃には、各国における大統領は、韓国やオランダで決定し、フランスでは選挙真っ只中。しかし、相変わらずトランプ旋風が吹き荒れ、プーチンや習近平に世の中が振り回されていることでしょう。

### 現在の建設コンサルタンの状況

日本国内に目を転じると外交は荒れているものの、政治経済が比較的安定していることやインフラ整備の重要性が理解されつつあるため、建設関連投資は安定状況となっています。

私たち建設コンサルタンの分野においては、現在、ハードからソフト、新設からメンテナンスへと変化を遂げています。また、将来の人手不足に備え、国が推奨する『i-Construction』の実現に対する対応は不可欠なものとなっています。

このような状況下、建設コンサルタンツ協会(以下、協会と呼ぶ)と各発注者との意見交換における要望と提案の最重要課題として、『魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備』を挙げています。この目標実現のためには、近年技術者単価や最低制限価格の引き上げなどがなされ、会員各社の経営が比較的安定し始めている今、協会会員は課題解決に向け行動をしなければならないと思います。

### 協会の昨今及び会員会社の課題と進むべき道

私たち協会会員会社の具体的な目標である、①魅力ある職種及び職場の構築、②女性活躍の推進、③若手技術者の育成、などを実現するには、先に述べたように安定した会社経営が不可欠となります。そのためには、協会が長年推し進めている『技術力による選定』は欠かせません。協会会員以外においては、総合評価やプロポーザルによる選定に批判的な団体や企業も多くあると聞いていますが、入札による金額競争だけでは、決して私たちの専門化としてのステータスが上がることはありません。

現在、総合評価においては、技術点と価格点の比率の関係で落札率が決して高くない状況ですが、少なくとも一定の技術力がある者同士の競争となっていて、発注側や国民が求める高品質の成果を提供できる仕組みとなっています。今後、技術点の重みを上昇させ適正な価格で業務の遂行が出来るよう、協会として要望を続けてゆかなければなりません。私たち自身が、現状の価格競争だけに留まっていたら、発注者や国民の皆様から恐れ尊敬される職種には、決して成り得ないことは明白です。労務を提供し長時間労働を続ける業界から、知恵を提供しワーク・ライフ・バランスを実現させる業界へ変身するために、協会会員の意思を一つにして行かなければなりません。

### 本年度が実り多い年で在りますように

プロ野球シーズンが開幕し、個人的にはカープの勝敗に一喜一憂する季節となりました。我が協会においても、4月から新しい年度がまた始まります。支部長として、『神ってる』活躍は出来ませんが、少しでも会員の皆様のご期待に沿えるよう、役員や会員の皆様のご理解とご協力の下、協会支部発展のため微力ながら努力して行く所存です。

我が愛する広島カープのセリーグ連覇と、出来得るならば日本一になるよう期待すると共に、会員企業の発展と会員の皆様のご活躍により、『最高で一す!』と言える一年になりますようお祈り申し上げます。

## 自動車業界からのメッセージ



### 守るために変えていく／新型ロードスターの開発を通じたものづくりへのこだわり

マツダ株式会社 商品本部

ロードスターアンバサダー／元開発主査 山本 修 弘

#### 1. はじめに

ロードスターの開発を通じて日本のモノ作りと、広島でオープンカーを作る意義を問い「誰もが幸せになる」という夢を追いかけてきました。2代目、3代目とわずかではあるが大きく重くなったロードスターを、4代目では原点回帰し「守るために変えていく」挑戦を行いました。高い目標を掲げ「共創」という取り組みでお客様と同じ夢を目指し、そして、「2016 ワールド・カー・オブ・ザ・イヤー」と「2016 ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤー」のダブル受賞という金字塔を達成することが出来ました。



(図1) 2016ワールド・カー・オブ・ザ・イヤー

#### 2. 原体験の大切さ

小学校に上がる前くらいだったと思います。乗り物に興味のあった私は、近所の親戚のお兄さんをお願いし、オートバイの燃料タンクにまたがりハンドルを持つ姿勢で初めてのオートバイ体験をしました。「自分の顔に風がばんばん当たってくる、風を切って走っている」という感覚が、とても新鮮で、今でもはっきり覚えています。この体験がオープンカーロードスターへ繋がったと言うといかにもとってつけた感がありますが、今となってはきっと偶然ではないだろうと思えてなりません。

#### 3. REとの出会いにより自動車技術者をめざす

中学2年生の時、私にとって一生の出来事が起きます。広島の東洋工業が世界初のロータリーエンジン (RE) を開発したというニュースを知りました。興味があったので、東洋工業にはがきを出して「REの知識」(図2) という冊子を送って頂きました。これが私がREの仕事がしたいと思った最初の出会いになります。その時から、将来は東洋工業でREを開発する仕事に就くと心に決めました。



(図2) REの知識

## 4. レーシングREで世界一をめざして

東洋工業株式会社へ入社した私は、希望が叶ってRE研究部の設計課へ配属され、念願のRE研究開発に従事することが出来ました。その後、レースで世界と戦いたいと嘆願し、レース用REの開発を担当することになりました。

レースの現場経験のなかった私は、実研チームのリーダーから「山本はレースを知らんよのう」と言われたことに奮起し、国内富士GCLレース全3戦とロングディスタンスレース2戦を、広島から自費でマイカーを飛ばしてレース観戦する計画を立て実行しました。金曜日の会社が終わってから、広島から2号線を走り、そして岡山県から中国道、名神高速、東名高速と10時間掛かって御殿場の富士スピードウェイを目指しました。そして、土日はレースチームと一緒に行動し、日曜日の午後のレース終了と同時に広島へ帰り、翌朝は会社に出勤することの繰り返しでした。



(図4) GCLレースと13B RE

1981年には、マツダスピードのチームと一緒に初めてのル・マン24時間耐久レース(図5)へ参加しました。RX-7は予選突破しましたが、途中リタイヤとなりました。ポルシェ、フェラーリ、ジャガーなど世界トップと戦っていつか世界一になるんだと、夢と希望を膨らませたことを覚えています。



(図5) 1981年ルマン24時間レース

## 5. 人馬一体の追及の為に感覚を磨くこと

その後、3代目RX-7 (FD) 開発では、パワートレイン全体のリーダーとして開発推進する役割を担うようになりました。エンジンだけでなくクルマ全体の知識を持つこと、ドライビングスキルアップも必要になりました。10年掛かりましたが、社内トップレベルのドライビングライセンスも獲得しました。このことは3代目、4代目ロードスター開発に多いに活かされることとなります。

## 6. ロードスターの進化

RE開発、レース、RX-7開発でエンジニアとしてのスキルアップを進めてきた私は、1995年より2代目ロードスター (NB) 開発を担当しました。NB開発では、海外リージョンからは、モアパワーの声が強かったですが、私達はパワーより人馬一体のコントロール性だと主張し、エンジンレスポンスやエンジンサウンドを追求することを貫きました。

2002年から開発した3代目NCは、ますます厳しくなる安全対応、環境対応の為に、サイドエアバッグの装着など、車両が大きくなり、質量が増加する結果となりました。その結果、NAのお客様からは、何故大きくなるの、重たくなるのと厳しいコメントを頂きました。クルマの性能は良くなっているけど、ロードスターの人馬一体の楽しい走りと言う面では、必ずしもお客様の期待に応えられていなかったのです。

## 7. 広島でオープンカーを作る意義を問う

2007年7月、私は4代目ロードスター (ND) 開発の主査を拝命しました。NDを開発する上でまず取り組んだのは、ロードスターを日本の広島で作ると言う意義を明確にすることでした。その上で、ロードスターの有りたい姿を目指しました。

広島には3つの特長があります。最初は、安芸の宮島の厳島神社です。世界文化遺産にも登録された「文化」があります。2つ目は、隣町する呉市にある、戦艦大和が製造された世界に誇る「技術」です。3つ目は、世界文化遺産の平和記念公園で「平和」の街ということです。オープンカーは空気が綺麗で、戦争や紛争が

有ってはなりません、平和でなければ乗ることができません。「平和」の象徴であり、「技術」と「文化」の基でオープンカーを作ること。これはとても大切なことだと思います。(図6)

ロードスターは単なる移動の為だけの道具ではなく、人生に活力を与えてくれるかけがえのないパートナーであること。それを達成する手段として、デザイン、パッケージ、ダイナミック性能、実用商品性などすべての商品目標は、初志に立ち返りありたい姿を描きました。



(図6) 広島の特長

## 8. 守るために変えていく

4代目ロードスター (ND) 開発では、生まれながらにこのクルマが持っている大切なもの、すなわち、運転することが楽しいという価値を守らなければならないと強く思いました。そして、そのことを表した「守るために変えていく」(図7)というメッセージは、初志を大切にする私達の決意であり挑戦を表す大切な言葉です。

その取組みは、“SKYACTIV TECHNOLOGY”の考え方とも、“魂動デザイン”とも一致し、全社を挙げて取り組んでいる“モノ造り革新”のアプローチに合致するものでした。



(図7) 守るために変えていく

## 9. 「感-kan」づくりと「共創」活動

NDの魅力価値は、クルマの性能がアップするだけではなく、すべては人がクルマを運転して楽しいと感じることである、という「感-kan」作りを最大のテーマに掲げ取り組むことにしました。「感-kan」作りは「共創」という取り組みを推進しました。開発の早いタイミングでゴールを共有し高い目標に向かって、全員が取り組むことを行いました。初期構想段階では少数メンバーでのタスクルーム活動を実施しました。パッケージレイアウト段階では、企画設計メンバーと担当設計のメンバー一つの大部屋で膝を突き合わせて1mmをしのぎ合う活動を行いました。共創活動は開発メンバーだけでなく、生産技術や工場の現場の匠達とも一緒に取り組みました。デザインモデルの見取りは(図8)メンバー全員で一緒に行いました。この取り組みは、これまでの新車開発ではあり得なかった取り組みです。従来の開発プロセスの8ヶ月も早い段階でデザインモデルを共有し、ゴールに向かって活動を進めました。現場の匠達からは、デザインはカッコ良いけど、すぐに顔色を変えてこのボデーとフェンダーのパーティングラインは出来ない、このラインや深絞りにはプレスできない、ましてやこれをアルミで作ることは出来ない！という声が出てきました。そんな匠達に、私は、「お客様は簡単なものを作るだけでは喜んでもらえません、難しいものを作って初めてお客様は喜んでもらえると思います。私達は皆さんの職場を工場とは思っていません、工房だと思っています。さあ、皆さんの工房から作品を作ってお客様に届けましょう！」と呼びかけました。現場の匠達は、よし！やってやろうと心意気を示してくれ、その後アル



(図8) 工場メンバーとのモデル見取り



(図9) アルミ ボンネット、フロントフェンダー

ミのボンネットやフロントフェンダー(図9)などは、鉄の3倍の時間が掛かりましたが諦めずに、デザイン形状をきっちり実現してくれる金型とプレス工程を確立してくれました。

もちろん、デザイン領域だけにとどまらず、操縦安定性や乗り心地や静粛性、パフォーマンスフィールやエンジンサウンドなど、すべてのダイナミック目標は数字に囚われることなく、ドライバーの「感-kan」に響く乗り味を追求しました。その結果、NAファンですら、楽しさを絶賛する価値へと昇華するレベルに上げることが出来たと自負しています。また、最大の商品性目標である軽量化も、100kg以上の軽量化を達成し、1tを切るレベルに到達することが出来ました。

## 10. 「志ブック」

脈々とマツダに引き継がれているものづくりへのこだわりを大切に、継承していかなければならない。その為には、人の力を引き出し活力ある「共創」へ昇華させなければならぬ。新型ロードスターの開発を通じて、人を育てることを実践しなければならぬと強く意識するようになりました。有りたい姿を掲げそれを実現する、そんなことを開発に携わるメンバー全員が宣言し

### 【プロフィール】

山本 修弘(やまもと のぶひろ)

出身地：高知県土佐清水市

生年月日：1955年1月31日

略歴1973年に入社後RE開発に長くかわかり、RX-7ヤル・マン24時間レース用4REの開発も担当。その後、ロードスター開発担当となり、2代目・3代目ロードスターの副主査として商品開発に注力。07年から4代目ロードスターの開発主査に就任。ファンミーティングに足繁く通い、ファンの声に耳を傾けつつ自分の信念は曲げない熱きエンジニアである。16年7月より、育てた後継者に主査を引き継ぎロードスターアンバサダーとしてその情熱を燃やしている。

実行できるようにしよう、そう考えた成果が「志ブック」(図10)の作成です。コンセプトが固まり、デザインモデルの承認後、開発メンバーは元より、生産技術、工場のメンバー、購買、品質管理、財務担当やマーケティング、広報のメンバーにそれぞれの役割責任の元、自分の志とその志を具体的にどうやって実行するかアクションプランを書き出してもらいました。302名に上るこの「志ブック」は、開発に携わったメンバーの“魂”です。全メンバーにシリアルナンバー付きで配布し、自分だけではなく他のメンバーの志も見えるようにしました。この「志ブック」に綴られた各メンバーの心意気が、そのまま新型ロードスターの姿になって表れています。そして、きっと開発メンバー全員の宝物になっていると思います。

## 11. おわりに

「守るために変えていく」という挑戦は、業種や専門分野は違っていても、こだわりを持ってものづくりに携わるエンジニアの皆様の心(感-Kan)にきっと響くことを願っています。



(図10) 志ブック



(図11) 新型ロードスター

大学からのメッセージ



## 「地震の揺れを科学する」ために —研究のこれまでとこれから—

鳥取大学大学院工学研究科

教授 香川 敬 生

私の研究は地震の「揺れ」を対象としており、強震動地震学と言われる分野にあたる。一般的な地震学（主に理学系）の興味は地震発生の解明にあり、地震がどのような条件でどうして発生するかを研究の対象としている。そのため、地震が発生するような硬質の岩盤が分布する山地などで人工ノイズの影響が小さい観測を行い、地震計のみが感知するような小さな地震を日々捉え、地震活動の推移や地震発生に至るひずみの集中をモニターし、研究の材料にしている。つまり、大きな地震が発生するまでの過程が主たる研究内容となっている。一方、私が対象としている分野は、大きな地震が起こった際に各地で観測される強い揺れ（強震動）がどのような要因によって生成されるのか、つまり大地震の断層破壊過程とそれに基づく揺れの伝播現象が研究対象となっている。一般的な地震学が地震発生機構を解明することで地震発生予測を目指しているのに対して、強震動地震学では震源断層の破壊やその結果としての地震波の伝播、私たちが暮らす平地を構成する堆積地盤での増幅、といった現象をモデル化し、地域の揺れを予測する精度の向上を目指している。

我々が感じ、構造物に被害をもたらす地震の揺れは、震源断層がどこからどのように破壊するか（震源特性）、その破壊によって生じた地震波がどのように遠方に伝わって行くのか（伝播経路特性）、さらに伝わって来た揺れが局所

的な地盤の影響によってどのように変化するか（サイト増幅特性）の三要素で構成され、これらが複雑に絡み合っている。つまり、これらをうまくモデル化することができれば、地震発生時の揺れを予測することができる。これらについて、どのような研究を行い、また今後どのような展開を考えているのかについて、本稿で紹介したいと思う。

まず身近なところから、「サイト増幅特性」についての研究を紹介する。私は2008年5月まで大阪の地盤系建設コンサルタントに勤務していたため、大阪盆地の地震動を対象とすることが多かった。大阪平野と大阪湾を合わせると、周囲を山に囲まれた中に厚い堆積層を有する盆地構造となるため、ここでは敢えて「大阪盆地」と呼ぶことにする。

大阪盆地内で観測される地震記録には、S波主要動に遅れて到来する振幅の大きい波群が顕著に見られ、既往研究では「あとゆれ」と称されていた。これは大阪盆地の周辺岩盤から盆地内に地震波が入射する際の盆地生成表面波で、例えばプリンに入ったプラスチック容器の端を叩いた際にプリンの表面を伝わる波にあたる。大阪をはじめ都市が立地する盆地構造は、固い岩盤の容器に軟らかい堆積層が入ったようなものなのである。この堆積層と岩盤の境界形状と堆積層内部の構造により、盆地内を伝播する地震動が支配される。そこで、1980年代が



ら実施され、後半には自らも関わった大阪湾内や陸上部の反射法地震探査（人間ドックなどの健康診断で用いられる超音波エコー検査を、人工震源を用いて地盤に適用したようなもの）から、交通振動や波浪振動などの常時微動を用いた微動探査（地震計という聴診器を用いた聴診検査のようなもの）などの物理探査、また学術および温泉掘削などの深層ボーリングデータを収集して、大阪盆地の3次元地下構造のモデル化を行い、地震時に観測される「あとゆれ」をシミュレーションで再現できるようにした。

2011年東北地方太平洋沖地震では、大阪湾岸に立地した固有周期約6秒の超高層ビルである大阪府咲洲庁舎が大阪盆地内で唯一の被害を生じた。この周辺に防災科学技術研究所が設置した強震観測点では、地下2,008mの岩盤内に対して、周期約6秒の帯域では地表の地震動が50倍ほど大きいことが記録され、この地震動成分が上記の被害に繋がったとされる。提案した大阪盆地の地下構造モデルでは、この付近で周期6秒の揺れが大きくなること、また震源域から到来して盆地に入ることで大きく成長した表面波を想定すると、地表と地中の振幅比から50倍の違いも説明可能なことを示すことが出来た。

2008年6月に鳥取大学に転職した後は、学生の研究を主体に、主に微動探査を用いて鳥取県内の堆積構造を出来るだけ細かく調査し、地震防災に活用することに取り組んでいる。昨年10月21日に発生した鳥取県中部の地震(M6.6)では、気象庁、防災科学技術研究所、鳥取県が管理する強震計・震度計で、本震・余震の観測記録が得られた。それらを見ると、同じ地震を観測していても少し離れた観測点では特徴が大きく異なる記録が得られている。特に、地震動に含まれる周期成分が地点によって異なっている。各地点で卓越する周期成分は、既往の微動探査で得られた地盤の卓越周期と良く一致して

おり、被害の様相もそれに対応したものとなったと考えられる。地域の地盤震動特性をできるだけ詳細に把握しておくことの有効性が示された事例であり、今後も観測の充実に努めたい。

次に伝播経路特性であるが、震源から球殻状に広がるS波主要動の振幅は、距離に反比例する幾何減衰で小さくなる。距離が離れるにつれ、地震波が伝播する媒質（岩盤）内の摩擦熱や残留変形の内部減衰、また媒質内の不均質による散乱減衰による影響も考慮する必要がある。このような内部減衰・散乱減衰は1波長毎に影響するため、同じ距離であれば波長の短い短周期の地震動成分が減衰し易くなる。また遠方では、地表面に沿って円周状に広がり、幾何減衰が距離の平方根に反比例する表面波も主要動S波に比肩する振幅を持つようになる。先に紹介した大阪府咲洲庁舎に、2011年東北地方太平洋沖地震の震源域から到来した周期約6秒の表面波が影響したのは、周期の長い表面波が遠方まで伝わり易いことによる。

政府地震調査研究推進本部が2012年1月に公開した「長周期地震動予測地図」2012年試作版－南海地震（昭和型）の検討－プロジェクトで、遠地まで伝播する長周期地震動評価のとりまとめを担当した。その際、対象となる中部地域から九州までの西南日本および南海地震の震源域となる海域を含めて、既往の構造探査データをコンパイルしたマントル上面までの3次元地下構造の初期モデルを作成した。次に、2000年鳥取県西部地震、2004年紀伊半島沖の地震などの大地震を始め、比較的広範囲に観測記録が得られている中規模地震の観測記録をコンピュータシミュレーションで再現できるように、3次元地下構造モデルのチューニングを行った。

昭和南海地震については、少ないながらも国内の気象台および世界各地の観測点に観測記録が残されており、既にデジタル化が行われて

いた。さらに、これらのデータに地震前後の地殻変動が測量されており、それらを全て再現するような震源断層破壊モデルが既往研究で提案されていた。ただし解析に用いた地下構造モデルは、計算が容易な水平成層（1次元）モデルが用いられていた。「長周期地震動予測地図」2012年試作版プロジェクトでは、作成した3次元地下構造モデルを用いてより高精度な断層破壊モデルを推定し、それに基づいて広域の地震動伝播シミュレーションを実施し、昭和南海地震の長周期地震動を再現した。この時に作成した3次元地下構造モデルは、その後2012年8月に内閣府が実施した南海トラフの巨大地震モデル検討（第二次報告）の基礎データとしても利用された。

これまでに述べた伝播経路特性とサイト増幅特性については、時間と資金を掛けて調査を実施すれば、それに伴ってモデルの精度を上げることができる。21世紀に入って計算機の能力が大幅に向上し、シミュレーションの限界は計算容量ではなく、むしろモデル化するための調査データの分解能が課題となっており、より一層の調査の充実が期待される。

地震動を構成する三要素の最後として、震源特性に関する研究について紹介する。地震被害や構造物の設計入力地震動を想定する際の強震動予測では、まず対象となる断層を設定して、その地震規模を想定し、どこからどのように断層破壊が進行するかをモデル化する必要がある。現状では、既往地震の震源破壊モデルについては地下構造モデルを用いて推定することができおり、それをを用いてシミュレーションした地震動は観測波形をほぼ再現できる段階にある。しかし、近代的な観測データが一度も得られていない現状で、将来発生する地震の詳細な震源破壊をモデル化することは非常に困難である。そこで、他地域で発生した地震の震源破壊モデルを統計的に分析し、地震規模に応じた標

準的なモデルを設定することが行われている。その設定方法は、政府地震調査研究推進本部の「断層を特定した強震動予測手法（「レシピ」）」として取りまとめられており、これに則って想定断層から標準的な震源断層破壊モデルを設定することができる。さらに、対象構造物の重要性に応じて、発生確率は低いものの地震動が大きくなるパラメータで評価することも行われる。また、データのばらつきを考慮してパラメータを変動させた大量の計算を行い、その結果から確率的に評価することも行われている。私は前職において、このようなレシピを構築するきっかけとなる研究に関わり、レシピを活用した予測の枠組み創りを実施して来た。

さらに、国内外で発生した既往地震の観測記録や震源破壊モデルを検討して行く中で、同じ規模の地震でも、地表に断層破壊が及んで地表地震断層を生じる地震（地表断層地震）と地表に痕跡を残さない地震（潜在断層地震）では地震動の大きさが異なり、構造物に被害をもたらす周期帯であれば、地表断層地震よりも潜在断層地震の地震動の方が大きいことが分かって来た。この現象は、地表地震断層を生じる浅い断層すべりはゆっくりと進行し、すべり量が大きいため地震規模が大きくなるものの、強い地震動を出さないことに原因があることを解明した。

昨年4月に発生した熊本地震の現地調査を実施したが、地表地震断層を生じた大部分の地区で、断層変位による変形被害は見られるものの揺れによる影響は小さいと考えられた。一方で、地表地震断層から離れると揺れによる大きな被害が発生している。このような現象は、1943年鳥取地震をはじめ近年では2011年福島県浜通り地震、2014年長野県北部の地震などでも見られた。1999年に相次いで発生したトルコ共和国のKocaeli地震、台湾の集集地震の現地調査でも、同様の事例が散見された。現在、こ

のような地表地震断層ごく近傍の地震動がどのような特性を持つのかを研究課題のひとつとしている。

強震動の研究には、被害を生じるような強震観測記録を得ることが重要である。このため、現在のように多数の強震観測点（それでも十分とは言えないが）が設置される以前から、観測ネットワークの構築にも努めて来た。前職では、関西地震観測研究協議会の強震観測網の立ち上げと自動観測・通報システムの構築を行い、NHKの地震特番などで良く取り上げられる1995年兵庫県南部地震における六甲山麓の強震観測記録を得た。1999年にはJICAの短期派遣専門家としてトルコ共和国に赴任し、強震

観測・解析システムの仕上げを担当した。現職では、鳥取県震度観測システムから1秒ごとの震度を入手し、準リアルタイムでモニターできるシステムを構築しており、これを緊急地震速報の高度化に繋げるべく研究開発を行っている。

以上、できるだけ解説を盛り込むようにしつつ、地震の揺れに関する研究との関わりを長々と書かせて頂いた。やや古くなってしまったが、詳しくは私も共著で参加した「地震の揺れを科学するーみえてきた強震動の姿ー」（東京大学出版会,2006年）などを参考にされたい。地震現象をより深く解明するまでの道は遠いが、今後とも少しずつ歩みを進めて行きたいと思う。

## 【プロフィール】

香川 敬生（かがわ たかお）

博士（理学） 技術士（応用理学）

鳥取大学工学部附属地域安全工学センター長

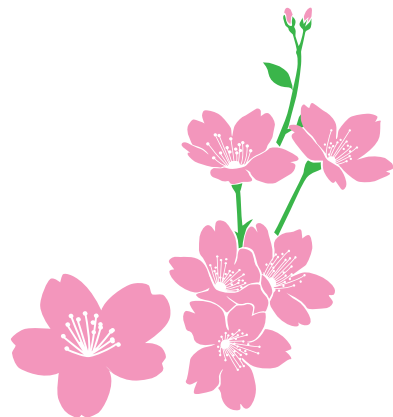
鳥取県防災顧問

土木学会 地震工学委員会断層近傍における地震動メカニズム検討委員会委員長

日本地震学会 代議員 地震学を社会に伝える連絡会議委員

日本活断層学会 普及教育委員会委員

物理探査学会 代議員



## ■ 平成28年度中国支部第46回定時総会

平成28年4月14日(木)、広島市中区のKKRホテル広島において、会員会社の代表者、役員その他関係者の出席のもと、第46回中国支部定時総会が開催されました。

平成27年度の事業報告、収支決算の承認に引き続き平成28年度活動計画、予算案の報告が行われました。

総会に引き継ぎ、長年に亘り技術部会長を務

められた永田裕司氏と山口県内で積極的に支部活動のとりくみをされた山口県委員会委員長の鷹羽慎治氏に「功績表彰」が小田支部長から授与されました。

その後、協会本部の副会長兼専務理事の前川秀和氏による「建設コンサルタントを巡る課題と今後の方向」について特別講演が行われました。



第46回定時総会 小田支部長の挨拶



第46回定時総会 前川副会長の特別講演

## ■ 役員会

### ● 第1回役員会

開催日：平成28年6月29日(水)

於：KKRホテル広島

内 容：(1)平成28年度の中国支部の各部会活動について

### ● 第2回役員会

開催日：平成29年1月31日(火)

於：KKRホテル広島

内 容：(1)第47回定時総会の開催日程について  
(2)第47回定時総会の議案について

## 役員、常設部会委員の異動

### ●支部理事

|                 |              |   |                  |
|-----------------|--------------|---|------------------|
| いであ株式会社         | 新 任<br>藤 井 登 | ← | 前支部理事<br>工 藤 徳 人 |
| 明伸建設コンサルタント株式会社 | 新 任<br>大 石 宏 | ← | 前支部理事<br>伊 藤 利 夫 |

### ●業務部会委員

|                 |                |   |                |
|-----------------|----------------|---|----------------|
| 株式会社エイト日本技術開発   | 新委員<br>岩 本 方 克 | ← | 前委員<br>志 水 勇起弘 |
| 明伸建設コンサルタント株式会社 | 新委員<br>福 原 真 爾 | ← | 前委員<br>背戸川内 仁  |
| 株式会社宇部建設コンサルタント | 新委員<br>渡 辺 忍   | ← | 前委員<br>宮 崎 春 男 |

### ●技術部会委員

|                 |              |   |                |
|-----------------|--------------|---|----------------|
| 中電技術コンサルタント株式会社 | 新委員<br>高 本 徹 | ← | 前委員<br>下 村 三 朗 |
|-----------------|--------------|---|----------------|

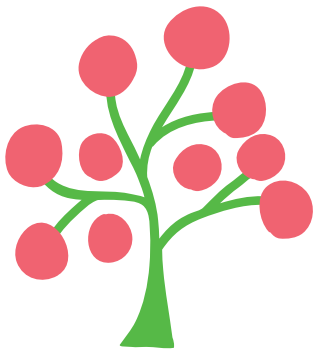
### ●厚生部会委員

|        |                |   |                |
|--------|----------------|---|----------------|
| 株式会社長大 | 新委員<br>貞 入 将 人 | ← | 前委員<br>中 山 博 幸 |
|--------|----------------|---|----------------|



## 総務部会等の開催

- **第1回総務部会・県委員会合同会議**  
開催日：平成28年6月22日（水）  
場 所：日本技術士会中国本部会議室  
議 題：平成28年度の活動方針について  
第1回役員会の開催について
- **第2回中国支部HPリニューアル検討会**  
開催日：平成28年12月12日（月）  
場 所：日本技術士会中国本部会議室  
議 題：活動テーマと今後の活動
- **第2回総務部会**  
開催日：平成28年12月22日（木）  
場 所：中国支部事務局  
議 題：第2回役員会の開催について  
第47回定時総会の開催について
- **第3回中国支部HPリニューアル検討会**  
開催日：平成28年12月21日（水）  
場 所：日本技術士会中国本部会議室  
議 題：概算予算の決定
- **第1回独占禁止法に関する特別委員会**  
開催日：平成28年10月3日（月）  
場 所：日本技術士会中国本部会議室  
議 題：会員行動計画書について  
建設関連5団体独禁法講習会の開催  
について  
コンプライアンス委員会報告
- **第1回JCCA中国編集会議**  
開催日：平成28年11月22日（火）  
場 所：中国支部事務局  
議 題：JCCA中国VOL.45の発刊について
- **第1回中国支部若手技術者の会**  
開催日：平成28年11月24日（木）  
場 所：日本技術士会中国本部会議室  
議 題：若手技術者の会発足会
- **第1回中国支部HPリニューアル検討会**  
開催日：平成28年10月27日（木）  
場 所：日本技術士会中国本部会議室  
議 題：現況確認と目指すゴール
- **第2回中国支部若手技術者の会**  
開催日：平成28年12月19日（月）  
場 所：日本技術士会中国本部会議室  
議 題：活動テーマと今後の活動



## ■ 国土交通功労者表彰

平成28年度の国土交通功労者表彰は、中国地方整備局の27年度事業を対象として、平成28年7月19日(火)、KKRホテル広島で功労者の表彰が行われました。中国支部会員の受賞は次のとおりです。

### ●業務関係受賞者

| 種 別                | 受賞総数 | 内会員の受賞数 | 会員の比率 (%) |
|--------------------|------|---------|-----------|
| 優良業務請負団体表彰(局長表彰)   | 23   | 17      | 73.9      |
| 優良業務請負団体表彰(事務所長表彰) | 35   | 31      | 88.6      |
| 小 計                | 58   | 48      | 82.6      |
| 優秀建設技術者表彰(局長表彰)    | 16   | 13      | 81.3      |
| 優秀建設技術者表彰(事務所長表彰)  | 25   | 20      | 80.0      |
| 小 計                | 41   | 33      | 80.5      |
| 合 計                | 99   | 81      | 81.8      |



国土交通功労者表彰 受賞者



中国地方整備局長から会員の受賞

●『国土交通功労者』優良業務請負団体表彰(局長表彰)

| 表彰区分 | 会社名                   | 業務名                                 | 事務所名      | 担当技術者   |  |  |
|------|-----------------------|-------------------------------------|-----------|---|--|--|
|      |                       |                                     |           | 氏名  | 年齢   | 立場   |
| 局長表彰 | 株式会社<br>荒谷建設コンサルタント   | 平成27年度日野川砂防<br>地域自然環境現地調査<br>(植物)業務 | 日野川河川事務所  | 浮田 健一<br>山田 勝美<br>増永 功<br>吉津 祐子                                     | —<br>—<br>—<br>—                             | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                                     |
|      | 復建調査設計株式会社            | 山口北部地域道路網検討<br>業務                   | 山口河川国道事務所 | 竹葉 克浩<br>野崎 康秀<br>森 三千浩<br>村山 圭<br>河賀 雄大<br>木原 智晴<br>土井 勇介          | 54<br>41<br>36<br>38<br>24<br>48<br>30       | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者          |
|      | 新日本技研株式会社             | 倉吉管内橋梁補修設計<br>業務                    | 倉吉河川国道事務所 | 高 龍<br>田 智秀<br>渡 智彰<br>吉 大介<br>川 英史                                 | 43<br>48<br>55<br>43<br>41                   | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                            |
|      | 株式会社<br>総合技術コンサルタント   | 三隅・益田道路遠田<br>ランプ橋外詳細設計業務            | 浜田河川国道事務所 | 反田 恒<br>河原 克之<br>石田 聰<br>溝部 聡                                       | 43<br>56<br>42<br>44                         | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                                     |
|      | 株式会社<br>オリエンタルコンサルタンツ | 岩国大竹道路大竹トンネ<br>ル設計業務                | 広島国道事務所   | 高 努<br>根 博行<br>今村 伸征<br>河野 武<br>片山 清貴<br>西浦 清貴                      | 47<br>45<br>47<br>38<br>37                   | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                            |
|      | パシフィックコンサルタンツ<br>株式会社 | 水島港玉島地区揚土方法<br>等検討業務                | 宇野港湾事務所   | 石河 雅典<br>寺島 彰人<br>岡崎 健<br>小西 陽右<br>芋野 智成<br>門間 俊之                   | 48<br>44<br>42<br>39<br>47<br>29             | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                   |
|      | 株式会社<br>エイト日本技術開発     | 平成27年度高梁川水辺<br>現地調査(鳥類)業務           | 岡山河川事務所   | 進藤 俊則<br>瀬島 義之<br>楊 継東<br>江口 憲<br>佐藤 寿一<br>西岡 樹<br>上野 香菜子           | 57<br>48<br>51<br>31<br>51<br>32<br>25       | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者          |
|      | 株式会社ウエスコ              | 岡山国道道路情報管理<br>業務                    | 岡山国道事務所   | 丸山 卓志<br>森元 康弘<br>柴田 治<br>森下 恵輔<br>立古 拓也<br>古 富治                    | 60<br>59<br>54<br>43<br>41<br>62             | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                   |
|      | パシフィックコンサルタンツ<br>株式会社 | 鍵掛峠道路トンネル詳細<br>設計業務                 | 三次河川国道事務所 | 加藤 友章<br>山田 宣章<br>田近 宏則<br>田作 祐輔<br>出口 忠義<br>東郷 智<br>齋藤 二郎<br>野中 秀一 | 49<br>47<br>45<br>33<br>46<br>49<br>44<br>31 | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者 |



●『国土交通功労者』優良業務請負団体表彰（局長表彰）

| 表彰区分 | 会社名                 | 業務名                     | 事務所名      | 担当技術者   |                                  |   |
|------|---------------------|-------------------------|-----------|---|----------------------------------|---|
|      |                     |                         |           | 氏名  | 年齢                               | 立場  |
| 局長表彰 | いであ株式会社             | 広島西部山系祇園山本地区砂防堰堤詳細設計業務  | 太田川河川事務所  | 森 克味<br>加賀 清<br>木村 啓祐<br>渡辺 和彦<br>西島 大雅<br>上葛 健太<br>尾勢 和典 | —<br>—<br>—<br>—<br>—<br>—<br>—  | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者 |
|      | 基礎地盤コンサルタンツ株式会社     | 岩国地区外地質調査業務             | 山口河川国道事務所 | 三浦健一郎<br>佐藤 真悟<br>寺脇 直志<br>近西 剛史<br>瀧岡 修二<br>入谷 正人        | 42<br>66<br>31<br>47<br>46<br>27 | 主任技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者          |
|      | 中電技術コンサルタント株式会社     | 大田・静間道路鳥井地区外構造物詳細設計業務   | 松江国道事務所   | 錦織 真樹<br>吉森 誠<br>川見 周平<br>森井 紀裕                           | —<br>—<br>—<br>—                 | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                            |
|      | 株式会社<br>福山コンサルタント   | 福山管内道路計画検討業務            | 福山河川国道事務所 | 松本 裕<br>岩倉 幸司<br>奥田 倫全<br>船本 洋司                           | 44<br>37<br>26<br>30             | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                            |
|      | 株式会社<br>荒谷建設コンサルタント | 平成27年度千代川水系水文観測業務       | 鳥取河川国道事務所 | 加藤 猛史<br>花房 哲也<br>若槻 慎司<br>石川 良夫                          | —<br>—<br>—<br>—                 | 主任技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                            |
|      | 八千代エンジニアリング株式会社     | 天神川浸水解析外検討業務            | 倉吉河川国道事務所 | 竹村 仁志<br>山下 健作<br>川村 一人<br>松浦 祐樹<br>片岡 輝之                 | 41<br>39<br>29<br>38<br>26       | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                   |
|      | 日本工営株式会社            | 斐伊川樋門詳細設計業務             | 出雲河川事務所   | 古本 徹<br>大瀧 諭<br>尾形 一<br>栗山 卓也<br>岩本 演崇                    | 47<br>38<br>45<br>43<br>31       | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                   |
|      | 株式会社建設環境研究所         | 太田川・温井ダム水辺現地調査（底生動物外）業務 | 太田川河川事務所  | 井上 修<br>嶋田 啓一<br>藤谷 俊仁<br>山川 弘子                           | —<br>—<br>—<br>—                 | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                            |

●『国土交通功労者』優良業務請負団体表彰（事務所長表彰）

| 表彰区分   | 会社名              | 業務名           | 事務所名      | 担当技術者                                   |                            |   |
|--------|------------------|---------------|-----------|---|----------------------------|---|
|        |                  |               |           | 氏名                                      | 年齢                         | 立場  |
| 事務所長表彰 | シンワ技研コンサルタント株式会社 | 鳥取管内道路附属物点検業務 | 鳥取河川国道事務所 | 柴田 浩司<br>谷口 雅<br>井川 友裕<br>由良 佳之<br>林 泰志 | 44<br>39<br>25<br>43<br>52 | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者 |

●『国土交通功労者』優良業務請負団体表彰（事務所長表彰）

| 表彰区分   | 会社名                 | 業務名                | 事務所名      | 担当技術者  |  |  |
|--------|---------------------|--------------------|-----------|--|--|--|
|        |                     |                    |           | 氏名   | 年齢   | 立場   |
| 事務所長表彰 | 大日本コンサルタント株式会社      | 鳥取管内橋梁補修設計業務       | 鳥取河川国道事務所 | 田崎 賢治<br>大貝 和也<br>松本 裕介<br>富田 二郎<br>中村 正人<br>横山 広<br>田中 翔太<br>松尾 聡一郎 | 48<br>55<br>52<br>41<br>30<br>55<br>26<br>44 | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者 |
|        | 株式会社<br>エイト日本技術開発   | 鳥取中部道路予備検討業務       | 倉吉河川国道事務所 | 古川 月士<br>永田 裕司<br>福田 勲<br>山本 博章<br>南條 利幸                             | 47<br>57<br>53<br>42<br>53                   | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                            |
|        | 復建調査設計株式会社          | 多伎朝山道路地すべり対策詳細設計業務 | 松江国道事務所   | 中井 真司<br>渡邊 聡<br>大村 拓志<br>浅田 雄哉<br>山内 太郎<br>長迫 操<br>山野内 寛和           | 49<br>36<br>34<br>29<br>27<br>56<br>38       | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者          |
|        | 株式会社<br>エイト日本技術開発   | 松江国道管内橋梁補修設計業務     | 松江国道事務所   | 松浦 寛司<br>安井 亨<br>長岡 久嗣<br>伊藤 隆洋<br>安木 清史<br>松田 泰一<br>大石 二郎<br>柏 直也   | 54<br>59<br>43<br>29<br>42<br>43<br>44<br>28 | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者 |
|        | いであ株式会社             | 朝山大田道路外測量設計業務      | 松江国道事務所   | 藤井 登<br>堀越 正和<br>松井 秀樹<br>浅利 貴之<br>石山 正人                             | —<br>—<br>—<br>—<br>—                        | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                            |
|        | 株式会社<br>荒谷建設コンサルタント | 中海宍道湖外測量設計業務       | 出雲河川事務所   | 角 義隆<br>遠藤 修一<br>石岡 聡<br>福田 真佐夫<br>山本 喜洋<br>中森 則一<br>三島 知之           | —<br>—<br>—<br>—<br>—<br>—<br>—              | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者          |
|        | 株式会社<br>荒谷建設コンサルタント | 益田管内道路附属物外点検業務     | 浜田河川国道事務所 | 池田 健司<br>遠藤 修一<br>松原 昌利<br>福田 真佐夫<br>李 宏樹<br>小松原 健<br>坂本 義明          | —<br>—<br>—<br>—<br>—<br>—<br>—              | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者          |

●『国土交通功労者』優良業務請負団体表彰（事務所長表彰）

| 表彰区分   | 会社名                 | 業務名                   | 事務所名      | 担当技術者  |  |  |
|--------|---------------------|-----------------------|-----------|--|--|--|
|        |                     |                       |           | 氏名   | 年齢   | 立場   |
| 事務所長表彰 | 国際航業株式会社            | 平成27年度百間川分流部周辺環境調査業務  | 岡山河川事務所   | 岡野 隆行<br>小松 俊晶<br>牛込 祐司<br>河野 郁央<br>藤野 智生<br>井上 公人<br>外山 治美<br>加藤 智樹 | 41<br>48<br>36<br>45<br>25<br>47<br>48<br>40 | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者 |
|        | 中電技術コンサルタント株式会社     | 平成27年度吉井川水系河川整備計画検討業務 | 岡山河川事務所   | 大森 嘉郎<br>浜田 大輔<br>天野 卓三<br>桑田 志保<br>山本 泰督                            | —<br>—<br>—<br>—<br>—                        | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                            |
|        | 株式会社<br>エイト日本技術開発   | 玉島橋梁点検業務              | 岡山国道事務所   | 海野 達夫<br>堀田 郁男<br>羽守 紀幸<br>瀬良 敬彦                                     | 60<br>50<br>52<br>44                         | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                                     |
|        | シンワ技研コンサルタント株式会社    | 総社一宮バイパス外構造物設計業務      | 岡山国道事務所   | 孝忠 立麻<br>寺坂 和彦<br>長富 健次郎<br>橋本 健男<br>石倉 誠                            | 44<br>64<br>49<br>58<br>48                   | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                            |
|        | 新日本技研株式会社           | 木原道路福地橋詳細設計外業務        | 福山河川国道事務所 | 高 龍<br>田 智秀<br>渡 辺 彰<br>吉 國 大介<br>河野 良樹                              | 43<br>48<br>55<br>43<br>51                   | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                            |
|        | いであ株式会社             | 芦田川水系浸水解析外検討業務        | 福山河川国道事務所 | 澤田 晃二<br>長屋 琢次<br>高地 敏幸<br>森 友佑<br>田村 智貴                             | —<br>—<br>—<br>—<br>—                        | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                            |
|        | 株式会社<br>荒谷建設コンサルタント | 備北丘陵公園施設設計外業務         | 三次河川国道事務所 | 小川 健一<br>佐藤 義宏<br>長谷山 弘志<br>矢野 順也<br>今村 達也<br>小松原 健<br>岡本 隆彦         | —<br>—<br>—<br>—<br>—<br>—<br>—              | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者          |
|        | 株式会社<br>荒谷建設コンサルタント | 広島西部山系安佐北区外自然環境調査業務   | 太田川河川事務所  | 吉津 祐子<br>山田 勝美<br>増 永 功<br>浮田 健一                                     | —<br>—<br>—<br>—                             | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                                     |
|        | 株式会社<br>荒谷建設コンサルタント | 安佐南区東部地区外補償説明業務       | 太田川河川事務所  | 石井 志津夫<br>齋藤 作夫<br>原 尻 忠始<br>大村 直弘                                   | —<br>—<br>—<br>—                             | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                                     |
|        | 広建コンサルタンツ株式会社       | 八木西地区4号堰堤用地調査等業務      | 太田川河川事務所  | 湯浅 純典<br>青木 泰道<br>轡田 高士<br>高垣 安由<br>川上 勝                             | 52<br>57<br>40<br>44<br>57                   | 主任技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                            |

●『国土交通功労者』優良業務請負団体表彰（事務所長表彰）

| 表彰区分   | 会社名                   | 業務名                                  | 事務所名      | 担当技術者   |  |  |
|--------|-----------------------|--------------------------------------|-----------|---|--|--|
|        |                       |                                      |           | 氏名  | 年齢                                     | 立場   |
| 事務所長表彰 | 株式会社<br>荒谷建設コンサルタント   | 広島国道管内交通安全測量設計その2業務                  | 広島国道事務所   | 山本 悟<br>河野 秀生<br>西尾 昭二<br>稲村 啓志<br>国広 尚嗣<br>加藤 弘徳                   | —<br>—<br>—<br>—<br>—<br>—             | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                   |
|        | いであ株式会社               | 休山改良測量設計業務                           | 広島国道事務所   | 奥住 洋介<br>堀越 正和<br>藤井 登<br>松井 秀樹<br>浅利 貴之<br>高橋 恒太<br>山岸 洋明<br>岡田 光司 | —<br>—<br>—<br>—<br>—<br>—<br>—<br>—   | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者 |
|        | パシフィックコンサルタンツ<br>株式会社 | 広島国道事務所管内<br>整備効果等検討業務               | 広島国道事務所   | 関原 敏裕<br>高橋 靖弘<br>出口 忠義<br>荒本 達也<br>藤見 俊彦<br>傅 梶雄                   | 40<br>57<br>46<br>40<br>35<br>27       | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                   |
|        | 復建調査設計株式会社            | 安芸バイパス瀬野東IC橋<br>外詳細設計業務              | 広島国道事務所   | 山本 浩一<br>橋本 佳典<br>安富 泰弘<br>小方 義昭<br>森田 大也<br>藤井 智也<br>大野 陽一         | 56<br>49<br>45<br>40<br>31<br>41<br>27 | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者          |
|        | 株式会社ニュージェック           | 佐波川水系浸水解析検討<br>業務                    | 山口河川国道事務所 | 石濱 賢二<br>増田 尚弥<br>立花 邦彦<br>杉浦 英二                                    | 55<br>46<br>34<br>41                   | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                                     |
|        | 株式会社建設環境研究所           | 平成27年度佐波川水辺<br>現地調査(河川環境基図・<br>植物)業務 | 山口河川国道事務所 | 空 かおり<br>助川 直人<br>田中 敦司<br>森田 景五                                    | —<br>—<br>—<br>—                       | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                                     |
|        | 国際航業株式会社              | 苫田ダム空中写真測量<br>業務                     | 苫田ダム管理所   | 西村 大助<br>島野 宗太<br>元木 健太<br>徳岡 杜香                                    | 45<br>32<br>30<br>27                   | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                                     |
|        | いであ株式会社               | 土師ダム下流環境改善検<br>討業務                   | 土師ダム管理所   | 木村奈保子<br>中澤 泉<br>井上 健彦<br>青木健太郎                                     | —<br>—<br>—<br>—                       | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                                     |
|        | 株式会社<br>エイト日本技術開発     | 温井ダム耐震性能照査検<br>討業務                   | 温井ダム管理所   | 藤本 哲生<br>高島 哲雄<br>野谷 正明<br>福島 康宏<br>栗林健太郎                           | 37<br>51<br>47<br>41<br>31             | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者                            |

●『国土交通功労者』優良業務請負団体表彰（事務所長表彰）

| 表彰区分   | 会社名                 | 業務名                 | 事務所名             | 担当技術者   |                                  |  |
|--------|---------------------|---------------------|------------------|---|----------------------------------|--|
|        |                     |                     |                  | 氏名  | 年齢                               | 立場   |
| 事務所長表彰 | 株式会社<br>エイト日本技術開発   | 中国管内床版橋調査補修<br>検討業務 | 中国技術事務所          | 山森 誠史<br>海野 達夫<br>菅浦 迫正之<br>菅原 一彦<br>安木 清史        | 48<br>60<br>44<br>50<br>42       | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者          |
|        | いであ株式会社             | 中国管内道路構造物診断<br>業務   | 中国技術事務所          | 石山 正人<br>藤井 登<br>草野 康祐<br>都関 雄介<br>堀田 勝行<br>岡田 光司 | —<br>—<br>—<br>—<br>—<br>—       | 管理技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者 |
|        | 株式会社<br>エイト日本技術開発   | 広島港宇品地区整備検討<br>業務   | 広島港湾・空港整備<br>事務所 | 後藤 朋子<br>後藤 成秀<br>板野 誠司<br>高木 一毅<br>荻野 和剛         | 42<br>48<br>41<br>28<br>27       | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者          |
|        | 基礎地盤コンサルタンツ<br>株式会社 | 岩国港臨港道路土質調査         | 宇部港湾・空港整備<br>事務所 | 長谷川 勝喜<br>久賀 真一<br>赤坂 幸洋<br>黄 瀨<br>寺 脇 直志<br>中島 啓 | 44<br>45<br>35<br>26<br>31<br>59 | 管理技術者<br>照査技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者<br>担当技術者 |

●『国土交通功労者』優秀建設技術者表彰

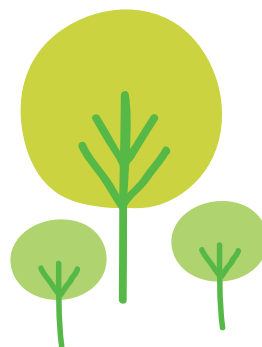
| 表彰区分 | 部門   | 氏名    | 会社名                   | 業務名                             | 事務所名      |
|------|------|-------|-----------------------|---------------------------------|-----------|
| 局長表彰 | 土木   | 浮田 健一 | 株式会社<br>荒谷建設コンサルタント   | 平成27年度日野川砂防地域自然<br>環境現地調査（植物）業務 | 日野川河川事務所  |
|      | 土木   | 竹葉 克浩 | 復建調査設計株式会社            | 山口北部地域道路網検討<br>業務               | 山口河川国道事務所 |
|      | 土木   | 高 龍   | 新日本技研株式会社             | 倉吉管内橋梁補修設計業務                    | 倉吉河川国道事務所 |
|      | 土木   | 角 義隆  | 株式会社<br>荒谷建設コンサルタント   | 中海穴道湖外測量設計業務                    | 出雲河川事務所   |
|      | 土木   | 反田 恒  | 株式会社<br>総合技術コンサルタント   | 三隅・益田道路遠田ランプ<br>橋外詳細設計業務        | 浜田河川国道事務所 |
|      | 土木   | 高根 努  | 株式会社<br>オリエンタルコンサルタンツ | 岩国大竹道路大竹トンネル<br>設計業務            | 広島国道事務所   |
|      | 港湾空港 | 石河 雅典 | パンフィックコンサルタンツ<br>株式会社 | 水島港玉島地区揚土方法等<br>検討業務            | 宇野港湾事務所   |
|      | 土木   | 中井 真司 | 復建調査設計株式会社            | 多伎朝山道路地すべり対策<br>詳細設計業務          | 松江国道事務所   |
|      | 土木   | 進藤 俊則 | 株式会社<br>エイト日本技術開発     | 平成27年度高梁川水辺現<br>地調査（鳥類）業務       | 岡山河川事務所   |
|      | 土木   | 丸山 卓志 | 株式会社ウエスコ              | 岡山国道道路情報管理業務                    | 岡山国道事務所   |

●『国土交通功労者』優秀建設技術者表彰

| 表彰区分   | 部門    | 氏名       | 会社名                 | 業務名                     | 事務所名      |
|--------|-------|----------|---------------------|-------------------------|-----------|
| 局長表彰   | 土木    | 加藤 友章    | パシフィックコンサルタンツ株式会社   | 鍵掛峠道路トンネル詳細設計業務         | 三次河川国道事務所 |
|        | 土木    | 森 克味     | いであ株式会社             | 広島西部山系祇園山本地区砂防堰堤詳細設計業務  | 太田川河川事務所  |
|        | 土木    | 山森 誠史    | 株式会社<br>エイト日本技術開発   | 中国管内床版橋調査補修検討業務         | 中国技術事務所   |
| 事務所長表彰 | 測量    | 加藤 猛史    | 株式会社<br>荒谷建設コンサルタント | 平成27年度千代川水系水文観測業務       | 鳥取河川国道事務所 |
|        | 土木    | 柴田 浩司    | シンワ技研コンサルタント株式会社    | 鳥取管内道路附属物点検業務           | 鳥取河川国道事務所 |
|        | 土木    | 古川 月士    | 株式会社<br>エイト日本技術開発   | 鳥取中部道路予備検討業務            | 倉吉河川国道事務所 |
|        | 土木    | 錦織 真樹    | 中電技術コンサルタント株式会社     | 大田・静間道路鳥井地区外構造物詳細設計業務   | 松江国道事務所   |
|        | 土木    | 松浦 寛司    | 株式会社<br>エイト日本技術開発   | 松江国道管内橋梁補修設計業務          | 松江国道事務所   |
|        | 土木    | 古本 徹     | 日本工営株式会社            | 斐伊川樋門詳細設計業務             | 出雲河川事務所   |
|        | 土木    | 池田 健司    | 株式会社<br>荒谷建設コンサルタント | 益田管内道路附属物外点検業務          | 浜田河川国道事務所 |
|        | 土木    | 岡野 隆行    | 国際航業株式会社            | 平成27年度百間川分流部周辺環境調査業務    | 岡山河川事務所   |
|        | 土木    | 海野 達夫    | 株式会社<br>エイト日本技術開発   | 玉島橋梁点検業務                | 岡山国道事務所   |
|        | 土木    | 高 龍      | 新日本技研株式会社           | 木原道路福地橋詳細設計外業務          | 福山河川国道事務所 |
|        | 土木    | 澤田 晃二    | いであ株式会社             | 芦田川水系浸水解析外検討業務          | 福山河川国道事務所 |
|        | 土木    | 松本 裕     | 株式会社<br>福山コンサルタント   | 福山管内道路計画検討業務            | 福山河川国道事務所 |
|        | 土木    | 吉津 祐子    | 株式会社<br>荒谷建設コンサルタント | 広島西部山系安佐北区外自然環境調査業務     | 太田川河川事務所  |
|        | 土木    | 井上 修     | 株式会社<br>建設環境研究所     | 太田川・温井ダム水辺現地調査(底生動物外)業務 | 太田川河川事務所  |
|        | 土木    | 山本 悟     | 株式会社<br>荒谷建設コンサルタント | 広島国道管内交通安全測量設計その2業務     | 広島国道事務所   |
|        | 土木    | 奥住 洋介    | いであ株式会社             | 休山改良測量設計業務              | 広島国道事務所   |
|        | 地質調査  | 三浦 健一郎   | 基礎地盤コンサルタンツ株式会社     | 岩国地区外地質調査業務             | 山口河川国道事務所 |
| 測量     | 西村 大助 | 国際航業株式会社 | 苫田ダム空中写真測量業務        | 苫田ダム管理所                 |           |

●『国土交通功労者』優秀建設技術者表彰

| 表彰区分       | 部門   | 氏名    | 会社名                 | 業務名               | 事務所名             |
|------------|------|-------|---------------------|-------------------|------------------|
| 事務所長<br>表彰 | 土木   | 石山 正人 | いであ株式会社             | 中国管内道路構造物診断<br>業務 | 中国技術事務所          |
|            | 港湾空港 | 長谷川勝喜 | 基礎地盤コンサルタンツ<br>株式会社 | 岩国港臨港道路土質調査       | 宇部港湾・空港整備<br>事務所 |



## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局局長表彰

#### ●浮田 健一氏

年齢：一歳

職位：株式会社荒谷建設コンサルタント  
環境部 環境調査課 係長

趣味：テニス、野外活動



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「平成27年度日野川砂防地域自然環境現地調査(植物)業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございます。業務を通してご指導・ご協力いただいた日野川河川事務所の皆様には厚く御礼を申し上げます。

本業務は、大山山系日野川水系直轄砂防区域内の7溪流において植物定期調査を行うとともに、砂防事業箇所での動植物のモニタリング調査を実施したものです。定期調査では、植物とその生育環境の観点から、調査地点の溪流環境を評価ランクで区分

し、砂防事業を実施する上での留意点や保全すべき環境をわかりやすく整理しました。また、モニタリング調査では、発注者及び学識者と密に連絡をとり情報共有を図ることで、大山の豊かな自然環境への配慮と円滑な砂防事業の推進に寄与しました。今回の表彰は、業務履行中の迅速かつ的確な対応や今後の砂防事業に活かせる成果を評価していただいたものと考えております。

今回の受賞を励みに、「人間と自然を考える」の弊社企業理念のもと、環境との調和を目指した社会資本整備に貢献するため、より一層の自己研鑽に努めていく所存です。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局局長表彰

#### ●竹葉 克浩氏

年齢：54歳

職位：復建調査設計株式会社  
総合計画部 上席エンジニア

趣味：ウォーキング



#### ●受賞業務の概要と感想

このたびは、「山口北部地域道路網検討業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務履行団体表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございます。

本業務は、山陰道(俵山～豊田間)に対し、計画段階評価及び新規事業採択時評価に関する中国地方小委員会対応と、ルート検討等を行ったものです。工期を通じて短期間での効率的な作業が必須要件となり、ビッグデータを活用した対象者の選定や、マスコミを活用した広報活動も積極的に提案しました。ルート検討では、地元自治体からのICやルートに関する要望事項等に対し、

3次元道路専用CADの活用や地質条件等に関する有識者への技術的確認等、技術的信頼性と精度の確保に努めました。その結果、新規事業化の妥当性確認を実現出来たことが、高い評価に繋がったと考えております。

この受賞を励みとし、今後もより一層の自己研鑽に励み、技術力の向上に努める所存です。最後に、山口河川国道事務及び関係者の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、私事ですが多忙な生活を支えてくれた家族に感謝します。



## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局局長表彰

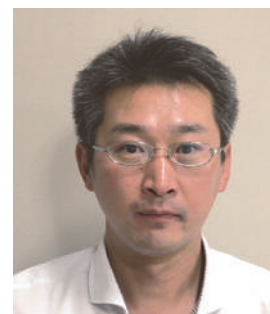
#### ●高 龍 氏

年齢：43歳

職位：新日本技研株式会社

設計部長

趣味：野球観戦、スキー



#### ●受賞業務の概要と感想

本業務は、倉吉河川国道事務所管内の国道9号の橋梁について、点検結果より速やかに補修の必要が認められた橋梁の補修設計を行ったものである。現橋調査にて損傷状況を確認し、『橋梁補修設計 統一条件』に、鋼部材、コンクリート部材、その他の部材の対策方針フローを整理して、フローに基づき各損傷の補修方針を決定した。特殊な損傷として、耐候性鋼材の腐食が挙げられ、産学官の勉強会により、悪性錆なのか、さび安定化補助処理材の劣化なのか等、大学の先生方に多くのご指導を頂き、大変勉強になりました。また今回業務では、詳細

調査の計画までであったが、耐候性鋼のさび診断技術の一つにイオン透過抵抗法があり、定量的に劣化状況を把握することが出来るため、今後の詳細調査時に活用することで、適切な補修設計が行えるものと期待している。業務全体を通して、大学の先生のみならず、発注者、点検者、診断者と、日々道路橋の維持管理に邁進されている諸先輩方に多くのご指導を頂くことができ、幅広い視野にて補修設計に取り組むことができたことがより良い成果に繋がったものと思われまます。関係者の方々に、ここに感謝の意を表します。誠に有難うございました。



## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局局長表彰

#### ●角 義隆 氏

年齢：一歳

職位：株式会社荒谷建設コンサルタント

山陰支社 技術部 次長

趣味：磯釣り



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「中海宍道湖外測量設計業務」に対し、中国地方整備局長より優秀建設技術者表彰ならびに、出雲河川事務所長より優良業務表彰を賜り、誠にありがとうございます。

本業務は、斐伊川水系中海および宍道湖における湖岸堤整備、浅場造成事業の対象箇所について詳細設計を行ったものです。このうち、湖岸堤整備箇所である江島地区では、湖岸堤整備にあたり隣接する江島港の機能補償として係船岸や船揚場等の港湾施設を含めた一連での設計が必要でした。これに対し、河川系技術者のみならず、港

湾系の技術者を含めた設計体制で業務に臨み、関係機関との協議対応や、制約条件が多い中での施工計画立案など発注者と受注者が一体となって業務に取り組み、多くの課題を解決できたことが評価されたものと考えています。

今後はこの受賞を励みに、より一層の自己研鑽と技術力の向上に努め、社会資本整備に微力ながら貢献していきたいと考えております。

最後になりましたが、出雲河川事務所の関係者の皆様にはご指導・ご協力を賜り、この場を借りて心より厚く御礼を申し上げます。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局局長表彰

#### ●反田 恒氏

年齢：43歳

職位：株式会社総合技術コンサルタント  
中国支店 技術Ⅲ部 副主幹

趣味：写真撮影、登山



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は弊社が担当した「三隅・益田道路遠田ランプ橋外詳細設計業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務履行団体表彰、優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。また、業務を通じてご指導をいただきました浜田河川国道事務所の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本業務は三隅・益田道路における「遠田ランプ橋・側道橋」の3橋の橋梁詳細設計、ならびに函渠・擁壁等の道路構造物詳細設

計、施工時迂回路の道路詳細設計を行ったものであります。現地の制約が多い中、工区全体の施工ステップの調整を含めた橋梁計画を立案し、関係機関との合意など種々の問題に対して早急な検討の実施や提案を行い、発注者と受注者が一体となって取り組みながら課題を解決できたことが評価されたものと考えております。

今後はこの表彰を励みにより一層の努力と、皆様に信頼されるよう真摯な対応と技術力の向上に努めてまいります。



## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局局長表彰

#### ●高根 努氏

年齢：47歳

職位：株式会社オリエンタルコンサルタンツ  
事業本部 関西支店 国土技術部 次長

趣味：家族との外出



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、「岩国大竹道路大竹トンネル設計業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務表彰ならび優秀技術者表彰を賜り、厚く御礼申し上げます。

本業務は、大竹トンネルが抱える諸問題を検討し、工事発注図書をまとめることを目的とした業務です。起点側坑口付近で大竹断層（活断層）の存在が懸念されたため、まずはレーザープロファイラーによる3次元測量図を実施し、弱線を洗い出し直しました。その結果をもとに数日間現地で断層探しをし、トンネル内での断層交差を避ける坑口位置を選定しました。一方、終点側坑口付近ではトンネル内を地すべり面が分

断することが懸念されました。施工ヤードの確保も必要でしたので、三次元地すべり解析で面的なすべり影響を確認しながら排土と深礎杭の組合せを設定しました。坑奥で交差する工業用隧道の目視調査は貴重な経験でしたが、管理者の皆様にもご協力いただき、対応方針をまとめることができました。最後になりましたが、ご指導を賜りました広島国道事務所、呉高専の森脇教授他、関係者の方々には心よりお礼を申し上げます。今回の受賞を励みに、より一層の自己研鑽に努め、社会資本整備に貢献してまいりたいと思います。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局局長表彰

#### ●石河 雅典氏

年齢：48歳

職位：パシフィックコンサルタンツ株式会社  
大阪国土保全事業部 副部長

趣味：カラオケ、飲み会



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、「水島港玉島地区揚土方法等検討業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務請負団体表彰及び優秀建設技術者表彰を賜り、誠に光栄に存じます。ご発注者である宇野港湾事務所様のご指導を始め、ヒアリングにご協力いただきました皆様ならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本業務は、水島港玉島地区において発生する浚渫土を民間用地へ受け入れるための最適な揚土方法と、受入れ容量の最大化を図るための築堤計画及びその安定性の検討

を実施したものです。

今回の業務で最も苦労した点は、現埋土地の下に厚く堆積している沖積粘性土の物性評価と受入れ容量が最大となる築堤の配置計画でした。これらを当初工程通りに完遂させることができ、将来の浚渫計画に目処を立てることができたことをご評価いただいたものと考えております。

今回の受賞を励みに、今後もより一層の自己研鑽と技術力の向上に努め、国民の安全を確保し安心して暮らせる社会インフラを提供し続けていく所存です。



## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局局長表彰

#### ●中井 真司氏

年齢：49歳

職位：復建調査設計株式会社  
防災部 砂防技術課 課長

趣味：ドライブ、歌唱、野球観戦



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施いたしました「多伎朝山道路地すべり対策詳細設計業務」に対し、中国地方整備局長より優秀技術者表彰、松江国道事務所長より優良業務表彰を賜り、誠にありがとうございました。業務にあたり終始適切にご指導ご鞭撻下さった松江国道事務所の関係者の皆様には、心より御礼申し上げます。

本業務は、施工中の多伎・朝山道路で発生した大規模な地すべりの対策工を設計したものです。設計にあたっては、地すべりの発生メカニズムを十分把握し、排土工、集水井工、横ボーリング工、鋼管杭工、グラウンドアンカー工を効果的に配置し、道

路供用後も長期間にわたって安全を確保できるよう配慮しました。また、施工中に地すべりが変動することの無いよう、施工計画にも細心の注意を払いました。

本業務では、「山陰道地すべり対策検討委員会」を通して、多くの学識者に的確な助言を頂くことができたことも幸運でした。おかげさまで私自身も大変勉強になり、より良い成果に繋がったものと思います。

今回の受賞を励みに、社員一丸となって、さらなる技術力の向上に努め、安全・安心な社会づくりに貢献していく所存です。今後とも、宜しくお願い申し上げます。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局局長表彰

#### ●進藤 俊則 氏

年齢：58歳

職位：株式会社エイト日本技術開発  
グループマネージャー

趣味：アウトドア（キャンプ、釣り）、テニス、旅行



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、「高梁川水辺現地調査（鳥類業務）」に対し、優良業務表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。

本業務は、河川水辺の国勢調査の一環として、高梁川及び小田川の直轄管理区間における鳥類の生息実態調査及び全体調査計画書の見直し検討を行ったものです。鳥類調査では、環境特性と鳥類の生態に留意した調査地点と調査日を設定し、スポットセンサス（両岸1kmピッチ、10分間観察）調査、集団分布地（ねぐら、繁殖地）調査の

ほか、生息情報に基づく夜間調査を実施し、調査精度の向上を図りました。

また、工程管理において発注者との密なコミュニケーションを図り、業務を円滑に遂行したことが高く評価されたものと考えております。

この受賞を励みに、自己研鑽とグループ内の技術力の向上に努めるとともに、今後とも環境の保全に貢献していく所存です。また、業務を通じてご指導を賜りました岡山河川事務所の関係者の皆様には、心より厚く御礼を申し上げます。



## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局局長表彰

#### ●丸山 卓志 氏

年齢：60歳

職位：株式会社ウエスコ  
施工管理事業部 部長

趣味：ドライブ、ゴルフ



#### ●受賞業務の概要と感想

このたびは、弊社が実施しました「岡山国道道路情報管理業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務請負団体表彰ならびに優秀建設技術者表彰を頂き、誠にありがとうございます。業務期間中、ご指導賜りました岡山国道事務所及び関係者の皆様には、厚く御礼申し上げます。

本業務は、岡山国道事務所管内道路の適切な管理を実施するため、道路に関する監視、情報収集、連絡、情報提供等の道路情報管理を目的としたものです。このため、事故、災害、異常気象時時において的確な状況把握を行うことで、正確かつ迅速な道路情報の管理・運用を併せて実施しました。

業務の実施体制としては、各時間帯1人で1日3交代の勤務とし、予備人員を含めて6人体制で1年間行いました。また、業務内容は、一般通行者、工事業者、関係機関から入った情報を関係者へ迅速に伝達することや、道路情報板による情報提供等を行ったものです。この管理部門業務の重要性に対して評価していただいたことに感謝いたします。

今後もより一層の自己研鑽と技術力の向上に努め、道路利用者に対して事故情報・工事情報・災害情報等を正確かつ迅速に提供できるよう今後も日々努力していく所存です。ありがとうございました。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局局長表彰

#### ●加藤 友章 氏

年齢：49歳

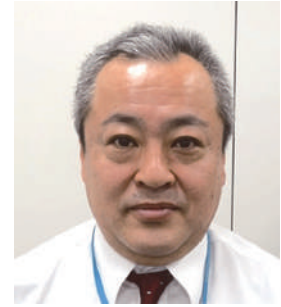
職位：パシフィックコンサルタンツ株式会社  
大阪交通基盤事業部  
チーフ・プロジェクトマネージャー

趣味：読書

#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、「鍵掛峠道路トンネル詳細設計業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務請負団体表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠に光栄に存じます。関係者の皆様をはじめ、業務を通してご指導下さいました三次河川国道事務所の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

本業務は、三次河川国道事務所管内の一般国道183号(鍵掛峠道路)に位置するトンネルの詳細設計と関連する擁壁工・法面工設計や砂防施設概略検討を行った業務で、トンネルは延長3km以上、縦断勾配4.877%と非常に急勾配な長大トンネルです。従って、トンネル内の安全対策やトンネル施工に伴う



地下水環境への影響等の整理、また本線および既設道路への影響を考慮した両坑口付近の渓流に対する砂防施設概略検討を行うとともに、長大トンネルに対する諸設備検討やトンネル本体のみではなく前後の土工を含めた全体施工計画を立案しました。

設計・施工・積算・維持管理を考慮した合理的・効率的な業務の遂行、および合理的な設計による「高品質」な成果を評価して頂いたものと考えております。

今回の受賞を励みとし、今後とも一層の自己研鑽と技術力の向上に努め、インフラの安全、安心を国民の皆様提供し続けられるよう努力を続けていく所存です。



## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局局長表彰

#### ●森 克味 氏

年齢：45歳

職位：いであ株式会社  
建設統括本部 水圏事業部  
砂防設計センター センター長

趣味：釣り・ゴルフ

#### ●受賞業務の概要と感想

この度は弊社が実施しました「広島西部山系祇園山本地区詳細設計業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務表彰ならびに優良建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございます。業務期間中、ご指導賜りました太田川河川事務所の関係者の皆様には心より厚く御礼を申し上げます。

本業務は広島西部山系管内の祇園山本地区において土石流危険渓流の砂防堰堤詳細設計及び管理用道路の詳細設計を行ったものです。祇園山本地区は平成26年8月20日に大きな被害はなかったものの土石流が発生し、下流へ土砂が流出しました。



本業務においては関係機関が多く、広島市や地権者及び用水組合等の協議が数多く実施され、協議には見やすくわかりやすい資料を提供しました。また、当社セスナで撮影した写真の提供や斜面崩壊シミュレーション、土石流氾濫シミュレーションにより、どの渓流からどのように土石流が発生・流下するか、3次元の動画を作成し、資料を提供したことなどが高く評価されたものと思っております。

この受賞を励みに人々が安全・安心して暮らせるよう、社会資本整備に貢献するため、技術力の向上をめざし、自己研鑽に努めていきたいと思っております。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局局長表彰

#### ●山森 誠史氏

年齢：48歳

職位：株式会社エイト日本技術開発  
グループマネージャー

趣味：ゴルフ



#### ●受賞業務の概要と感想

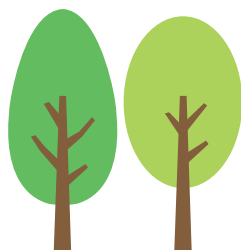
この度は、弊社が実施しました「中国管内床版橋調査補修検討業務」に対し、中国地方整備局より優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。

本業務は、中国地方整備局が管理するRC中空床版橋の31橋を対象とし、ポイド異常箇所を非破壊にて探査（画像解析）し、調査の結果をもとに診断および床版補修概略検討を行ったものです。本業務では、調査における現場作業の効率化および調査結果の精度向上を目的に、高速走行時が可能な3D電磁波レーダー探査車（ロードスキャンビークル）を採用しました。

このロードスキャンビークルの採用は、現場調査での大幅な工期短縮と安全確保を

可能にするとともに、当業務の課題でありました多数の橋梁群に対する画像解析を、効率的に3Dにより処理し精度よくポイド異常箇所の特定を可能にしました。このような課題への迅速な対応とともに発注者との密なコミュニケーションを図り、円滑に業務を遂行したことが高く評価されたものと考えております。

この受賞を励みに、更に向上心を持って自己研鑽に努めるとともに、今後とも安全・安心な社会の実現に貢献していく所存です。また、業務を通じてご指導を賜りました中国技術事務所の関係者の皆様には、心より厚く御礼を申し上げます。



## ■ 平成28年度災害時対応演習

災害時対応演習は、「災害時行動計画」に基づき、災害対策本部、災害対策現地本部、並びに各災害対策支部が参加して、大災害の発生を想定して演習を行いました。本年度は新潟県南西沖（震源地：佐渡西方から糸魚川市沖合にかけての震源）において大規模地震・津波が発生

した場合を想定して、災害対策中国支部を設置、地震発生時における災害対策が円滑に遂行され、協会会員並びに被災地域の要請に対して的確に対応することを目的に実施しました。中国支部内では会員会社へ被災状況報告依頼を行いました。

### 地震発生概要

発生日時：平成28年9月1日（木）11：00

発生地域：新潟県南西沖（震源地：佐渡西方から糸魚川市沖合にかけての震源）

発生規模：マグニチュード7.7震度6弱（佐渡地域、上越市、柏崎市、他）

津波警報（北陸地方日本海沿岸地域）

被災状況：人的被害：死者19名、負傷者2,785名、避難者5,054名

家屋被害、道路被害、鉄道施設被害、河川被害、ライフライン被害に大規模被害発生

### 演習の主目的

中国支部と本部、北陸現地本部との情報伝達機能のチェック

中国支部の会員各社との情報伝達機能のチェック

情報伝達様式の統一を図る



## 講習会等

### ●建設関連5団体共催独禁法講習会

開催日：平成28年10月20日（木）

場 所：広島県民文化センター

主 催：建設コンサルタンツ協会中国支部、  
日本補償コンサルタント協会、全  
国上下水道コンサルタント協会中  
国・四国支部、全測連中国地区協  
議会、中国地質調査業協会

内 容：・独占禁止法の遵守について  
公正取引委員会事務総局近畿中国  
四国事務所中国支社  
総務課 井上 裕之 氏

・国土交通省の業務に関する最近  
の話題について

中国地方整備局企画部

技術管理課長 井上 和久 氏

参加者：232名（中国支部73名）

事業者が行う経済取引における公正な競争の  
促進に必要な“独占禁止法上の遵守事項等”を

再認識し、不祥事を未然に防止することを目的  
に平成6年度から実施しています。



### ●建設技術フォーラム2016 in 広島

「建設技術フォーラム2016 in 広島」は、平成  
28年11月11日（金）～11月12日（土）に広島中  
央公園において開催されました。

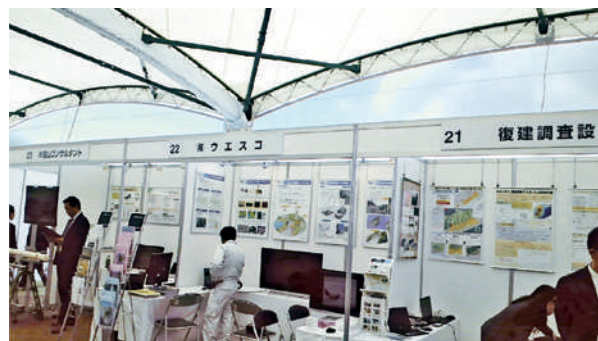
「地域づくりを支える建設技術」～動き始め

た『i-Construction』～をテーマとして、地域  
づくり、防災減災、建設リサイクルを軸に62ブ  
ース（13団体、1大学、63社）に出展され、11社  
のセミナー発表も行われました。

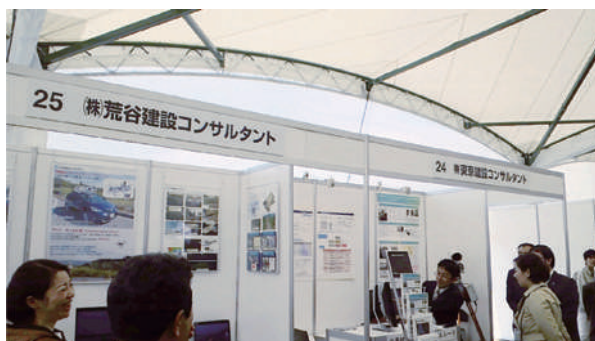
協会からは協会員5社が出展しました。



建設技術フォーラムに出展した会員企業



建設技術フォーラムに出展した会員企業



建設技術フォーラムに出展した会員企業



## RCCM資格試験

### ●RCCM登録更新講習会

平成28年度RCCM登録更新講習会会場別受講人数

| 講習会場  |       | 申込           |              | 受講           |              |
|-------|-------|--------------|--------------|--------------|--------------|
|       |       | 会場別集計        | 地区別集計        | 会場別集計        | 地区別集計        |
| 札幌午前  | (001) | 198          | 443          | 198          | 443          |
| 札幌午後  | (002) | 245          |              | 245          |              |
| 仙台午前  | (003) | 263          | 532          | 265          | 531          |
| 仙台午後  | (004) | 269          |              | 266          |              |
| 新潟    | (005) | 113          | 113          | 113          | 113          |
| 東京1午前 | (006) | 258          | 1,326        | 258          | 1,313        |
| 東京1午後 | (007) | 268          |              | 266          |              |
| 東京2午前 | (008) | 252          |              | 249          |              |
| 東京2午後 | (009) | 262          |              | 262          |              |
| 東京3午前 | (010) | 127          |              | 124          |              |
| 東京3午後 | (011) | 159          |              | 154          |              |
| 名古屋午前 | (012) | 259          | 519          | 257          | 512          |
| 名古屋午後 | (013) | 260          |              | 255          |              |
| 大阪1午前 | (014) | 266          | 868          | 266          | 867          |
| 大阪1午後 | (015) | 288          |              | 288          |              |
| 大阪2午前 | (016) | 138          |              | 138          |              |
| 大阪2午後 | (017) | 176          |              | 175          |              |
| 高松午前  | (018) | 181          | 330          | 180          | 329          |
| 高松午後  | (019) | 149          |              | 149          |              |
| 広島午前  | (020) | 195          | 460          | 193          | 454          |
| 広島午後  | (021) | 265          |              | 261          |              |
| 福岡1午前 | (022) | 268          | 833          | 268          | 831          |
| 福岡1午後 | (023) | 282          |              | 282          |              |
| 福岡2午前 | (024) | 130          |              | 129          |              |
| 福岡2午後 | (025) | 153          |              | 152          |              |
| 那覇    | (026) | 195          | 195          | 190          | 190          |
| 総計    |       | <b>5,619</b> | <b>5,619</b> | <b>5,583</b> | <b>5,583</b> |

●平成28年度RCCM資格試験実施結果

平成28年度 R C C M試験 部門別・受験地別受験者数合格率

| 部門<br>コード | 部門名           | 札幌  |     |       | 仙台  |     |       | 東京   |     |      | 名古屋 |     |      | 大阪  |     |       |
|-----------|---------------|-----|-----|-------|-----|-----|-------|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-------|
|           |               | 受験者 | 合格者 | 合格率   | 受験者 | 合格者 | 合格率   | 受験者  | 合格者 | 合格率  | 受験者 | 合格者 | 合格率  | 受験者 | 合格者 | 合格率   |
| 01        | 河川、砂防及び海岸・海洋  | 51  | 17  | 33.3  | 89  | 32  | 36.0  | 135  | 46  | 34.1 | 95  | 37  | 38.9 | 141 | 53  | 37.6  |
| 02        | 港湾及び空港        | 5   | 2   | 40.0  | 9   | 5   | 55.6  | 39   | 15  | 38.5 | 9   | 2   | 22.2 | 13  | 4   | 30.8  |
| 03        | 電力土木          | 1   |     | 0.0   | 1   |     | 0.0   | 8    | 3   | 37.5 | 2   |     | 0.0  | 3   | 1   | 33.3  |
| 04        | 道路            | 110 | 34  | 30.9  | 127 | 25  | 19.7  | 298  | 72  | 24.2 | 162 | 37  | 22.8 | 167 | 41  | 24.6  |
| 05        | 鉄道            | 1   | 1   | 100.0 | 1   |     | 0.0   | 6    | 3   | 50.0 | 2   |     | 0.0  | 2   |     | 0.0   |
| 06        | 上水道及び工業用水道    | 10  | 5   | 50.0  | 20  | 10  | 50.0  | 55   | 12  | 21.8 | 27  | 12  | 44.4 | 61  | 23  | 37.7  |
| 07        | 下水道           | 5   | 4   | 80.0  | 23  | 8   | 34.8  | 84   | 27  | 32.1 | 29  | 8   | 27.6 | 39  | 13  | 33.3  |
| 08        | 農業土木          | 24  | 7   | 29.2  | 29  | 8   | 27.6  | 36   | 19  | 52.8 | 33  | 16  | 48.5 | 14  | 9   | 64.3  |
| 09        | 森林土木          | 5   | 2   | 40.0  | 4   |     | 0.0   | 26   | 10  | 38.5 | 18  | 5   | 27.8 | 14  | 5   | 35.7  |
| 10        | 造園            | 3   |     | 0.0   | 4   | 2   | 50.0  | 20   | 6   | 30.0 | 9   | 3   | 33.3 | 9   | 2   | 22.2  |
| 11        | 都市計画及び地方計画    | 4   | 1   | 25.0  | 27  | 16  | 59.3  | 63   | 20  | 31.7 | 36  | 16  | 44.4 | 45  | 16  | 35.6  |
| 12        | 地質            | 3   |     | 0.0   | 16  | 9   | 56.3  | 29   | 12  | 41.4 | 15  | 3   | 20.0 | 20  | 6   | 30.0  |
| 13        | 土質及び基礎        | 27  | 8   | 29.6  | 55  | 22  | 40.0  | 67   | 24  | 35.8 | 53  | 18  | 34.0 | 52  | 19  | 36.5  |
| 14        | 鋼構造及びコンクリート   | 85  | 36  | 42.4  | 82  | 32  | 39.0  | 199  | 89  | 44.7 | 120 | 49  | 40.8 | 146 | 55  | 37.7  |
| 15        | トンネル          | 5   | 2   | 40.0  | 7   | 3   | 42.9  | 27   | 13  | 48.1 | 20  | 10  | 50.0 | 12  | 10  | 83.3  |
| 16        | 施工計画、施工設備及び積算 | 12  | 4   | 33.3  | 33  | 7   | 21.2  | 81   | 17  | 21.0 | 27  | 9   | 33.3 | 58  | 13  | 22.4  |
| 17        | 建設環境          | 17  | 7   | 41.2  | 13  | 6   | 46.2  | 51   | 23  | 45.1 | 13  | 8   | 61.5 | 33  | 11  | 33.3  |
| 18        | 機械            | 1   | 1   | 100.0 |     |     |       | 11   | 4   | 36.4 | 7   | 6   | 85.7 | 6   | 2   | 33.3  |
| 19        | 水産土木          | 11  | 4   | 36.4  | 8   | 6   | 75.0  | 6    | 5   | 83.3 |     |     |      | 3   | 3   | 100.0 |
| 20        | 電気電子          | 5   |     | 0.0   | 9   | 3   | 33.3  | 49   | 12  | 24.5 | 8   | 4   | 50.0 | 28  | 6   | 21.4  |
| 21        | 廃棄物           |     |     |       | 2   | 2   | 100.0 | 6    | 4   | 66.7 | 2   |     | 0.0  | 4   | 1   | 25.0  |
| 22        | 建設情報          | 8   | 4   | 50.0  | 3   |     | 0.0   | 33   | 12  | 36.4 | 6   | 4   | 66.7 | 7   | 3   | 42.9  |
|           | 総計            | 393 | 139 | 35.4  | 562 | 196 | 34.9  | 1329 | 448 | 33.7 | 693 | 247 | 35.6 | 877 | 296 | 33.8  |

| 部門<br>コード | 部門名           | 広島  |     |       | 高松  |     |       | 福岡   |     |      | 沖縄  |     |      | 総計   |      |      |
|-----------|---------------|-----|-----|-------|-----|-----|-------|------|-----|------|-----|-----|------|------|------|------|
|           |               | 受験者 | 合格者 | 合格率   | 受験者 | 合格者 | 合格率   | 受験者  | 合格者 | 合格率  | 受験者 | 合格者 | 合格率  | 受験者  | 合格者  | 合格率  |
| 01        | 河川、砂防及び海岸・海洋  | 75  | 24  | 32.0  | 73  | 29  | 39.7  | 206  | 58  | 28.2 | 2   | 1   | 50.0 | 867  | 297  | 34.3 |
| 02        | 港湾及び空港        | 10  | 3   | 30.0  | 7   |     | 0.0   | 36   | 12  | 33.3 | 7   | 2   | 28.6 | 135  | 45   | 33.3 |
| 03        | 電力土木          | 3   | 2   | 66.7  | 3   | 2   | 66.7  | 6    | 2   | 33.3 |     |     |      | 27   | 10   | 37.0 |
| 04        | 道路            | 70  | 19  | 27.1  | 101 | 32  | 31.7  | 259  | 83  | 32.0 | 50  | 13  | 26.0 | 1344 | 356  | 26.5 |
| 05        | 鉄道            |     |     |       | 1   | 1   | 100.0 | 5    | 4   | 80.0 |     |     |      | 18   | 9    | 50.0 |
| 06        | 上水道及び工業用水道    | 14  | 6   | 42.9  | 30  | 5   | 16.7  | 44   | 14  | 31.8 | 16  | 1   | 6.3  | 277  | 88   | 31.8 |
| 07        | 下水道           | 16  | 2   | 12.5  | 27  | 10  | 37.0  | 43   | 18  | 41.9 | 15  | 5   | 33.3 | 281  | 95   | 33.8 |
| 08        | 農業土木          | 15  | 4   | 26.7  | 13  | 3   | 23.1  | 72   | 36  | 50.0 | 12  | 1   | 8.3  | 248  | 103  | 41.5 |
| 09        | 森林土木          | 8   | 4   | 50.0  | 4   | 2   | 50.0  | 18   | 8   | 44.4 | 1   |     | 0.0  | 98   | 36   | 36.7 |
| 10        | 造園            | 2   | 2   | 100.0 | 1   | 1   | 100.0 | 5    | 4   | 80.0 | 1   |     | 0.0  | 54   | 20   | 37.0 |
| 11        | 都市計画及び地方計画    | 12  | 6   | 50.0  | 11  | 8   | 72.7  | 31   | 15  | 48.4 | 9   | 1   | 11.1 | 238  | 99   | 41.6 |
| 12        | 地質            | 13  | 6   | 46.2  | 9   | 6   | 66.7  | 33   | 17  | 51.5 | 2   | 1   | 50.0 | 140  | 60   | 42.9 |
| 13        | 土質及び基礎        | 31  | 13  | 41.9  | 40  | 16  | 40.0  | 103  | 27  | 26.2 | 19  | 7   | 36.8 | 447  | 154  | 34.5 |
| 14        | 鋼構造及びコンクリート   | 60  | 25  | 41.7  | 63  | 25  | 39.7  | 150  | 68  | 45.3 | 10  | 3   | 30.0 | 915  | 382  | 41.7 |
| 15        | トンネル          | 10  | 6   | 60.0  | 3   | 1   | 33.3  | 26   | 11  | 42.3 |     |     |      | 110  | 56   | 50.9 |
| 16        | 施工計画、施工設備及び積算 | 11  | 3   | 27.3  | 15  | 5   | 33.3  | 46   | 10  | 21.7 | 26  | 6   | 23.1 | 309  | 74   | 23.9 |
| 17        | 建設環境          | 9   | 5   | 55.6  | 15  | 4   | 26.7  | 22   | 10  | 45.5 | 9   | 5   | 55.6 | 182  | 79   | 43.4 |
| 18        | 機械            | 2   | 2   | 100.0 | 1   | 1   | 100.0 | 3    | 1   | 33.3 |     |     |      | 31   | 17   | 54.8 |
| 19        | 水産土木          | 1   | 1   | 100.0 | 1   |     | 0.0   | 6    | 4   | 66.7 | 2   |     | 0.0  | 38   | 23   | 60.5 |
| 20        | 電気電子          | 6   | 2   | 33.3  | 1   | 1   | 100.0 | 13   | 5   | 38.5 | 3   |     | 0.0  | 122  | 33   | 27.0 |
| 21        | 廃棄物           |     |     |       | 2   | 2   | 100.0 | 1    |     | 0.0  |     |     |      | 17   | 9    | 52.9 |
| 22        | 建設情報          | 2   | 1   | 50.0  | 2   |     | 0.0   | 6    | 2   | 33.3 |     |     |      | 67   | 26   | 38.8 |
|           | 総計            | 370 | 136 | 36.8  | 423 | 154 | 36.4  | 1134 | 409 | 36.1 | 184 | 46  | 25.0 | 5965 | 2071 | 34.7 |

## 若手技術者の会の設立

協会本部では、総務委員会のWGとして「業界展望を考える若手技術者の会（通称：本部若手の会）」を平成27年4月に設立し、若手技術者が業界の諸問題や将来像、改善行動について議論を交わし、魅力ある建設コンサルタント業界を実現するために行動することを目的として活動しています。また、これまでに北陸支部（平成27年8月）、関東支部（平成27年12月）、九州支部（平成28年5月）、近畿支部（平成28年10月）の若手技術者との交流会を開催し、平成29年6月には東北支部との交流会を予定しています。

中国支部においても、若手技術者が集い、業界の将来像や担い手確保などについて議論する場として、「若手技術者の会」を設立することとし、中国支部の会員企業に属する20～30代の若手技術者を対象に公募したところ、9社17名の応募がありました。

11～12月に2回の会議を実施し、建設コンサルタント業界を活性化させるべく、「業界PR」及び「生産性向上」をテーマに、今後の活動を進めていくことが決定しました。また、本部若手の会や各支部との連携を図り、若手が一丸となって業界を活性化させる一大ムーブメントを起こしていく所存です。

### ●第1回若手技術者の会

開催日：平成28年11月24日（木）  
場 所：日本技術士会中国本部会議室  
議 題：設立経緯説明、本部・各支部の活動状況について、今後の活動について

### ●第2回若手技術者の会

開催日：平成28年12月19日（月）  
場 所：日本技術士会中国本部会議室  
議 題：活動テーマについて ほか

### 中国支部若手技術者の会メンバー（敬称略）

| 氏 名   | 会 社 名           | 備考  |
|-------|-----------------|-----|
| 小田 優佳 | ㈱荒谷建設コンサルタント    |     |
| 浅野 拓馬 | ㈱荒谷建設コンサルタント    |     |
| 若松 恭一 | ㈱ウエスコ           | 副代表 |
| 八田 将希 | ㈱ウエスコ           |     |
| 長松 寛泰 | ㈱宇部建設コンサルタント    |     |
| 井藤理一郎 | ㈱宇部建設コンサルタント    |     |
| 高木 一毅 | ㈱エイト日本技術開発      |     |
| 千野 駿也 | ㈱エイト日本技術開発      |     |
| 笹間 将平 | シンワ技研コンサルタント(株) |     |
| 杉原 成満 | 中電技術コンサルタント(株)  |     |
| 桑田 志保 | 中電技術コンサルタント(株)  | 代表  |
| 久場 貴博 | ㈱ヒロコン           |     |
| 坂本 弘樹 | ㈱ヒロコン           |     |
| 木俣 圭佑 | ㈱ヒロコン           | 副代表 |
| 船本 洋司 | ㈱福山コンサルタント      |     |
| 天野 佑介 | 復建調査設計(株)       |     |
| 森 三千浩 | 復建調査設計(株)       |     |



若手技術者の会のメンバー（第1回会議）

## 建コン中国支部ホームページリニューアル検討中!!

パシフィックコンサルタンツ株式会社 中国支社  
岡本 和也

現在、中国支部総務部会にて『建コン協会中国支部HPリニューアル』を検討中。

全国の建コン各支部はホームページを開設されていますが、我が中国支部のホームページは見栄えが劣っていることが長年の課題であった

ため、今般の社会情勢における本業界の魅力向上やコンサルタントの価値向上に少しでも寄与させるべく、ホームページリニューアルに踏み切るための検討会を開始しました。

### ◆中国支部HP



### ◆他支部HP（北海道支部）



### ◆他支部HP（中部支部）



そこで、僭越ながら、わたくしが検討会のリーダーを務めさせて頂くこととなり、平成28年10月から総務部会の所属企業から若手精鋭を

選出して『検討会』を作り、総務部会12名（事務局含む）、検討メンバー 9名の全21名で鋭意進行中です。



◆HPリニューアル検討会 メンバー表

| No. | 役名                  | 所属                  | 氏名    |
|-----|---------------------|---------------------|-------|
| 1   | 総務部会 部会長            | 復建調査設計(株)           | 來山 尚義 |
| 2   | 総務部会 委員             | ㈱荒谷建設コンサルタント        | 山中 俊二 |
| 3   | 総務部会 委員             | いであ(株)              | 杉山 文敏 |
| 4   | 総務部会 委員             | ㈱エイト日本技術開発          | 小谷 浩治 |
| 5   | 総務部会 委員             | 中電技術コンサルタント(株)      | 河野 清  |
| 6   | 総務部会 委員             | ㈱長大                 | 香川昭之介 |
| 7   | 総務部会 委員 (HP検討会リーダー) | パシフィックコンサルタンツ(株)    | 岡本 和也 |
| 8   | 総務部会 鳥取県委員長         | アサヒコンサルタント(株)       | 隅 万紀夫 |
| 9   | 総務部会 島根県委員長         | ㈱ウエスコ               | 福井 一彦 |
| 10  | 総務部会 岡山県委員長         | ㈱エイト日本技術開発          | 岩本 万克 |
| 11  | 総務部会 山口県委員長         | ㈱宇部建設コンサルタント        | 鷹羽 慎治 |
| 12  | 総務部会 事務局            | (一社)建設コンサルタンツ協会中国支部 | 長岡 隆  |
| 13  | 検討メンバー              | 復建調査設計(株)           | 桑田幸志朗 |
| 14  | 検討メンバー              | ㈱荒谷建設コンサルタント        | 山本 直孝 |
| 15  | 検討メンバー              | ㈱荒谷建設コンサルタント        | 渡部 宗広 |
| 16  | 検討メンバー              | いであ(株)              | 神原 真  |
| 17  | 検討メンバー              | ㈱エイト日本技術開発          | 高木 一毅 |
| 18  | 検討メンバー              | 中電技術コンサルタント(株)      | 高田 禮榮 |
| 19  | 検討メンバー              | ㈱長大                 | 山光 涼平 |
| 20  | 検討メンバー              | ㈱長大                 | 宇都宮義人 |
| 21  | 検討メンバー              | パシフィックコンサルタンツ(株)    | 津田 陽平 |

本検討会の協議では、何のために、誰に見てもらいたいか、どう使うか、を根本から考えてリニューアル仕様を検討しています。

同時に、運用面も活発に更新されるHPを目指して検討を進めています。

今後のスケジュールは、平成29年度早期に

HP構成を取得し、本開始運用に向けて『開始・運用検討会』を開設し、平成29年度内にはお披露目できるように進めていきます。

おおお!!という期待に沿えるようにメンバー全員で誠意努力していきますので、ご理解いただけますと幸いです。

◆検討会資料から抜粋

**5.スケジュール 第1回**

● 検討段階

| 開催   | 議題                  |
|------|---------------------|
| 第1段階 | 現状確認の共有(目指すもゴールの共有) |
| 第2段階 | 仕様について(何を掲載するか:機能)  |
| 第3段階 | 仕様について(何を掲載するか:構成)  |
| 第4段階 | 運用の協議(誰がオペレーションするか) |
| 第5段階 | 発注スペック完成            |

**中国支部HPの問題点 第2回**

- 更新不足による動脈硬化
  - 構造的な問題による更新不足
  - 情報が古いままで活用されない
  - 悪循環となっている

↓

**情報の更新を容易に実施が必須  
今解決しないと将来同じことが繰り返される**

## 官民合同新年互礼会

平成29年官民合同新年互礼会は、1月4日（水）リーガロイヤルホテル広島において開催されました。国歌斉唱で始まり、広島県建設工業協会の檜山会長の新年挨拶に続き、来賓の中国地方整備局長、広島県土木建築局長、広島市道路交通局長、広島高速道路公社理事長及び西

日本高速道路㈱中国支社長の挨拶が行われました。本年は建設業界にとって明るい期待の持てる1年となりますように祝宴が行われ、建設コンサルタント協会小田支部長の万歳三唱をもって閉会されました。（参加者：500名）



官民合同新年互礼会 小田支部長の万歳三唱



## 業務部会の開催

### ●第1回業務部会

開催日：平成28年5月30日（月）  
 場 所：日本技術士会中国本部会議室  
 内 容：中国地方ブロック意見交換会の開催  
 について  
 各発注機関との意見交換会の議題に  
 ついて

### ●第2回業務部会

開催日：平成28年9月6日（火）  
 場 所：日本技術士会中国本部会議室  
 内 容：発注機関との意見交換会の議題「要  
 望と提案」について

### ●第3回業務部会

開催日：平成29年2月14日（火）  
 場 所：日本技術士会中国本部会議室  
 内 容：平成29年度「建設コンサルタントの  
 要望と提案」における中国支部の意  
 見について

## 平成28年度 意見交換会実施概要

| 意見交換実施先  | 発注者側出席者  | 建コン側出席者   |
|--|--|---|
| 1. 中国地方ブロック<br>（中国地方整備局・<br>中国5県・広島市・<br>岡山市）<br>（H28.7.7） | 〈中国地方整備局〉<br>丸山局長<br>川嶋副局長、瀬良副局長<br>企画部長、河川部長、道路部長<br>港湾空港部長、営繕部長、技術調<br>整管理官<br>技術開発調整官、技術管理課長<br>〈各県・広島市・岡山市〉<br>鳥取県県土整備部長<br>島根県土木部技術管理課長<br>岡山県土木部技術総括監<br>広島県土木建築局土木整備部長<br>広島県土木建築局技術企画課技術<br>管理担当監<br>山口県土木建築部技術管理課長<br>岡山市都市整備局統括審議監<br>広島市都市整備局次長 | 〈建コン協本部〉<br>長谷川会長<br>村田副会長<br>常任理事（総務部会長）<br>常任理事（技術部会長）<br>常任理事（情報部会長）<br>常任理事（資格・CPD部会長）<br>対外活動部会委員、常任委員長、常<br>務幹事<br>参与・企画部長、業務部長、企画部<br>次長<br>〈中国支部〉<br>小田支部長<br>末國副支部長、小谷副支部長<br>來山総務部会長、林業務部会長<br>業務委員 15名 |

| 意見交換実施先                  | 発注者側出席者  | 建コン側出席者  |
|--------------------------|--|--|
| 2. 中国地方整備局<br>(H28.11.8) | 吉田企画部長<br>企画部技術調整管理官<br>企画部技術開発調整官<br>企画部技術管理課長<br>企画部技術管理課長補佐<br>企画部建設専門官   | 小田支部長<br>末國副支部長<br>小谷副支部長<br>來山総務部会長<br>林業務部会長<br>吉岡業務副部会長<br>業務委員 14名 |
| 3. 広島県<br>(H28.11.10)    | 建設産業課長、建設産業課主査<br>技術企画課技術管理担当監、技術<br>企画課主査<br>道路整備課参事、河川課参事<br>砂防課主幹、土砂法指定推進担当<br>参事<br>港湾漁港整備課主査、都市計画課<br>主査<br>下水道公園課参事、農林整備管理<br>課主査<br>土地整備課参事、水道課主幹 | 小田支部長<br>來山総務部会長<br>林業務部会長<br>吉岡業務副部会長<br>業務委員 11名                     |
| 4. 岡山県<br>(H28.11.15)    | 三村土木部長<br>技術総括監<br>技術管理課長<br>技術管理課参事   | 小谷副支部長<br>林業務部会長<br>吉岡業務副部会長<br>川上業務部会委員<br>岩本岡山県委員長<br>岡山県委員会 6名      |
| 5. 鳥取県<br>(H28.12.22)    | 丸毛県土整備部次長<br>県土総務課建設業・入札制度室室長<br>技術企画課長<br>技術企画課長補佐<br>技術企画課係長   | 小田支部長<br>川口支部理事<br>林業務部会長<br>吉岡業務副部会長<br>隅鳥取県委員長<br>鳥取県委員会3名           |
| 6. 広島市<br>(H28.12.16)    | 契約部工事契約課長<br>道路部街路課長<br>施設部管理課建設担当課長<br>技術管理課長   | 小田支部長<br>來山総務部会長<br>林業務部会長<br>業務委員 11名                                 |



## 中国地方ブロック(中国地方整備局、中国5県、広島市、岡山市)との意見交換会 (H28.7.7開催)

平成28年7月7日(木)に広島市中区のKKRホテル広島において、国土交通省中国地方整備局をはじめ中国地方の5県及び2政令市の発注者と建コン協本部の意見交換会が開催されました。

国土交通省からは丸山局長をはじめ11名の幹部職員が、自治体からは中国5県、岡山市、広島市から8名の幹部職員が出席されました。

建コン側からは、長谷川会長をはじめ本部の副長・理事等12名が出席し、中国支部からは

小田支部長と末國、小谷副支部長、來山総務部会長および業務委員16名の合計20名が出席しました。建コン協から「建設コンサルタントの要望と提案」と付属資料を提示し、「魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備について」、「技術力による選定について」、「品質の確保・向上について」の3項目について、忌憚のない意見を交わすことができました。意見交換会の議事の要旨は、下表の通りです。



地方ブロック意見交換会の状況

### ■長谷川建設コンサルタント協会会長挨拶要旨

この意見交換会は今年で34回目となります。貴重な意見交換の場でありますので、引き続きよろしくお願いいたします。

先ほど黙とういたしました。遠くダッカの地で同じ志を持つ仲間が亡くなられお悔やみを申し上げるとともに、その志を引き継いでいくことで応えていきたいと思っております。

さて、国の大きな方向として、防災・減災、メンテナンス、国土強靱化といった関連の公共事業の予算が、4年連続して一定の額が確保されてきました。また、技術者単価、調査基準価格も引き上げられ、技術者単価については平成10年の約90数%まで回復しましたが、今後も引き上げについて要望していきたいと思ってい

ます。その他、設計歩掛りの改善といったことが、建設コンサルタントの経営の改善に非常に寄与しており、感謝申し上げます。

本年度の「要望と提案」は、一昨年の改正品確法の主旨を受け、特に建設コンサルタントが魅力ある業界となるため、将来の担い手の確保・育成を柱とし、技術力の選定、品質の確保・向上を加えた3つの構成としています。

平成26年度の協会会員の経営状況調査では、会員の平均の純利益が平成23年度はマイナスであったものが、平成26年度には5%まで回復しました。ただ、これは会員全体の数値ではなく回答をいただいた約160社のデータであります。経営状況が上向していることは確かであ

りますが、地方企業では決してこのように順調に回復しているわけではありません。

一方では、国が進めているi-construction等、建設生産システムの効率化を進めていただく中で、我々も経営の効率化を図っていきたいと思っています。企業の経営状況が回復しているとは言うものの、地方と中央、集中と分散により、事業量の均等的な確保の要望を受けており、そのようなことについても議論させていただきたいと考えております。

将来の担い手確保は非常に大きな命題であります。会員の意欲も高まっており、学生等も建設コンサルタントに目を向けております。経営改善を進めて行く中で就業環境や処遇の改善が必要と考えています。協会としては、昨年引き続き今年6月に会員一斉のノー残業デーを実施し、会員企業の約80%が参加し約78%の職員がノー残業デーを実行しました。このようにノー残業デーは徐々に定着しつつあります。これも、発注者の皆様にご理解やご協力を得ていることですので、今後も見守っていただくようお願いいたします。

今後の大きな課題でもあるインフラのメンテナンスについては、協会のRCCM資格を点検・

診断に関する民間資格としての申請を行っており、また、国交省の支援に基づく道路橋のメンテナンス講習会も昨年から開催し会員以外も参加しています。この成果が国の橋梁の点検士の受験資格のインセンティブとなっており、ぜひ、自治体の点検作業において活用をお願いいたします。

技術力の選定については、これまで地域の会員からは価格競争との声が大きかったのですが、業務量全体の縮小に伴い国への業務拡大の要望があります。自治体の業務では国で活用される技術力の選定や評価システムの構築の要望が地方会員から出ております。自治体での改正品確法の主旨を踏まえた適用をお願いします。ぜひとも、プロポーザル方式や総合評価落札方式に踏み込んでいただくことをお願いいたします。

最後に、東日本大震災から5年4ヶ月が過ぎましたが、熊本地震が発生しました。この地震については、東日本大震災の経験を活かし協会としても活動をさせていただきました。このような防災に備えることも含め、建設コンサルタントの健全な経営や育成、将来を踏まえた活用をお願いいたします。



地方ブロック意見交換会 長谷川会長の挨拶

## ■丸山中国地方整備局長挨拶要旨

冒頭、長谷川会長からの挨拶にもあったとおり、ダッカの襲撃事件で犠牲になられた方々には、心よりご冥福をお祈りしたいと思います。

また、4月14日午後9時26分に熊本で地震が発生し、整備局としては15日午前3時に職員8名を派遣したところ、16日の未明に本震が起こり、職員の安否がどうなのか気が気ではありませんでした。職員の無事はもちろんのこと、初動については何とか対応できたかと思えます。他の地整も含め延べ1万人を超える職員を派遣し、約1ヶ月間初動の対応を行いました。その中で、協会会員企業でも調査や復旧のための設計等、これからのことも含めご尽力いただいていることについて、改めてお礼を申し上げます。

平成28年度の予算は4696億円であり、そのうち直轄事業は1717億円となっており、前年度に比べて2%程度伸びています。この予算を

もちまして、山陰道の整備、国道2号のバイパス、治水事業、広島土砂災害の対応のための砂防堰堤の整備、国際バルク戦略港湾整備といったことについて取り組んでまいりたいので、引き続きご支援をお願いいたします。

本日の議論ですけれど、我々の前提として担い手3法を引き続きしっかりやっていきたい。更には今年度からi-constructionについて本格的に導入していきますが、現在手探りで進めているところでもあります。このような中、施工者はもちろんのこと、調査・設計分野の方々との密接な連携なしには進まないで、引き続きよろしくをお願いいたします。

本日は、整備局だけではなく5県、2政令市の土木関係部長も参加していますので、忌憚のないご意見をいただき、実りのある会議となればと思っております。



地方ブロック意見交換会 丸山局長の挨拶

■地方ブロック意見交換会要旨

| 建設コンサルタント協会からの提案と要望   | 中国地方整備局・5県2市からの回答   |
|---|---|
| <p>I. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備</p> <p>(1) 企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備</p> <p>①安定的な事業量の確保と技術者単価の継続的な引き上げ</p> | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民の安全・安心の確保、豊かで利便性の高い地域社会の実現、日本経済の再生の3点を重点化しており、直轄+補助で対前年度比1.02、4696億円の予算となっている。</li> <li>・長年続いた予算の減少傾向は4年ほどほぼ横ばいとなっており、今後も必要な公共事業予算については、持続的に確保するよう努めていく。</li> <li>・技術者単価については、全職種平均で+3.8%となっている。今後も、市場の実勢価格を適切に反映できるように努めていきたいので、毎年協力いただいている技術者給与実態調査への協力をお願いしたい。</li> </ul>   |
| <p>②実態に即した歩掛・積算体系への改善及び整備</p>   | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初の設計延長の少ない工種の歩掛等は、補正係数の適用では実態とのかい離が解消できない課題があるが、事例として道路詳細設計の1km未満の補正係数の見直しを行った。歩掛りに実態とのかい離があるとの指摘については、歩掛実態調査を含め本省へ伝えたい。</li> <li>・歩掛実態調査等の増加の要望であるが、昨年度の歩掛り実態調査を8分野で分析し標準歩掛りの新設・改定作業の予定をしている。また、今年度は新規の歩掛調査として9分野を予定しており、引き続き調査への協力をお願いしたい。</li> <li>・また、経費（旅費等）の算定方法について、積算条件の全般を詳細に開示しており、一定の合理化が図られていると思うが、さらなる合理化の意見があれば対応していきたい。</li> </ul> |

## ■地方ブロック意見交換会要旨

| 建設コンサルタント協会からの提案と要望  | 中国地方整備局・5県2市からの回答  |
|--|--|
| <p>(2) 受発注者協働による生産性向上と就業環境の改善に向けての取り組み強化</p> <p>① 適正な工期（標準工期）設定、事業特性や地域事情等を踏まえた必要工期の確保と納期の平準化等への取り組み強化による業務執行状況の改善</p> | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適正な工期の確保に向け早期発注を行っているが、合せて国債や翌債の適切な運用が図られるよう指導しており、再度徹底したい。</li> <li>・ なお、国債の活用については2年にまたがる環境調査や各種の点検業務において、発注見通しベースであるが87件を予定している。</li> <li>・ 納期の平準化については本省と同じ目標値を設定しており、今年度もこの目標値を達成できるよう努力するとともに、繰り越しの運用も行いながら納期の平準化に努めたい。</li> <li>・ 年度末納期の集中が品質を低下させるとの説明があったが、繰り越しや翌債を活用するが、業務スケジュール管理やワンデーレスポンスの取り組みも重要と考えており、合わせて引き続き努めていきたい。</li> </ul> |
| <p>② 「土木設計業務等変更ガイドライン」の内容充実・運用推進による契約執行状況の改善（Ⅲ. (1)③を含む）</p>   | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガイドラインについては、引き続き条件明示の徹底、設計図書の変更等の円滑な対応を図っていきたい。</li> <li>・ また、工程管理については、業務スケジュール管理表や条件明示チェックシート、ワンデーレスポンス等の取り組みを継続して実施しているが、今後も円滑な進捗、管理に努めていきたい。</li> </ul>  |
| <p>③ ICT技術活用等による計画～設計～施工～維持管理に係る生産性向上への取り組み促進</p>  | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年3月に支部にも参加いただき、産学官からなる「生産性向上研究会」を設置し、今年度から本格的導入に向け検討していく。</li> <li>・ また、6月13日から受・発注者それぞれを対象に、i-constructionの説明会を管内15ヶ所で開催した。</li> </ul>   |

## ■地方ブロック意見交換会要旨

| 建設コンサルタント協会からの提案と要望  | 中国地方整備局・5県2市からの回答   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的には測量から3次元データを整理し、設計から施工までを一体となって実施し、生産性向上と品質確保をしていきたいと考えており、意見があればお願いしたい。</li> </ul>   |
| <p>④受発注者協働によるワークライフバランスの改善に向けての施策の推進</p>   | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就業環境の改善に向けた非常に重要な取り組みと認識しており、平成26年7月に業務における受注者の労働環境改善に向けた取り組みについて、当整備局として事務連絡を発し、それ以降、事務所を含め、様々な発注機関を指導している。</li> <li>・ノー残業デーや週末に業務をしなければならないような金曜日の指示等を行わないよう、引き続き指導を徹底したい。</li> </ul>  |
| <p>(3) より魅力ある職業としての確立(人材の育成・確保の環境整備)</p> <p>①維持管理・更新を含めた、社会資本に関する調査、研究、計画、設計などの建設コンサルタント業務の資格づくりと制度化</p> | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要望については、本省へ伝えたい。</li> </ul>  |
| <p>②若手技術者・女性技術者の活用・育成のための入札・契約制度の工夫改善の推進</p>   | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手・女性技術者の活用は、現在3点取り組んでいる。</li> <li>○若手育成では、平成25年度から技術者評価を止め、当地整の手持ち件数の少ない技術者を優位に評価している。</li> <li>○プロポーザル方式や総合評価落札方式において、平成26年度から管理補助技術者を配置することにより、技術者を管理技術者に登用しやすくする仕組みを取り入れているが、平成27年度は45歳まで引き上げた結果、平成26年度95件から平成27年度121件に活用が拡大した。</li> <li>○女性技術者の活用は、平成28年度からの取り組みであるが、男女問わず育児休暇が取りやすいようにすることや、女性の就業率向上・就業継続支援のため産休・</li> </ul> |

## ■地方ブロック意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 中国地方整備局・5県2市からの回答  |
|---|--|
|   | <p>育休期間相当分をその分業務経験の対象期間を延長する。</p>  |
| <p>③新たな事業推進形態（PPP・CM等）の改善・推進と政策立案・事業形成に関する建設コンサルタントの活用</p>  | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山陰道の道路設計等が集中していることから事業推進PPPを導入しているが、参加が少ないことから機会があれば参加をお願いしたい。</li> </ul>   |
| <p>④建設産業界の魅力アップの社会資本整備の効用・意義の広報に対する官民一体・民協働での推進</p>   | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業効果や事業の必要性等については、いろいろなもので発信しているほか、出前講座等で広報に努めている。</li> <li>・平成25年度からは「現場のイチオシ！」として、その時の旬な現場を紹介しており、平成27年度には120回開催し、4700名の参加があった。また、例年建設フォーラムを開催しており、2日間で5000人の来場者があった。</li> <li>・また、中学生を対象とした職場体験を行っている。</li> <li>・今後も引き続き取り組んでいくので、協会でも支援等をお願いしたい。</li> </ul> |
| <p>II. 技術力による選定<br/>(1) プロポーザル方式・総合評価落札方式等の適確な運用・改善</p> <p>①「業務内容に応じた適切な発注方式の選定」に基づくプロポーザル方式・総合評価落札方式等の適確な運用・改善</p> | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運用ガイドラインに基づき適切に運用したい。</li> </ul>  |
| <p>②「技術者評価を重視した選定」の試行結果を踏まえた総合評価落札方式の適確な運用・改善</p>   | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務成績評定点の評価範囲を、平成28年度から下限値60点から70点に変更した。これにより1点当たりの評価値の加算点が2倍となり、技術評価の差が明確に付くようになったと思われる。</li> </ul>   |

## ■地方ブロック意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望  | 中国地方整備局・5県2市からの回答   |
|--|---|
| <p>③業務成績評定及び業務・技術者表彰の運用改善とプロポーザル・総合評価落札方式における企業選定の運用改善</p>                                 | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務評定点については、評価要領に基づき厳正かつ適切に評価を行っている。</li> <li>・表彰については、平成25年度から全国的に件数の見直しを行っているが、表彰割合としてはそのときの状況に応じて変動はあるが全国並みになるよう見直しを行っている。</li> <li>・プロポーザル方式等への加算点については、ガイドラインを参考に整備局の実状を加味して運用している。</li> <li>・担当技術者の評価のガイドラインへの記載については、本省へ伝えたい。</li> <li>・配置予定技術者の評価については、業務の内容に応じて設定しており、配置予定担当技術者の経験や能力を評価する場合には、資格要件については主たる上位の技術者を評価するようにしている。</li> </ul>  |
| <p>(2) 地方自治体における技術力重視による選定・発注の仕組みの導入促進</p> <p>①改正品確法に伴う「発注関係事務の運用に関する指針」に基づく具体的な取り組み促進</p> | <p>〈岡山県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最低制限価格の設定や予定価格の事後公表を実施しており、国の成績評定要領に準拠して設計金額500万円以上について平成27年4月より評定点を通知している。</li> <li>・今後も国や他県の状況を踏まえ、指針に基づいた取り組みについてさらに検討したい。</li> </ul> <p>〈広島県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロポーザル方式や総合評価落札方式については、業務内容に応じて選択するとともに、技術者の資格や手持ち業務量を評価項目としている。</li> <li>・全業務について、低入札価格調査制度の対象としてダンピング受注の防止に努めている。</li> </ul> <p>〈山口県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低入札価格調査制度を導入しており、昨年7月からは1000万円以上から700万円以上に拡大した。</li> </ul> |



## ■地方ブロック意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望  | 中国地方整備局・5県2市からの回答  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・なお、予定価格の事後公表については、平成26年5月からすべてに実施している。</li> </ul> <p><b>〈岡山市〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低入札価格調査制度、最低制限価格制度は導入している。</li> </ul>  |
| <p>②プロポーザル方式・総合評価落札方式での発注増加（業務内容に応じた発注方式の設定、先進自治体の工夫事例の展開）</p> | <p><b>〈鳥取県〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術者重視としてプロポーザル・総合評価を導入している。</li> <li>・総合評価方式については昨年度50件、今年度は70件に、技術提案型は、昨年度道路計画に適用したが、今年度は河川・砂防に拡大する。</li> <li>・今後も試行・評価して改善していきたい。</li> </ul> <p><b>〈島根県〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1000万円以上についてプロポーザル方式および総合評価落札方式を試行している。</li> <li>・技術的難易度や事前の仕様の確定状況に応じて使い分けをしているが、現状は総合評価落札方式の技術者評価型が多くなっている。</li> </ul> <p><b>〈岡山県〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロポーザル方式については、業務内容に応じて個別に実施しており、今後も必要に応じて実施していく。</li> <li>・総合評価落札方式は、建築で試行しているが土木はなく対象業務の拡大について今後検討したい。</li> </ul> <p><b>〈広島県〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロポーザル方式については、業務内容が技術的に高度や特殊な場合、仕様が一定でも提案により成果が変わる場合に採用している。</li> <li>・総合評価落札方式は、平成22年度から試行しており、平成27年度は500万円以上を目安に業務内容を勘案して試行しており、平成27年度は競争入札の約1/4に当たる151件で実施した。</li> <li>・今後も試行結果を踏まえ、評価方法や適用</li> </ul> |

■地方ブロック意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望                        | 中国地方整備局・5県2市からの回答   |
|--|---|
|  | <p>範囲等について検討していきたい。</p> <p>〈山口県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国や他県の状況を見て研究したい。</li> </ul> <p>〈岡山市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務内容に応じた入札方法の選定については、国や他県を研究し、今後の参考としたい。</li> </ul> <p>〈広島市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創造性や高度な技術力が求められる設計業務については、必要性を検討した上で、プロポーザル方式で発注している。</li> <li>・なお、総合評価落札方式は実施していないが、他県・市の状況を参考に適切に対応したい。</li> </ul>   |
| <p>③最低制限価格制度導入の拡大および予定価格の適切な設定・事後公表の徹底</p> | <p>〈鳥取県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予定価格100万円以上については、調査基準価格を設定しており、実質的に失格基準価格となっている。</li> <li>・事後公表は、今年度から予定価格1000万円以上の総合評価方式で行い、どうなるか評価して進めていきたい。</li> </ul> <p>〈島根県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1000万円未満を対象に最低制限価格制度を適用し、1000万円以上を対象に調査基準価格制度を適用している。</li> <li>・予定価格の事後公表については、平成27年4月1日から入札公告または指名公告をする業務から開始している。</li> </ul> <p>〈岡山県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1000万円以上について低入札価格調査制度を、1000万円未満は最低制限価格制度を導入している。</li> <li>・予定価格は事後公表を行っている。見積により決定した単価・歩掛については、入札前に公表している。</li> </ul> <p>〈広島県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全てにおいて低入札価格調査制度を採用している。</li> </ul> |

■地方ブロック意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望              | 中国地方整備局・5県2市からの回答   |
|----------------------------------|---|
|                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予定価格は標準歩掛りのないものについては見積りを徴取し平均直下の見積りを採用しており、仕様書等は設計図書に明示し、設計歩掛りはすべて公表している。</li> <li>・ 予定価格は事前公表としているが、応札時に再委託先との合意に基づく業務費の内訳書の提出を求めるほか、低入調査の評価や総合評価落札方式の活用により、価格以外の企業の能力や実績を評価するなど、課題の改善に努めている。</li> <li>・ 現在特に弊害は生じていないが、今後弊害が生じた場合や協会や他県の意見を聞きながら改正が必要と判断した場合には検討していきたい。</li> </ul> <p>〈山口県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最低制限価格制度は、国や他県を参考に今後研究したい。</li> <li>・ 予定価格の算定に当たっては、国の設計労務単価を適用し、歩掛積算体系も国が定める基準を適用している。</li> </ul> <p>〈岡山市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これらの制度は導入しているが、制度の拡大については今後の検討課題である。</li> </ul> <p>〈広島市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成24年10月から事後公表としている。</li> <li>・ 平成26年9月から最低制限価格制度を1000万円未満から1500万円未満に拡大している。</li> <li>・ 平成28年9月からはWTOの対象となる2億4千万円以上を除くすべてについて、最低制限価格制度に一本化する。</li> </ul> |
| <p>④業務成績評価や業務・技術者表彰の導入と活用の促進</p> | <p>〈鳥取県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表彰制度は昨年度から開始したが、モチベーションが非常に上がったと聞いているので、試行を評価しながら改善していきたい。また、評価のバラツキの問題について指摘を受けているが、評価職員の研修等の実施回数を増やしている。</li> </ul>   |

## ■地方ブロック意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 | 中国地方整備局・5県2市からの回答  |
|---------------------|--|
|                     | <p>〈島根県〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・成績評定および表彰については、総合評価方式の評価方法に適用している。</li></ul> <p>〈岡山県〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・国の基準に準拠した委託業務成績評定要領により500万円以上について平成27年4月から成績を通知している。</li><li>・評定点の活用、表彰制度の導入については、評定点の分布状況、国や他県の状況を見て検討したい。</li></ul> <p>〈広島県〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・500万円以上（建築は100万円以上）を対象に成績評定を行っており、透明性の確保や企業・技術者の技術力向上のため業務成績点の平均点の公表や項目別の評定点の通知を行っている。</li><li>・また、表彰制度については、県内に本店を有する企業の優良業務のインセンティブとして、来年度から表彰制度を行う予定である。なお、総合評価落札方式での加点も行う予定である。</li></ul> <p>〈山口県〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・平成21年度から100万円以上について成績評定を実施しており、結果を公表するとともにデータを蓄積している。</li><li>・蓄積データを分析した結果、バラツキが相当程度見受けられたことから、採点精度を高めるため評定方法を改善し信頼性の向上を図りたいと考えている。</li><li>・表彰制度は、工事では導入しているが、業務については今後の検討課題である。</li></ul> <p>〈岡山市〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・表彰制度の導入については、早急に検討したい。</li></ul> <p>〈広島市〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・平成19年度から業務成績の評定制度を導入しており、平成23年9月から受注機会の確保や業務の品質確保のため、業務成績を活用した業務成績優良企業限定の入札</li></ul> |

## ■地方ブロック意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望                                    | 中国地方整備局・5県2市からの回答   |
|--|---|
|  | <p>を試行している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表彰は行っていないが、国や他県・市の状況を見ながら対応したい。</li> </ul>  |
| <p>⑤業務分野に応じた有資格者（技術士・RCCM等）・建設コンサルタント登録制度の適格な活用の促進</p> | <p><b>〈鳥取県〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予定価格500万円以上について、業務規模や難易度に応じて有資格者の配置や建コン登録の有無を確認している。</li> </ul> <p><b>〈島根県〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務種別に応じた入札参加者において、受託者が有資格技術者を確保できることを勘案して指名できることとしている。</li> <li>・また、総合評価方式およびプロポーザル方式では、建コン登録の有無、技術者の資格の有無を評価項目としている。</li> </ul> <p><b>〈岡山県〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・500万円以上の設計、地質・土質調査業務では資格として技術士やRCCMを主任技術者や照査技術者に求めている。</li> <li>・また、建コン登録については、入札参加資格審査や指名選定において活用しており、技術者の資格と合わせて今後とも活用していきたい。</li> </ul> <p><b>〈広島県〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建コン登録の有無や技術者の資格を勘案して企業選定を行っている。</li> </ul> <p><b>〈山口県〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建コン登録の必須化については、国や他県を参考にしたい。</li> </ul> <p><b>〈岡山市〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発注時において資格要件等の検討を行う中で行っており今後も的確な活用を行っていきたい。</li> </ul> <p><b>〈広島市〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・600万円以上について、入札参加要件として技術士やRCCMを配置することとしている。</li> <li>・企業選定に当たり、建コン登録の必須化については、国や他県・市の状況を見て、必要に応じて対応したい。</li> </ul> |

## ■地方ブロック意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 中国地方整備局・5県2市からの回答  |
|---|--|
| <p><b>(3) 地域コンサルタントの積極的な活用</b></p> <p>①地方創生と地域の担い手づくりのための地域コンサルタントの活用の拡大と育成</p>   | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年10月から、地域コンサルタントの受注機会の拡大に向け、自治体の成績・実績を評価することとし、業務成績として一律70点としているが、引き続き工夫改善を行う。</li> </ul>  |
| <p>②業務内容・(業務規模含む)に応じた適切な企業・技術者(地元技術者を含む)の評価のための地域要件・地域貢献度・地域精通度等の評価項目・運用方法の改善</p>   | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>価格競争や総合評価落札方式については、業務内容や入札参加可能者数に応じて地域要件を設定している。</li> <li>地域の実務実績や災害協定締結等を地域貢献度として評価している。</li> </ul>   |
| <p>③地方自治体の業務実績に対する業務成績評定や業務・技術者表彰の運用改善</p>  | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自治体の成績適用は、各自治体の基準や業務の難易度等が異なっていることから評価は行っていない。</li> </ul>   |
| <p><b>Ⅲ. 品質の確保・向上</b></p> <p><b>(1) 受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取り組み</b></p> <p>③受発注者合同現地踏査の実施、業務スケジュール管理表を用いた管理、ワンデーレスポンスの実施及び条件明示チェックシートの活用等の施策の効果的運用のための継続的改善</p> | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>合同現地踏査については、設計条件や方針を受発注者間で確認する非常に重要な取り組みであり、重要構造物の設計については原則実施することとしている。また、その他の業務についても有効な場合には積極的に活用することとしている。</li> <li>業務スケジュール管理表については、全ての詳細設計業務に原則実施しており、作成の負担軽減のため複雑化するのではなく業務内容に応じて受発注者それぞれが利用しやすい様式とするようにして実施している。</li> <li>ワンデーレスポンス、条件明示チェックシートについては、取り組みを徹底し、円滑な業務執行管理に努めたい。条件明示チェック</li> </ul> |

■地方ブロック意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望  | 中国地方整備局・5県2市からの回答  |
|--|--|
|  | <p>シートの試行として概要をまとめているが、発注者が必要な設計条件を確認するツールとして試行を始めており、確認体制として副所長以下が確認することとしている。予備設計時に作成したものを詳細設計の発注前にきちんと確認するものであるが、試行は平成24年度から実施しており、全ての詳細設計業務で実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに、条件明示チェックシートと業務スケジュール管理表を連携して運用している。具体には予備設計完了後に条件明示チェックシートを受注者から提出いただき、それを関係機関の協議等で発注者が追加修正を行い、詳細設計の発注前に関係図書に明示する。詳細設計の契約後は、条件明示チェックシートを受注者に渡し、受注者はそれをもとに業務スケジュール管理表を作成するという流れで現在取り組んでいる。</li> </ul> |
| <p>④各工種の照査の実態調査に基づく照査成果物の明確化と適切な歩掛の継続的検討及び照査期間の確保</p>  | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細設計の照査は、照査要領の義務付けや必要な照査期間の確保、照査技術者からの報告など受注者による確実な照査を実施するための環境を整備した。</li> <li>・今年度から、詳細設計業務における赤黄チェックを本格運用している。</li> <li>・照査歩掛りの継続的な検討については、歩掛実態調査の実施要請を含め、本省へ伝えたい。</li> </ul>   |
| <p>(2) 詳細設計及び三者会議等における総合的な品質の確保</p> <p>①詳細設計における各工種の設計目的・設計条件・成果内容（特に、施工計画・仮説設計等における設計内容）の明確化と適正な歩掛の設定</p> | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・条件明示等で徹底しているつもりであるが、さらに何かあれば意見をお願いしたい。</li> </ul> <p>〈岡山市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計の条件・成果内容を更に明確にする必要があると考えている。</li> <li>・積算基準に基づき適切な積算費用の計上に努めたい。</li> </ul>   |

## ■地方ブロック意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 中国地方整備局・5県2市からの回答   |
|---|---|
| <p>②三者会議を含めた詳細設計から工事までにおける追加業務や修正設計の適切な実施</p>                                     | <p>・この点については、徹底したい。</p> <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三者会議は重要構造物工事において実施することとしている。</li> <li>・費用は昨年7月以降、諸経費・技術経費の計上方法の変更を行っている。</li> <li>・また、昨年度から資料作成の費用を計上する範囲を拡大したが、無償の作業が発生しないよう徹底を図っていききたい。</li> </ul> <p>〈鳥取県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度から三者会議の要領を定め実施しているが、適用範囲についても拡大も含めて検討したい。</li> <li>・追加業務、追加資料作成については必要な費用を計上することとしている。</li> </ul> <p>〈広島県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度から要領を定め試行しており、費用についても間接費や一般管理費等を計上している。追加費用が生じた場合には、受発注者協議の上、適切に対応するよう要領に明記し運用している。</li> </ul> <p>〈岡山市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・追加事項等については、速やかに受発注者間で協議し、適切に対応したい。</li> </ul> |
| <p>(3) 維持管理・更新事業における技術的課題の改善</p> <p>②点検・診断、補修・補強設計における積算条件の明示(条件明示チェックシートの活用)</p> | <p>〈中国地方整備局〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活用しているつもりであるが、意見があればお願いしたい。</li> <li>・一昨年の5月末に、国交省のインフラ長寿命化計画を策定したが、維持管理・更新を着実に進めて行くためには、中長期的な取り組みがこの計画で示された。</li> <li>・意見をもらいながら官民一体で取り組んでいきたい。</li> <li>・技術者資格の活用は、国交省の登録技術者資格として161の民間資格が登録されてお</li> </ul>  |



## ■地方ブロック意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望       | 中国地方整備局・5県2市からの回答   |
|---------------------------|---|
|                           | <p>り、橋梁やトンネル等の点検・診断業務の総合評価落札方式の評価にも活用している。</p> <p><b>〈鳥取県〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・条件明示チェックシート自体これまで適用されていないため、維持・補修の前に適用を考えたい。</li> <li>・維持・補修については、しっかりと条件を明示させていただきたいと考えているが、不十分なところがあれば意見を聞きながら改善していきたい。</li> </ul> <p><b>〈広島市〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様書等に設計条件を記載するなどして積算条件の明確化に努めている。</li> <li>・条件明示チェックシートの活用については、国や他県・市の状況を見て適切に対応していく。</li> </ul>   |
| <p>③地方自治体のメンテナンス事業の促進</p> | <p><b>〈島根県〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁調査会、コンクリート診断士会と協定を結んでおり、点検・診断に関する技術支援を受けているため、維持管理体制の一部を建コンに依頼する必要はないと考えているが、必要に応じて検討していきたい。</li> <li>・業務の発注要件の設定に当たり、資格活用について検討していく。</li> </ul> <p><b>〈岡山県〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国等の検討状況を参考に検討したい。</li> </ul> <p><b>〈山口県〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路施設の定期点検において、管理技術者が現場に常駐できない場合には、技術者資格登録簿に記載の資格のうち、点検の対象となる施設に関する資格のある者が点検・診断ができることとしている。</li> </ul> |

■地方ブロック意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 中国地方整備局・5県2市からの回答  |
|---|--|
| <p>I. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備</p> <p>(2) 受発注者協働による生産性向上と就業環境の改善に向けての取り組み強化</p> <p>③ICT技術活用等による計画～設計～施工～維持管理に係る生産性向上への取り組み促進。(自治体の状況)</p> | <p>〈鳥取県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国の状況を見て勉強中である。</li> <li>・ 堤防点検業務では、全面的にUAVを活用しており、うまくいくようであれば他の業務にも適用したい。</li> <li>・ 今後、CIMに拡大できるか、受注者の技術力のこともあることから、関係団体と協議しながら検討したい。</li> </ul> <p>〈島根県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国の実施状況を情報収集し有効性を見極めながら導入を検討したい。</li> </ul> <p>〈岡山県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国や他県の導入状況を見て、業界の意見を聞きながら適切に対応したい。</li> </ul> <p>〈広島県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国の取り組み状況をしっかり把握し、県内企業が対応可能かどうかも見ながら、協会とも連携しながら対応したい。</li> </ul> <p>〈山口県〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内企業は小規模な企業が多く、どのような形が良いのか考えながら進めて行きたい。</li> <li>・ 県測協を窓口に進めて行くことで話を始めたところである。</li> </ul> <p>〈岡山市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の検討課題と考えている。</li> </ul> <p>〈広島市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入のメリットや費用、ICT用建設機械の普及等が不透明なため、国の取り組み状況等の情報収集に努め、導入について今後検討したい。</li> </ul> |

## 中国地方整備局との意見交換会（H28.11.8開催）

平成28年11月8日（火）広島市中区のKKRホテル広島において、国土交通省中国地方整備局と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

中国地方整備局からは吉田企画部長をはじめ6名の幹部職員が、中国支部からは小田支部長と末國副支部長、小谷副支部長、來山総務部会長、林業務部会長及び業務委員15名の合計20

名が出席しました。

今回は、「魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備について」、「技術力による選定について」、「品質の確保・向上について」の3項目について、意見を交わすことができました。

意見交換会の議事の要旨は、下表の通りです。



中国地方整備局意見交換会 吉田企画部長の挨拶



中国地方整備局意見交換会 小田支部長の挨拶

### 中国地方整備局との意見交換会要旨

| 建設コンサルタント協会からの提案と要望  | 中国地方整備局からの回答   |
|--|--|
| <p><b>1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備</b></p> <p><b>(1) 企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備</b></p> <p>① 団塊の世代の大量退職や若者の土木離れが進む中、建設コンサルタントとしての役割を果たすとともに、担い手を育成・確保するためには、健全な企業経営が必須であることから、引き続き、技術者単価や調査基準価格の引き上げをお願いします。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術者単価については、平成25年から毎年引き上げられており、平成28年度は前年比全職種平均で3.8%上昇している。引き続き適切に取り組んでいくため、毎年お願いしている設計技術者給与実態調査について引き続きご協力をお願いします。</li> <li>・ 調査基準価格については、今年度4月からの適用（5年ぶりの改正）で、設計業務については平成21年の財務大臣協議に基づいた上限の80%になっているので、更なる引き上げは厳しいと考えるが、要望については本省に伝える。</li> </ul> |

## ■中国地方整備局との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 中国地方整備局からの回答   |
|---|--|
| <p>②成果品納品後、修正や追加作業の要請がありますが、瑕疵がある場合は別として、必要な費用は別途契約（費用精算）をお願いします。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 瑕疵がある場合は当然負担していただくが、そうでない場合は、別途契約を行うべきと考えており、今後はないように指導していく。</li> <li>・ もし、そういった事案があれば、直接情報提供をお願いしたい。</li> </ul>                      |
| <p><b>(2) 受発注者協働による業務執行・契約執行状況と就業環境の改善に向けての取組み強化</b></p> <p>①業務工期の完了直前になって、追加検討や条件変更による修正等を依頼される場合があり、工期内の納品に向けた工程が非常に難しくなることが多く、過度の負担を強いられ、労働環境悪化の一因となり、品質低下の恐れもあります。業務工期に見合う計画的な依頼や指示をお願いします。</p> <p>②年度末に指示書をまとめて提示され、契約変更書類作成のため短期間に多くの時間を要することがあり、対応に苦慮することともに成果品の品質（指示事項との整合等）にも影響を与えかねないので、指示毎の指示書提示の徹底を要望します。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工程管理及び関係者との調整の問題や全体的な数量が決まらない等の理由が考えられるが、事前に決められる事項については明示可能な時期等を受注者に通知するようにする。</li> <li>・ 具体的な事例を提示していただいた方が解決に繋がると考えている。</li> </ul> |
| <p>③納期の年度末集中と次年度の早期発注による年度末（1～3月）のプロポーザル等技術提案書の作成が重なり、労働環境が悪化しているため、納期の平準化や繰り越し等の弾力的な引用をお願いします。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成果品の品質向上や受発注者の業務改善を目的に早期発注や国債を活用し、目標を立てて平準化を図っているところであるが、適正な納期を確保するためにも、年度末が履行期限とならないように、翌債や繰越手続きの活用による改善を図っていきたい。</li> </ul>         |
| <p>④同様な業務の発注・入札が同時期となった場合、一つの業者が同時に複数受注することがありますが、処理体制等で品質の確保上の問題が発生する恐れがあるため、発注時期の分散をお願いします。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務成果の必要時期等から手続きが同時となる場合もあるが、改善できるものについては発注時期の分散に取り組んでいく。但し、同一事務所での対応は可能だが、事務所横断的な調整はなかなか厳しい。</li> </ul>                               |

## ■中国地方整備局との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 中国地方整備局からの回答   |
|---|--|
| <p>⑤現在、「CIMに関する意見交換会」を貴局と協会中国支部で行っていますが、引き続き、ICT技術活用に関する情報や動向等の情報提供をお願いします。</p> <p>⑥協会も参画している「建設現場の生産性向上研究会」の活動推進と成果の活用をお願いします。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年3月から建設コンサルタンツ協会も参加していただき「研究会」を立ち上げている。</li> <li>・6月以降は、発注者向けの説明会を15会場で行っている。</li> <li>・今年度から、土工に限りICTの全面展開の試行を行うこととしている。</li> <li>・最近の話として、今後3年以内に橋梁・トンネル・ダムや維持管理の工事にICTの活用を拡大したり、本省ではi-construction推進に向けてコンソーシアムを年内を目途に立ち上げ、他分野も導入の促進を図る方針。</li> <li>・整備局においても、研究会に「計画・設計」と「施工」のワーキング(会議)を設けており、11月15日には現在の取り組み状況等を報告する合同会議を開催する予定である。</li> <li>・今後とも情報共有しながら進めていくので、ご支援をお願いします。</li> </ul> |
| <p>⑦社員の心身の健康や担い手確保の観点から、時間外労働等の労働環境の改善は、我々にとって大きな課題であります。現在も官民一体となったノー残業デー普及推進の協力と就業環境改善に向けての取り組み(在社時間削減、有給休暇取得推進等)へのご協力をいただいておりますが、依然として以下のような状況もありますので、引き続き改善に向けたご協力をお願いします。</p> <p>a. 依然として、金曜日夕方指示、月曜日午前中期限の資料作成要請がある。</p> <p>b. 緊急以外でも、ノー残業デーの時間外に携帯に連絡が入ったり、外出時に出先からでも連絡要請がある。</p> <p>c. 会計検査対応で、急な資料作成や待機要請等があり、作業や担当者確保等の対応に苦慮する場面があるので、早めの連絡や作業内容によっては費用もお願いしたい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年に事務連絡を発出しているが、異動に伴い徹底できていない事務所もあると思われるので、再度徹底していきたい。</li> <li>・会計検査対応につきましては、事前に十分な時間を確保したり、調整した上でのご願いが基本的なことであると考えている。</li> <li>・作成した資料等に係る費用は、別途費用を支払うべきものであるので徹底していく。</li> <li>・具体的な(不具合な)事案があれば情報提供をお願いします。</li> </ul>  |

## ■中国地方整備局との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望  | 中国地方整備局からの回答   |
|--|--|
| <p>(3) より魅力ある職業としての確立（人材の育成・確保の環境整備）</p> <p>①女性技術者の活用をめざした具体的な業務発注への取り組みの状況をお聞きしたい。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性技術者に限らず若手技術者の活用に関しては、これまでに手持ち業務量の少ない者を優位に評価する制度、管理補助技術者の配置制度、若手技術者の年齢緩和(45歳以下)などを行っている。今年度は、産休・育休に相当する期間を評価対象期間に含めるようにした。今後も、女性、若手の活用の取り組みについては、これまでの検証を行いながら工夫・改善を図っていきたい。</li> <li>・良い方策等があればご提案いただきたい。</li> </ul> |
| <p>②人材育成のためヒアリング時に若手技術者の聴講を可能とする機会を増やしていただきたい。</p> <p>【補足】現在は、管理補助技術者を設置した場合のみヒアリングに参加できるが、担当する技術者にも経験を積ませたいので発言はしないので同席させていただきたい。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手技術者の定義を含めて、入札説明書を再確認して検討する。</li> </ul>   |
| <p>2. 技術力による選定</p> <p>(1) プロポーザル方式・総合評価落札方式等の適確な運用・改善</p> <p>①地域社会とのつながりを意識することにより、コンサルタントとしての使命感をより強く感じることができるとあるが、社会に対してコンサルタント業界のイメージ向上につながることから総合評価落札方式において、業務内容・業務特性(業務規模含む)に応じてボランティアなどの社会貢献を評価項目に加えていただきたい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献度については、現在災害協定や活動等を評価項目としている。ボランティアを評価項目にして欲しいとあるが、災害支援と同類のもので災害活動の項目があるのでその必要性は低いと考える。</li> <li>・評価すべきボランティアのイメージを教えてください。</li> </ul>  |
| <p>②総合評価落札方式において価格：技術点のウエイトが1：3の場合でも落札価格は低入調査基準価格付近となっています。技術資料の作成で相当な時間・費用を要することから、1：3の業務の中で</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設コンサルタンツ協会からは、1：3の総合評価落札方式を増やして欲しいとの要望があったように記憶している。</li> <li>・総合評価落札方式かプロポーザル方式かの決定については、運用ガイドラインに基づ</li> </ul>  |

## ■中国地方整備局との意見交換会要旨

| 建設コンサルタント協会からの提案と要望  | 中国地方整備局からの回答  |
|--|---|
| <p>も内容によってはプロポーザル方式での発注をお願いします。</p>  | <p>いて適切に対応していきたい。</p>   |
| <p>③技術者の意欲向上、技術力や品質の向上等につながる表彰制度に関して、以下の要望をします。</p> <p>a. 平成24年度から平成27年度への経年変化でみると局長表彰数、事務所長表彰数ともに増加傾向にありますが、まだ全国平均より下回っています。表彰制度は、技術者の意欲向上、技術力や品質の向上等に極めて重要であり、更なる両表彰数の増加をお願いします。</p> <p>b. 技術者表彰は、技術者個人の意欲や技術力向上に直結し、更に提案書技術点評価においても評価項目であることから、特に増加をお願いします。(現状は、技術者表彰数が全国平均を下回っているため)</p> <p>c. 将来的に管理技術者となりうる優秀な担い手を育てるために、優秀な担当技術者を表彰する制度を新設していただきたい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務表彰については、資料によると若干全国平均を下回っているかもしれないが、平成25年度以降拡大を図っている。</li> <li>・他の整備局の状況も確認しながら、拡大も含めて検討したい。</li> <li>・技術者表彰については、設定していない整備局もあるので全国の状況を確認しながら検討したい。</li> </ul> |
| <p>④総合評価(1:1)の業務において、入札説明資料の『技術資料に関するヒアリングについての記載』が事務所によってバラバラであり、説明資料にヒアリング実施との記載があるため、ヒアリングの準備をしたが、ヒアリング前日に「ヒアリングを実施しない」とのfaxが届きました。</p> <p>特に技術提案書(1枚)での業務の場合は、ヒアリングは実施されていないので、『ヒアリングは行わない予定である。但し、技術資料の内容によってはヒアリングを行う場合がある。ヒアリングを実施する場合は、平成〇年〇月〇日に通知す</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒアリングの実施に関する事項については、通知内容等の統一を図っていく。</li> </ul>  |

## ■中国地方整備局との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 中国地方整備局からの回答  |
|---|---|
| <p>る予定である。』等の文面に統一していただきたい。</p>   |   |
| <p><b>(2) 地域コンサルタントの積極的な活用</b></p> <p>①「地域の担い手づくりのための地域コンサルタントの活用の拡大と育成」を要望していますが、改めて地域企業育成の観点から、経験と実績を付けることができるよう、業務内容・業務特性（業務規模含む）に応じて地域要件・地域貢献度・地域精通度等の評価項目・運用をお願いします。</p>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域要件については、プロポーザル方式では設定していないが、総合評価落札方式及び価格競争においては業務実施可能者（参加可能者）を勘案した上で地域要件を設定している。</li> <li>・地域貢献度・地域精通度の評価については、(1) ①と同じ。</li> </ul>  |
| <p><b>3. 品質の確保・向上</b></p> <p><b>(1) 受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み</b></p> <p>①業務の円滑な進捗のため、ワンデーレスポンスの確実な実施の徹底をお願いします。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンデーレスポンスは、休日確保など全ての根幹になっている取組みで、大変重要と考えており、確実な実施を指導していく。</li> </ul>  |
| <p>②概数発注業務では、各項目の提出期限を発注者側の都合で一方向的に決められることが多く、十分な照査を実施する時間が確保できない場合が多くなります。業務途中の部分的納品や資料提出についても、適切な工期設定をお願いします。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・概数発注業務については、作業項目、内容、期限等受注者の実施体制等が確保されていることが前提であり、事前に十分協議・合意の上で実施するよう継続的に指導する。</li> </ul>  |
| <p><b>4. その他</b></p> <p>①現行では、非特定の理由及び総合評価項目名称が結果通知書に記載されていますが、点数等の内訳が不明です。入札調書は後から公表されるため、説明要求が可能な5日以内では十分な確認ができません。したがって、プロポや総合評価について、結果通知書と同時に入札調書（点数内訳）を一緒に添付して通知することを検討していただきたい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロポーザル方式については、特定後に公表することとなり、仮に各事務所、これに沿って運用されていないようであれば指導する。</li> <li>・総合評価落札方式については、落札決定後の公表となり、指名通知以外の段階で説明要求はできないが、異議申し立てはいつでも出来ることとなっている。</li> <li>・いずれにしても、実態を調査する。</li> </ul> |



## ■中国地方整備局との意見交換会要旨

| 建設コンサルタント協会からの提案と要望  | 中国地方整備局からの回答   |
|--|--|
| <p>②CAD製図基準に関する運用ガイドラインによる確認を行うと定義されていますが、ソフトウェアによれば「色、線、文字」については『任意』となっているものの、事務所所有のソフトウェア（CADwell）でチェックすると膨大なエラーが出ます。CAD製図基準による運用を明確にしていきたい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CADの製図基準に準拠した操作と電子納品チェックソフトでチェックして、エラーがなければ納品してもらえば良い。</li> <li>・ 仮に、違うソフトに変換する依頼があった場合、別途費用にて対応する。</li> </ul>        |
| <p>③積算等に関する質問の回答に不明瞭な点が多く、質問期限後の回答になることもあるため、再度質問ができる時間を設けていただきたい。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不明瞭な点が多いとあるが、回答自体が不明瞭なのか、質問に答えられないような内容なので不明瞭な答えになるのかがわからないので教えて欲しい。</li> <li>・ 回答自体が不明瞭な場合であれば、適切に指導していく。</li> </ul> |
| <p>④予定管理技術者届けの書類を、手渡しで行っています。書類提出について電子入札システムの活用をお願いします。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行の電子入札システムではできないが、今後、システム開発について検討する。</li> </ul>  |
| <p>⑤クジ引きを、電子クジに変更していただきたい。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現時点で電子くじの運用について見直しの予定はないが、要望については本省に伝える。</li> </ul>   |



## ■ 広島県との意見交換会（H28.11.10開催）

平成28年11月10日（木）広島市中区のKKRホテル広島において、広島県と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

広島県からは財満建設産業課長をはじめ14名の幹部職員が、中国支部からは小田支部長と來山総務部会長、林業務部会長および業務委員12名の合計15名が出席しました。

今回は、「魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備について」、「入札・契約について」、「品質の確保・向上について」の3項目について、意見を交わすことができました。議事の要旨は、下表の通りです。



広島県との意見交換会 財満建設産業課長の挨拶



広島県との意見交換会 小田支部長の挨拶

### ■ 広島県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 広島県からの回答   |
|---|--|
| <p><b>1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備</b></p> <p><b>(1) 企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備</b></p> <p>① 打合せの回数については、平成28年度に改定されましたが、特記仕様書規定の回数よりも大幅に増えているのがこれまでの実態です。受注者側のみでの対応では避けられないため、実態に即した変更契約をお願いします。【継続】</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務の種類に応じて協議の標準回数が決まっており、それに準じて発注を行っている。実態はかなり増えている様であるが、追加業務などが発生した場合等、一堂に会しての協議を要する場合は、契約変更の協議をさせていただく。</li> </ul> |
| <p><b>【関連質疑】</b></p> <p>打合せの回数は標準的な回数で発注となっているのか。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今データが無いので回答できない。</li> </ul>   |

## ■広島県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望  | 広島県からの回答  |
|--|---|
| <p><b>【関連質疑】</b><br/>設計協議回数について追加業務などがあつた場合のみ変更の対象か。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務内容を踏まえた上で、双方協議の上、変更について検討する。</li> </ul>   |
| <p>②当初契約にない新規工種は、契約時落札率を適用しないでいただきたい。【新規】</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の積算基準を参考にして落札時の落差率を適用している。</li> <li>・国が工事などで採用している取組状況を参考にして、変更契約のあり方や別途発注の判断などについて受発注者双方の事務的負担を加味した上で検討していきたい。</li> </ul>   |
| <p>③土砂法基礎調査の一部歩掛りを実態を踏まえ見直しをお願いします。(事例：現地での「微地形調査」が歩掛り上の日当り箇所数に対し、大幅な日数を要している)【新規】</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在運用している歩掛りは、昨年度から採用した砂防フロンティアの支援システムを利用した新手法に対応するため、昨年度、各社から見積を取り採用したものである。</li> <li>・現地調査に要している日数については、引き続き実態把握に努めたい。</li> <li>・あわせて、現地踏査のさらなる省力化が図れる手段について、品質を落とさない範囲内で具体的に提案して頂ければ調査手法の見直しを検討していきたい。</li> </ul> |
| <p>④基礎調査は平成30年度までに完了されるとされていますが、各年度のどの時期に発注されるかの見通しを公表していただきたい。【新規】</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・補正予算等が確定しない中で全てのスケジュールの見通し公表することは困難だが、補正予算の活用を見通せる範囲内で可能な限り早急に公表していく。</li> <li>・また、新予算が決まった時点においても速やかに発注見通しを公表していく。</li> </ul>  |
| <p><b>(2) 受発注者協働による業務執行・契約執行状況と就業環境の改善に向けての取組み強化</b></p> <p>①現在、官民一体となったノー残業デー普及推進や就業環境改善に向けての取組み(在社時間削減、有給休暇取得推進等)へご協力を頂いておりますが、依然として、例えば深夜メールによる作業指示等がある状況ですので、引き続き改善に向けたご協力をお願いします。【継続】</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島県もワークライフバランスの推進に取り組んでおり、ノー残業デーの普及に努めている。</li> <li>・労働環境改善 時間的余裕のない指示、時間外の指示はしないよう発注機関に引き続き指導していく。</li> </ul>  |

## ■広島県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 広島県からの回答  |
|---|---|
| <p>②年度末工期の業務が多く、業務処理が年度末に集中している状況です。品質確保や労働環境改善の観点から、納期の平準化を強力に推進していただき、繰越の弾力的な運用をお願いします。【継続】</p>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の時期的な集中を緩和して平準化することは県としても、品質向上や生産性向上による労働環境の改善にも資すると考えており、早期発注や繰越、翌債の運用を柔軟に対応するよう事務所に指導していく。</li> </ul>   |
| <p><b>(3) より魅力ある職業としての確立（人材の育成・確保の環境整備）</b></p> <p>①技術者のモチベーション向上のためにも業務表彰制度の対象を現在の県内業者に加え県外業者にも拡大していただきたい。【新規】</p>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度から業務においても県内業者対象に表彰制度を取り入れることになる。</li> <li>・表彰の対象やインセンティブの内容については、来年度の運用状況を見て検証し、さらに検討していこうと考えている。</li> </ul>                                       |
| <p><b>【関連質疑】</b></p> <p>表彰制度が県内本店に限って採用を取り入れた意図はどこにあるのでしょうか。拡大の可能性はいかがでしょうか。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事に関しても県内本店に限っており、県内業者の育成に力を入れている。</li> <li>・業務に関しては来年度からのスタートであり、現時点では拡大を考えていない。</li> <li>・工事については要望がないので考えていないが、大きな工事が無いことも影響があるのかもしれない。</li> </ul> |
| <p><b>【関連質疑】</b></p> <p>某県では、事務所の社員が20名以上住民票をその県においていれば、県内業者として取り扱っている。その県に税を納めているのだから、そういう取扱いも次のステップとしてあるのではないか。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務に関しては来年度からのスタートであり、現時点では次のステップを考えていない。</li> </ul>   |
| <p><b>2. 入札・契約について</b></p> <p>①管内業務実績について、発注業務が減少する中で、受注実績も今後各社とも減少していくと思われますので、管内実績の条件を隣接管内や本所内に広げる等の運用を要望します。【継続】</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務内容によって各支所管内、県内、地方圏内等、運用を行っている。</li> <li>・特殊な業務、実績の少ない業務では、地域を限定した同種業務の条件設定に変えて、具体的な自然条件等を示した同種業務実績で持って評価を行うようにしている。</li> </ul>                      |

## ■広島県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 広島県からの回答   |
|---|--|
| <p>②総合評価落札方式では、管理技術者の評価が、手持ち件数0～5件では3.0点、6～9件では1.5点となっています。手持ち件数の評価は緩和されておりますが、依然として高いハードルとなっています。優秀な有資格者は手持ち件数が多くなるため、評価を更に緩和していただきたい。【継続】</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・資格を有する技術者に過度な負担を避け、品質の確保を目的としている。平成27年6月改正で、配置予定管理技術者の評価で無理な専任による負担軽減と手持ち件数の実態を踏まえて手持ち件数の緩和を行った。</li> <li>・品質の確保の観点から更なる緩和については、慎重に考えるべきと考えている。</li> </ul>   |
| <p>③手持ち件数は、開札日の一日前に、開札日を基準日として現在とこれからの手持ち件数とその合計を提出することになっていますが、特に基準日現在の件数は、テクリス登録が完了し確定した件数を記載するよう、指名通知日を基準日としていただきたい。【新規】</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮に指名通知日の手持ち件数を基準日とすると、業務着手するまでに相当時間があり、手持ち件数の乖離が生じやすいため、基準日は業務着手日に近い開札日に設定している。</li> <li>・テクリス登録が間に合わない場合は、契約書などを添付していただければ良い。</li> </ul>  |
| <p>④入札時の業務費内訳書添付については、“公正な契約締結の促進上必要”とのお考えは承知しておりますが、現実には、再委託先の見積書添付と合わせ内訳書作成の手間が大きく、また例えば記載字句の間違いによって失格となる等の状況です。協会としては、引き続き廃止の要望をするものですが、廃止が困難な場合は、以下の対応策等をご検討いただくようお願いいたします。【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆簡略化または個別案件ごとの情報入力済み指定様式をご提示いただくことを願います。</li> <li>◆落札業者のみが提出する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務費内訳書は不正な見積を伴わないダンピングによる入札参加や再委託先へのしわ寄せ防止、元請け再委託間の対等な立場における合意に基づく契約の促進のため提出を義務づけしている。低入調査も、重点調査以外では資料提出を減らし、業務費内訳書のみで行えるよう合理化を図ったものである。</li> <li>・業務費内訳書については入札システムにおけるPDFデータの改善に努めており、テキスト形式で閲覧可能なデータで閲覧可能としている。</li> <li>・審査期間短縮のために、応札者全社に内訳書の提出を求めているので、ご理解とご協力をお願いする。</li> </ul> |
| <p>【関連質疑】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理技術者の評価が件数の縛りとなっており、金額など業務規模も加味して評価して頂きたい。</li> <li>・入札時とテクリス件数が違った場合、業務評価制度で減点対象となり、かなり</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・趣旨は理解したので、他県の取扱い等も踏まえ今後検討する。</li> </ul>  |

## ■広島県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望  | 広島県からの回答   |
|--|--|
| <p>厳しいと感じており慎重に取り扱っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務費内訳書の誤字脱字も失格基準となるため、精査に時間を要している。</li> </ul>                  |  |
| <p>⑤高度な技術力を要求する業務については、成果品の品質確保のため、技術力重視によるプロポーザル方式で発注をしていただきたい。【継続】</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の仕様が確定していなく、業務内容が高度で特殊な業務、設定費用により設計成果内容が変わる場合等はプロポーザル発注としている。</li> <li>・仕様が確定している場合でも業務内容が高度で特殊な場合は、公募型の一般競争入札で発注している。</li> </ul>                                |
| <p>⑥今年度から、基礎調査に限って総合評価一括審査方式が導入され、受注については、各社が一定の見込みがたてやすくなったところですので、来年度以降も当方式の継続をお願いします。【新規】</p>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度までの課題等を踏まえて、今年度より一括審査方式による総合評価型落札方式に変更している。</li> <li>・平成30年度末までに全県の基礎調査の完了という最優先の課題であり、各社の契約状況、手持ちの業務量を適切に把握し執行できるように同方式による発注形式を実施していく予定である。</li> </ul>         |
| <p>⑦契約期間の日数は、落札決定日を含めず、土日・祝日を含めた5日以内となり、5日目が土日・祝日ならその翌日となっていますが、履行保証等を含め契約関係書類作成が時間的に厳しい場面もありますので、『土日・祝日を除く7日以内』としていただきたい。【新規】</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島県契約規則で決められており、全ての契約についての取り決めであり、規則改正を伴う見直しは難しいと考えている。</li> </ul>   |
| <p>⑧「品確法に基づく指針」では、「予定価格は原則として事後公表とする」となっていますが、今後の公表方法の見直しの有無とその理由に関して教えていただきたい。併せて業務価格の積算書の事後公表（閲覧）をお願いします。【新規】</p>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・予定価格の事後公表は、くじ引きによる落札の増加、適切な積算を行わずに入札した会社の受注が危惧され、技術力、経営力による競争を損ねるおそれる課題があり、本県では、低入札価格調査制度や総合評価落札方式の活用によりその改善に努めている。</li> <li>・品確法の趣旨を踏まえつつ、今後も検討していきたい。</li> </ul> |

## ■広島県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 広島県からの回答  |
|---|---|
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事は積算内訳書の事後公表について、今年の6月より契約締結後に公表している。業務についても今後検討していく。</li> </ul>                                  |
| <p>⑨業務評価結果の公表（閲覧）を全業務についてお願いします。【新規】</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度から業務の表彰制度を実施していくため、業務評価点の公表についても検討している。</li> </ul>  |
| <p><b>【関連質疑】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロポーザル方式の発注は具体的にはどのようなものがあったのでしょうか。</li> <li>・ 契約締結期間に関して、例えば、金曜日に落札決定連絡があり、土日を含み月曜日が祝日の場合、実質2日間しかない。かなり厳しい日程である。工事では問題になっていないか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度のプロポーザル発注は全6件内、営繕関係4件、土木関係2件（港湾1件）（河川1件）である。</li> <li>・ 契約締結期間について、工事の契約の状況について確認する。</li> </ul> |
| <p><b>3. 品質の確保・向上</b></p> <p><b>(1) 受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み</b></p> <p>①成果品の品質確保・向上のため、照査技術者による照査および照査報告書作成に対して、必要な工程を確保していただきたい。【新規】</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な期間は、工期内に確保されていると考える。</li> <li>・ 業務内容に変更が生じた場合、変更内容等を勘案して必要に応じて見直すべきと考える。</li> </ul>             |
| <p><b>【関連質疑】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 照査の歩掛も変わり赤黄チェックの照査時間を品質確保の点からも確保していきたいと考える。</li> <li>・ 照査に掛かる人員は、実際、2～3倍の人員とそれに伴い時間が必要であり、本省へも要望している。</li> </ul>                            |   |
| <p><b>(2) 詳細設計及び三者会議等における総合的な品質の確保</b></p> <p>①納品後にご担当者が変わられ、要望・依頼（設計条件が変わったので修正を求められる【業者からも】）がありますが、瑕疵がある場合は別として納品後の修正に</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 請負者に責が無い納品後の修正業務については、県の責において適切に対応するものとする。</li> <li>・ もし、このような案件があれば具体的に県に</li> </ul>              |

## ■広島県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望  | 広島県からの回答  |
|--|---|
| <p>については、別途業務（費用精算）としての発注をお願いします。【継続】</p>  | <p>上げて頂ければと思う。</p>  |
| <p>②仕様書・説明書等については、曖昧な表現が多い（追加作業なのも含め）ので、作業内容を明確にし、分かりやすい表記に改善していただきたい。【新規】</p> <p>◆具体例a：発注時の仕様書・説明書等には、曖昧な表現『例：〇〇設計B、と地区名、延長だけの業務内容で、実際は道路設計の線形からやり直す内容であり、しかも詳細設計、交差点設計まで行う内容』となっていた。更に変更指示、積算できるのは工期末近くになってからとなった。したがって、特記仕様書等の内容を詳細に記載し、同様に積算もお願いしたい。追加作業（変更項目）がある場合には特に、明確な仕様書記載をお願いしたい。</p> <p>◆具体例b：トンネル補修調査および各種設計の発注前に、見積りの作成依頼が近年多々あるが、見積り内容が明確でないケースが多く見られ、これらに関して個別に確認しているが、依頼される場合には見積りが適切に行えるように内容の明確化をお願いする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・見積り依頼書や入札時の設計図書にわかりやすく記載しているつもりである。</li> <li>・具体例aについては、応札時に設計図書の内容が、不明な場合は、質問書の提出をお願いし、内容確認をしてほしい。</li> <li>・契約後について、内容に差異がある場合は調査職員とその都度協議をお願いする。協議の結果、変更契約が必要と認められる場合には、契約約款や共通仕様書に基づき、受発注者協議の上で、適切に対応する。</li> <li>・具体例bについては、各機関に内容確認のための問い合わせを行ってほしい。</li> <li>・ご意見については次長会議など通じて明確に記載するように周知を行う。</li> </ul> |
| <p>【関連質疑】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国交省も具体例を提示してほしい旨があったが、業者が特定されないように提示したい。同時に良い事例も提示して周りの人たちと情報共有してもらおうと考えている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス業務がないよう職員には指導している。もしあれば、県庁に声を上げてほしい。</li> <li>・色々な要望は、事務所に言わないと変わらないことも多いので、次長会議では必ず周知するので説明しやすい事例をまとめてほしい。</li> </ul>  |



## ■広島県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタント協会からの提案と要望   | 広島県からの回答  |
|---|---|
| <p><b>(3) 維持管理・更新事業等における技術的課題の改善</b></p> <p>①内容が同種の業務を同時に複数発注する場合は、品質確保と受注機会の均等性を踏まえて、応札時期をずらしていただきたい。【継続】</p>  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 橋梁、トンネル点検については上半期に発注して業務の平準化に努めたが、浸水想定、長寿命化については不十分な点もあるので平準化発注できるよう検討していく。</li></ul>                         |
| <p><b>4. その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ i-コンストラクションが進んでいく中で、ドローン技術、CIM技術など試行を進めていく上で、県の方針はどう考えているでしょうか。</li><li>・ 各協会を巻き込んでフィールドを与えて頂き一緒に勉強していきたいと考える。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 現時点では対応していく体制になっていない。</li><li>・ まずは、国の情報を収集し、県バージョンに修正していくようなことを来年度から検討を進められるようにスケジュールを立てつつある状況である。</li></ul> |



## 岡山県との意見交換会（H28.11.15開催）

平成28年11月15日（火）岡山県庁において、岡山県と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

岡山県からは三村土木部長をはじめ4名の幹部職員が、中国支部からは小谷副支部長、林業務部会長、吉岡業務副会長、川上業務委員及び岡山県委員会から岩本委員長をはじめ7名の委

員、合計11名が出席しました。

今回は、「魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備について」、「技術力による選定について」、「品質の確保・向上について」の3目について、意見を交わすことができました。議事の要旨は、下表の通りです。

### 岡山県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望  | 岡山県からの回答  |
|--|---|
| <p><b>I. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備</b></p> <p><b>(1) 企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備</b></p> <p>①維持管理・更新事業における補修・補強設計業務について、歩掛りの改善及び発注ロットの拡大をお願いします。</p> <p>○歩掛り改善の具体的要望について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁補修設計の「対策工法の検討」について</li> </ul> <p>上部工：0.5人下部工：0.2人の歩掛りとなっており、実際の作業量とかけ離れているため、実態に即した歩掛り改善をお願いします。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本業務の歩掛り設定にあたっては、県内のコンサルタントから見積徴収して決定した経緯があります。まずは見積徴収時と現在の実作業で何が変わってきているのか具体的に情報提供いただきたいと思えます。</li> </ul>         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自走できない高所作業車の回送費」について</li> </ul> <p>本体の運転費は計上されていますが、本体を運ぶ回送費の方は計上されていません。回送費の方が高くなる場合も多いため、改善をお願いします。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁点検においては、自走できる高所作業車（トラック架装リフト車）を標準と考えておりますが、現場条件により、やむをえず自走できない高所作業車（自走式リフト車）を使用する場合は、県担当と協議していただきたい。</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁点検における橋種による補正係数について</li> </ul> <p>橋梁点検における橋種による補正係数として、RC床版橋は部材数が少ないため補正係数（<math>\beta = 0.8</math>）を乗ずることになっ</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁点検歩掛りは、現場条件・規模の異なる橋梁を1橋あたり500㎡の橋梁を標準として作成したものであり、RC床版橋については補正を行うこととしている。複合橋については、橋種毎に細分化する</li> </ul>           |

## ■岡山県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 岡山県からの回答   |
|---|--|
| <p>ています。また、複合橋の場合は1橋当たりにも占める割合が多い形式を適用することとなっています。小規模橋梁においては、建設当時のRC床板橋をPC橋や鋼橋で拡幅している例も多いのですが、2～3橋種の複合橋に対してRC床板橋の補正係数が適用されることも少なくありません。</p> <p>複合橋の場合、点検項目、写真枚数も多くなり、点検調書作成・データ入力の作業量も増えますので、補正係数の見直しをお願いします。</p> | <p>ことで積算が煩雑となるため、RC床板橋の割合により橋種の扱いを定めたものであり、当面は現状の運用でいきたいと考えています。</p>   |
| <p>②砂防基礎調査業務において、使用するソフトが指定されていないことにより、各社が自社ソフトを使用して作業を行うため成果にバラツキが生じています。</p> <p>ソフトの指定・統一、あるいは配布の検討をお願いします。</p>   | <p>②砂防基礎調査業務において、土砂災害特別警戒区域の設定にあたり、各社が作成したソフト等をそれぞれ使用しており、特にソフトの指定・統一は考えておりません。</p> <p>バラツキが生じる原因は、ガイドライン等における計算過程の単位止めなど表示基準が遵守されていないことが原因と考えられますが、成果の精度は保たれていると認識しております。</p> |
| <p>③追加業務について</p> <p>当初発注作業量より追加作業量が多くなる場合は適正な変更契約をお願いします。特に設計業務で工種が多岐にわたる場合などは打合せ回数が多くなります。また、交差点設計等における関係機関との協議も複数回に及びます。適切な対応をお願いします。(継続審議)</p>   | <p>③追加業務について当該業務における諸条件が当初契約時点と異なるなどの理由で作業量が増加する場合には、業務内容や関係機関との協議等を考慮し、適切な回数を計上し、変更契約するよう周知してまいります。</p>   |
| <p>④交通誘導員の単価引き上げについて</p> <p>現道内における作業等実施時には交通誘導員の配備を行っていますが、積算単価と実取引単価に大きな差があります。積算では、交通誘導員B単価10,500円ですが、実際には企業により差がある</p>  | <p>④交通誘導員の単価引き上げについて</p> <p>交通誘導員B単価10,500円は公共事業従事者の賃金実態を調査する公共事業労務費調査(国土交通省・農林水産省合同調査)に基づいて決定している単価です。具体的には、警備会社が実際に警備員に</p>  |

## ■岡山県との意見交換会要旨

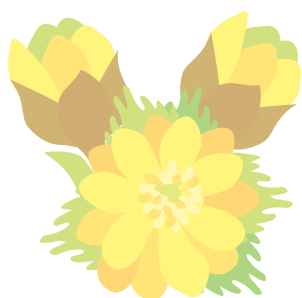
| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望  | 岡山県からの回答  |
|--|---|
| <p>ものの12,000円～15,000円程度の支払いを行っているのが実情です。このような実際の取引価格が反映されるよう改善をお願いします。また、人数についても実人数での積算をお願いします。</p>  | <p>支払った賃金を基礎資料としています。この交通誘導員B単価10,500円には、警備会社に必要な諸経費は含まれていません。なお、積算において、諸経費に一般管理費として、当該業務を実施する企業の経費を計上しており、交通誘導員Bに対する諸経費も含まれているため、適正に積算しているものと考えています。</p> <p>また、人数についてですが、当初の設計では見積参考資料に提示した人数を見込んでいますが、警察等の協議により変更が生じた場合は、別途協議することとしていますので、発注者と協議願います。</p> |
| <p><b>(2) 受発注者協働による生産性向上と就業環境の改善に向けての取組み強化</b></p> <p>①官民一体となったノー残業デー普及推進の協力と就業環境改善に向けての取組み（在社時間削、有給休暇取得推進等）への理解をお願いします。長時間労働・時間外労働を抑制し、従業員の健康を確保するため、ノー残業デーを官民一体として、徹底した取組みをお願いします。（継続審議）</p> | <p>①「ノー残業デー」等の取組みは、健全な労働環境の改善に有効であると考えており、県でも、水曜日と金曜日に「ノー残業デー」として定時退庁に取り組んでおります。貴協会の取組みについても、職員に周知してまいります。</p>  |
| <p>②品確法に基づく指針の「債務負担行為の積極的な活用、年間当初からの予算執行の徹底、年度末業務の集中を避けること等により、適正な履行期間を確保しつつ、発注・業務実施時期等の平準化に努める」ことに関し現在検討中とのことですが、現状と今後のスケジュールについてご教示をお願いします。（継続審議）</p>  | <p>②業務規模に応じた適切な履行期間を確保するため、適切な時期に発注するとともに、年度末に納期が集中しないよう努めております。今後、年度当初からの予算執行が可能となるよう、債務負担を活用し、業務実施時期の平準化に努めたいと考えております。</p>  |
| <p><b>(3) より魅力ある職業としての確立（人材の育成・確保の環境整備）</b></p> <p>①技術者のモチベーション向上のためにも、業務表彰制度の導入の検討をお願いします。</p>  | <p>①業務委託については、昨年度から成績評定の通知を始めており、技術者のモチベーション向上につながると考えており</p>   |

## ■岡山県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 岡山県からの回答  |
|---|---|
|   | <p>ます。表彰制度の導入については、今後の評価の動向を見ながら、検討してまいります。</p>   |
| <p><b>(4) 新規追加発注工種への落札率の適用</b><br/>           ①当初契約にない新規工種は、変更契約のときに当初契約落札率を適用しないようお願いいたします。</p>  | <p>①国土交通省の積算基準に準拠して運用しているため、ご理解願います。</p>  |
| <p><b>II. 技術力による選定</b><br/> <b>(1) 地方自治体における技術力重視による選定・発注の仕組みの導入促進</b><br/>           ①高度な技術力を要求する業務については、成果品の品質確保のため、価格競争から技術力重視によるプロポーザル方式、総合評価落札方式に基づく発注をお願いします。(継続審議)</p> | <p>①プロポーザル方式等については、技術的に高度な業務や専門的な技術が要求される業務において実施しているところであり、その適用範囲の拡大については、国・他県の動向を注視し、引き続き検討してまいりたいと考えております。</p> |
| <p>②成果品の品質確保・向上のために、最低制限価格のさらなる引き上げをお願いします。(継続審議)</p>   | <p>②本年4月に、最低制限価格の設定水準を引き上げたところであり、引き続き、入札の実施状況や国の調査基準価格の動向を見ながら、適正な業務の履行が図られるよう見直しについて検討してまいります。</p>              |
| <p>③継続的な成果品の品質向上のため、業務評定点の内訳(各評価項目の点数)を国土交通省と同様な公表をお願いします。</p>  | <p>③項目別評定点の内訳について、本年8月から通知を始めたところであります。</p>   |
| <p>④設計共同企業体制度の現状と今後に関してご教示をお願いします。</p>  | <p>④本県では、建築関係でこれまで2件の設計共同企業体制度の発注実績があり、今後もふさわしい業務があれば、検討してまいります。</p>  |
| <p><b>III. 品質の確保・向上</b><br/> <b>(1) 受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み</b><br/>           ①成果品の品質確保・向上のため、照査技術者による照査および照査報告書作成に</p>   | <p>①照査歩掛については、国土交通省の積算基準に基づいておりますので、ご理解願</p>  |

## ■岡山県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 岡山県からの回答  |
|---|---|
| <p>対して、照査実態に応じた照査歩掛と必要な工程の確保をお願いします。(継続審議)</p> <p>また、今後は国土交通省で実施されている「赤黄チェック」を導入することも検討されることが想定されます。その際は、同様の費用負担を前提としてください。</p> | <p>います。また、照査作業を含めた業務工程については、監督員と協議願います。</p> <p>また、本県でも本年11月から「赤黄チェック」を導入しており、国土交通省と同様の費用負担をしております。</p>                  |
| <p>②昨今の岡山県橋梁点検業務では共通仕様書及び特記仕様書において「照査技術者の配置」を義務付けていますが、岡山県標準歩掛では「照査」項目がありません。岡山県標準歩掛で「照査」の計上をお願いします。</p>                        | <p>②橋梁点検業務の「照査」については、点検結果がその後の調書作成、報告書作成などの各業務に適切に反映されているかを確認するものであり、積算計上までは考えていません。(国交省標準歩掛りの橋梁点検でも「照査」は計上されていません)</p> |



## ■ 鳥取県との意見交換会（H28.12.22開催）

平成28年12月22日（木）鳥取県庁において、鳥取県と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。鳥取県からは丸毛次長をはじめ5名の幹部職員が、中国支部からは小田支部長、林業務部会長、吉岡業務副会長及び鳥取県委員会から隅委員長をはじめ5名の委員、合計8名

が出席しました。

今回は、「魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質確保・向上」の3項目について意見を交わすことができました。議事の要旨は下表のとおりです。



鳥取県との意見交換会 丸毛県土整備部次長の挨拶



鳥取県との意見交換会 小田支部長の挨拶

### ■ 鳥取県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 鳥取県からの回答  |
|---|---|
| <p><b>I 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備</b></p> <p><b>(1) 企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備</b></p> <p>① 調査基準価格、成果品重点確認価格の一層の引き上げ</p> <p>改正品確法において明記された担い手の育成・確保、適正な利潤の確保などに向けて、さらなる調査基準価格、成果品重点価格の一層の引き上げをお願いいたします。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査基準価格については、国の算定式を準用し、失格基準価格として運用している。県の会計規則上、最低制限価格の上限が80%であり、他の役務関係業務との兼ね合いで、80%以上への引き上げは難しい状況である。</li> <li>・ 成果品重点価格については、H27に83%から85%に引き上げたばかりである。本年度県内測量業者の過去5年の決算書類を検証し、原価実態調査を行った結果、再引き上げの段階にないと判断した。</li> <li>・ しばらくは様子を見させていただきたい。</li> </ul> |

## ■鳥取県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 鳥取県からの回答  |
|---|---|
| <p>(2) 受発注者協働による生産性向上と就業環境の改善に向けての取り組み強化</p> <p>①適正工期の設定・納期の平準化の推進<br/>適正な工期（標準工期）設定、事業特性や地域事情等を踏まえた必要工期の確保と納期平準化等への取り組みによる業務執行状況の改善をお願いいたします。</p>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産性向上については、県としても重点的に取り組んでいきたい。</li> <li>・業務内容に応じた工期設定は、業務ごとに計算式を用いて適正な工期設定を行なっている。</li> <li>・災害等の業務は配慮いただきたい。</li> <li>・納期の平準化については、業務の早期発注を目指しながら行なっていくことを考えている。</li> <li>・早期発注には、ゼロ県債を、本年度からは交付金も含めて活用していくことを考えている。（H27年度：ゼロ県債・工事含め約10億円、H28年度：ゼロ県債で約24億円、委託で約6億円を予定）</li> <li>・現場を担当してくださる皆さんが業務執行しやすいように一緒になって取り組んでいきたい。</li> </ul> |
| <p>②「条件明示チェックシート」の試行<br/>発注者の条件明示の遅延等による履行期間の圧迫、作業の手戻り等を回避し、業務成果の品質確保を図るため、発注者が必要な設計条件等を確認するためのツールとして「条件明示チェックシート」の試行をお願いいたします。</p>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・難易度の高い業務では業務の、ひいては工事の円滑な実施に寄与すると考えられるため、国交省のガイドラインを確認し、検討していきたい。</li> </ul>   |
| <p>③生産性向上への取り組みの促進<br/>ICT技術活用等による測量調査～設計～施工～維持管理に係る生産性向上への取り組みを促進するため、CIMなどの研修会・勉強会などを継続的に実施していきたいと考えておりますので、ご協力・ご支援をお願いいたします。</p> <p>・1月27日に第1回勉強会開催予定。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度予算に計上して試行していく予定である。</li> <li>・国交省ではH28年度から主に土工を試行的に取り組まれているが、その成果や問題点も踏まえて、まずは県でも試行して、勉強していきたい。</li> <li>・問題は、県職員、建設業界、コンサル業界において、皆さんにどれだけ浸透しているのか、また、まず何をやっていけばいいのか、ということである。実際に試行した結果を分析していく必要があると考えている。</li> <li>・是非とも協力をお願いしたい。</li> </ul>   |



## ■鳥取県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望  | 鳥取県からの回答   |
|--|--|
| <p><b>II 技術力による選定</b><br/> <b>(2) 地方自治体における技術力重視による選定・発注の仕組みの導入促進</b><br/>           ①業務成績評定点の精度向上<br/>           担当者・検査員による個人差が見受けられますので、継続的な改善をお願いいたします。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術力重視による選定は、引き続き取り組んでいきたい。</li> <li>・業務成績評定点のバラツキについては、昨年度は、8月と12月に研修を行い目線を合わせる取り組みを行なった。</li> <li>・また、評定結果表について、総括監督員のチェックをルール化し、改善する取り組みを行なっている。</li> <li>・今後も改善を進めていきたい。</li> </ul> |
| <p>②技術力を評価する入札契約方式の一層の拡大<br/>           現在、企業・技術者の技術力を評価する主要方式として簡便型総合評価制度、技術提案型評価制度などが実施されていますが、品質確保に向けて一層の拡大をお願いいたします。</p>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大に取り組んでいる。</li> <li>・簡便型総合評価については、H27年度：51件から、H28年度：71件を実施した。技術提案型評価制度については、H27年度：5件から、H28年度：9件（県内6、県内外3）を実施した。</li> <li>・受発注者の意見を聞きながら、来年度以降の発注件数を検討していく予定である。</li> </ul>            |
| <p>③表彰制度の活用推進<br/>           表彰制度の結果を、簡便型総合評価などに反映する仕組みの検討をお願いいたします。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務成績評価点は、既に簡便型総合評価制度において、会社の平均成績点、技術者の点数として加点されており、表彰制度の結果も反映すると重複してしまう。また、表彰制度も導入されて、まだ2年目であることから、今後調整しながら検討していきたい。</li> </ul>  |
| <p>④資格・業登録等の一層の活用<br/>           改正品確法においても品質確保の観点から技術者の活用が規定されています。技術者資格（技術士、RCCM等）、建設コンサルタント業登録などの一層の活用をお願いいたします。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発注業務の予定金額や難易度により資格・業登録を活用しており、今後もその方針である。</li> <li>・社員数の少ない会社にも配慮しながら検討していきたい。</li> </ul>  |
| <p><b>III 品質の確保・向上</b><br/> <b>(1) 受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取り組み</b><br/>           ①赤黄チェックの実施、業務スケジュール管理表を用いた業務管理の試行、ワン</p>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤黄チェックにおいては、10月7日に発信した文書のとおり、既に適用している。</li> <li>・条件明示ガイドラインについても、検討していきたい。</li> </ul>  |

## ■鳥取県との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 鳥取県からの回答   |
|---|--|
| <p>デーレスポンスの実施および条件明示チェックシートの試行等の施策の効果的運用のための継続的改善の取り組みをお願いいたします。</p>  |  |
| <p><b>IV その他</b></p> <p>①入札の簡素化の推進</p> <p>現行の入札制度では、県外業者に対して、参加案件ごとに納税証明書を添付することになっていますが、この手続きの簡素化をお願いいたします。</p>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H29.4月より、全ての応札者からではなく、落札予定者にのみ提出を求めるよう検討したい。</li> </ul>   |
| <p><b>V 終わりに当たって（鳥取県より）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CIMIについて、一緒になって推進を図っていきたいと考えていますので、よろしくをお願いいたします。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鳥取県中部地震では、多大なるご支援をいただきましてありがとうございました。</li> <li>・ 引き続きよろしくをお願いいたします。</li> <li>・ 生産性向上に向けたCIMIについては、一緒になって考えていきたいので、今後ともご指導をよろしくをお願いいたします。</li> </ul> |



## ■ 広島市との意見交換会（H28.12.16開催）

平成28年12月16日（金）広島市中区地域福祉センターにおいて、広島市と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

広島市からは木村技術管理課長をはじめ4名の幹部職員が、中国支部からは小田支部長、來山総務部会長、林業務部会長および業務委員11名の合計14名が出席しました。

今回は、「魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備について」、「技術力による選定について」、「品質の確保・向上について」の3項目について、意見を交わすことができました。議事の要旨は、下表の通りです。



広島市との意見交換会 木村技術管理課長の挨拶



広島市との意見交換会 小田支部長の挨拶

### ■ 広島市との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 広島市からの回答  |
|---|---|
| <p><b>1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備について</b></p> <p><b>(1) 企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備について</b></p> <p>①社員の高齢化や若者の土木離れの状況から、担い手確保のためには、健全な企業経営による、給与水準・労働環境等の処遇改善が重要な要素であります。適正な利潤が確保できるよう、調査基準価格や最低制限価格の引き上げを引き続きお願いします。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年9月から最低制限価格の引き上げと同制度の拡大（WTO価格まで）の見直しを行っています。</li> <li>・見直し後の1年間は、入札状況等の検証を行っていきます。今後とも、皆さんの意見を聞くなどして検討していきます。</li> <li>・低入調査については、コンサルと市の職員双方の負担が大きい割に、明確な結果が出にくいので取りやめました。</li> <li>・他政令市をみると、最低制限価格制度の価格帯を拡大していくところが多いと感じています。</li> </ul> |

## ■広島市との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 広島市からの回答  |
|---|---|
| <p>②見積徴収により積算される発注案件における、歩掛は非公表となっており、適正な積算に苦慮しています。採用歩掛の公表については、いかがお考えでしょうか。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・見積歩掛については、業者のノウハウに関するものもあるので、公文書の開示請求をされても公表していません。</li> <li>・公表については、今後も国、県の対応を参考としていきます。</li> </ul>   |
| <p>③当初契約にない新規工種は、契約時落札率を適用しないでいただきたい。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・積算基準書に示すとおり、変更契約は当初契約時の落札率を適用しています。</li> <li>・業務に全く関係のない新規工種は別途業務で発注すべきであると考えていますので、無理な要求は断っていただき、問題があれば技術管理課へ申し出てください。</li> </ul>                |
| <p>④業務を円滑に効率的に進めるために打合せは重要であります。特記仕様書規定の回数よりも大幅に増えているのが実態です。受注者側のみの対応では避けられないことをご理解いただき、当初契約の回数設定と実態に即した変更契約をお願いします。</p>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議回数が実態と大きく乖離する場合は、担当課へ協議録等で根拠を示して変更協議してください。ただし、受注者側の責任で増えた協議は除きます。</li> </ul>   |
| <p>⑤技術者単価は継続的に引き上げが行われていますが、予算の制約等からか上限を抑えられ、業務内容と業務積算がアンバランスな状態となっているように思います。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務内容と積算に不整合はないものと考えており、今後も積算基準書によって積算を行います。</li> <li>・最初から歩掛を削って発注することはないと考えていますが、そのような事例が実際にあれば申し出てください。</li> </ul>                              |
| <p><b>(2) 受発注者協働による業務執行・契約執行状況と就業環境の改善に向けての取組み強化について</b></p> <p>①納品後の施工時対応での設計変更及び追加設計項目が多く、作業時間的にも人件費がかかるので、別途業務としての契約（費用精算）をお願いします。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・納品後、工事が始まってからの追加作業の事例はないものと思っておりますが、必要な場合は別途業務を発注します。</li> <li>・市に匿名メールで入った事例もあり、担当者会議の場で周知していますが、それでもこのような事例があれば、担当者あるいは上司等に申し出てください。</li> </ul> |

## ■広島市との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望   | 広島市からの回答   |
|---|--|
| <p>②官民一体となったノー残業デー普及推進の協力と就業環境改善に向けての取り組み（在社時間削減、有給休暇取得推進等）への理解を引き続きお願いします。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期限に余裕を設けた指示をしていきます。</li> </ul>  |
| <p><b>2. 技術力による選定について</b><br/> <b>(1) 地方自治体における技術力重視による選定・発注の仕組みの導入促進について</b><br/>           ①高度な技術力を要求する業務については、成果品の品質確保のため、価格競争から技術力重視によるプロポーザル方式、総合評価落札方式での発注を要望していますが、取り組み状況について教えていただきたい。</p>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高度な技術力を求める業務が少ないため事例が少ないです。</li> <li>・ 他の業界団体からは総合評価落札方式は適用しないでほしいとの要望もあり、対応に苦慮しています。また、試行で実施している事例もありますので、その事例を検証していきます。</li> <li>・ 法律解釈によると総合評価と最低制限価格の同時取り扱いはありません。</li> <li>・ プロポーザルや総合評価に適した業務内容があれば、コンサル業界からも提案していただきたい。</li> </ul> |
| <p>②企業として技術者として更に技術力や品質等の向上を推進するため、国土交通省と同様な「業務表彰制度」の導入をお願いします。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務表彰制度の導入について検討していきます。</li> </ul>   |
| <p><b>3. 品質の確保・向上について</b><br/> <b>(1) 受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取り組みについて</b><br/>           ①品質確保と労働環境改善の観点から、適切な工期を設定していただきたい。特に、関係機関協議等が多く発生する業務は、工期に余裕を持っていただきたい。また、依然として年度末（3月末）の工期が多いため、工期の平準化・早期発注をお願いします。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繰り越しを減らすために早期発注に努めているが、引き続き早期発注を行い業務規模に応じた適切な工期や平準化に努めます。</li> </ul>  |

## ■広島市との意見交換会要旨

| 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望  | 広島市からの回答   |
|--|--|
| <p><b>(2) 詳細設計及び三者会議等における総合的な品質の確保について</b></p> <p>①仕様書・説明書等については、曖昧な表現が多い(追加作業なのかも含め)ため、作業内容を明確にし、分かりやすい表記に改善していただきたい。</p>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公告後質疑が出せる制度としているので、その制度を活用してください。</li> <li>・標準歩掛の表現に合わせ、作業内容が明確になるようあいまいな表現にしないようにします。</li> </ul>          |
| <p>②施工対象の品質確保のため、発注者、設計者、施工者の三者間の設計思想の伝達や情報共有をする「三者会議」が国、県等で採用されていますが、貴市においても採用されるようお願いします。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・三者会議を導入するような大規模工事が少ないため事例がありませんが、今後必要に応じて検討していきます。</li> </ul>  |
| <p><b>4. その他について</b></p> <p>①現在、業務評価制度を実施されていますが、評価結果の利用方法とその実施時期について教えていただきたい。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公表している業務成績評定点により優良業者の限定入札を実施しています。</li> <li>・今後は、表彰制度への活用も考えています。</li> </ul>                               |
| <p>②業務積算にあたって、見積依頼が多くなっておりますが、見積りできる資料が添付されていないケースが多くあります。具体的には橋梁補強設計業務の場合、橋長のみが明示され、橋種、径間数、基礎形式、建設年次等がほとんど不明で、見積りができないので、必要最小限の資料添付をお願いします。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁台帳が簡素なものであり、出せる資料がないのが現状ですが、今後は見積りのできる資料の提供に努めます。</li> <li>・データの有無により現地調査を見積りに計上するなど対応してください。</li> </ul> |
| <p>③入札時に積算内訳書の提出が義務付けられています。業者負担軽減の観点から引き続き廃止または簡素化や落札候補者のみ提出を要望します。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・要望の主旨は理解できるが、入契法で定められたもので、ダンピング受注防止等のため工事でも行っているものです。ご理解ください。</li> </ul>                                   |
| <p>④国交省でCIMの業務発注の試行等がされていますが、CIMをはじめICT技術の活用については、どのようにお考えでしょうか。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市として事例はないが、今後国や他の自治体の状況を見ながら検討していきます。</li> </ul>   |
| <p><b>自由意見</b></p> <p>市の積算担当者の方に今日の会議の内容を周知する機会がありますか？</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本庁、区役所の関係部署へ周知します。</li> </ul>  |

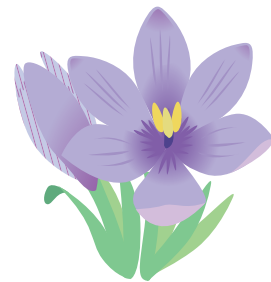
---

## ■ 協会本部と中国支部意見交換会

平成29年度の発注機関に対する「建設コンサルタントの要望と提案」の内容を固めるため、平成29年3月3日（金）にKKRホテル広島において協会本部と中国支部の意見交換会が開催されます。あらかじめ本部で作成された平成29年度の「要望と提案」の一次原案に対して、

中国支部の意見を申し入れて調整される予定です。

本部から長谷川会長他副会長、顧問、常任理事、委員長の皆様が出席され、中国支部は小田支部長他役員の皆様、常設部会長、各県委員長が出席される予定です。



## 技術部会の開催

### ●第1回技術部会・技術委員長合同会議

開催日：平成28年6月10日（金）

場所：日本技術士会中国本部会議室

- 内容：
- ・昨年度の活動報告
  - ・道路橋メンテナンス技術講習会の開催について
  - ・CIMワーキング報告
  - ・現場見学会の開催について
  - ・委員会の活動について

## 技術講習会、見学会

### ●情報セキュリティ講習会

開催日：平成28年6月28日（火）

場所：KKRホテル広島

主催：（一社）建設コンサルタンツ協会

情報部会 情報委員会

情報セキュリティ専門委員会

共催：（一社）建設コンサルタンツ協会 中国支部

講習の内容：

- ・開会挨拶  
情報セキュリティ専門委員会の活動紹介
- ・講演1  
2015年度JCCA 情報セキュリティ実態アンケートの結果から見える現状
- ・講演2  
標的型攻撃・内部不正による情報漏えいの事例と対策
- ・講演3  
情報セキュリティ対策の基本と身近なリスク

参加者：69名

趣旨：

本講習会は、建設コンサルタントとして、情報セキュリティにおける内外の脅威および

リスクを知り、どのような対策を実施すべきなのか、仕組みや事例を基に情報セキュリティ対策を考えることを目的として開催した。

講演1では、最近の情報セキュリティを取り巻く事項の中で、情報セキュリティ専門委員会が注視している内容を紹介した。また、2015年12月に実施した「JCCA 情報セキュリティの実態アンケート」の結果から、特にセキュリティ認証を取得していない会社では、ルールや基準の整備が遅れているという傾向があることを説明した。

講演2では、情報漏えい事件の2大原因となっている、標的型攻撃および内部不正について事例を紹介し、それらに対するセキュリティ対策を示した。セキュリティ対策の中でも特に、多層防御の重要性を説明した。

講演3では、情報セキュリティ対策の基本的な考え方や、身近なリスクを紹介し、それらに対する対策を示した。身の回りにあるリスクとして、情報部門だけではなく総務部門にもかかわりの深い内容を説明した。



情報セキュリティ講習会（会場全体）



情報セキュリティ講習会（受講の様子）



## ● マネジメントセミナー

開催日：平成28年7月22日（金）

場 所：KKRホテル広島

主 催：本部技術部会マネジメントシステム委員会

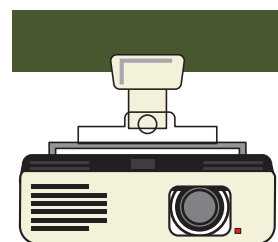
内 容：  
・ 建設コンサルタントとマネジメント  
・ PPP/PFIの政策動向と事例紹介  
・ CM業務普及に向けて  
・ マネジメントシステムを効率的に運用するために  
・ 建設コンサルタントの環境配慮マネジメント  
・ 品質の確保・向上に向けて

参加者：155名（うち発注機関2名）

本年度のマネジメントセミナーは、過年度セミナーでの意見を取り入れ、より具体的な内容にして行われるとともに、品質確保、各種マネジメント、環境配慮等、建コンが果たすべき役割や、CM方式やPFI方式活用等の最新の動向など、社会活動に合わせたタイムリーな内容で実施されました。本来会員向けのものですが発注者各位に関するものもあり、協会の取り組みの状況を知って頂く機会として発注者各位にもご案内したものです。



マネジメントセミナー受講状況



●GIS講習会2016-広島  
 (ArcGIS初級編・中級編) 開催報告

本部情報部会ICT委員会ICT普及専門委員会及びESRIジャパン様の協力のもと、GIS講習会を開催しましたので報告します。

開催日：初級編 平成28年8月29日(月)  
 中級編 平成28年8月30日(火)

場 所：日本技術士会中国本部事務局会議室

内 容：建設コンサルタント技術者として「GISとは何か、GISでどのようなことができるのか、実際の操作方法はどうか」といった、GISの基礎を習得することを目的とする。

参加【定員20名】：初級編19名  
 中級編16名

スケジュール(初級編・中級編とも同様)

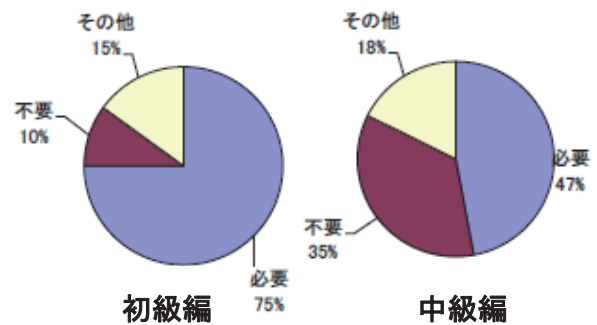
- 9:45 ~ 10:00 受付・パソコンセット
- 10:00 ~ 12:00 講習
- 12:00 ~ 13:00 昼食・休憩(各自)
- 13:00 ~ 16:30 講習
- 16:30 ~ 17:00 まとめ、その他の紹介など



講習会の状況

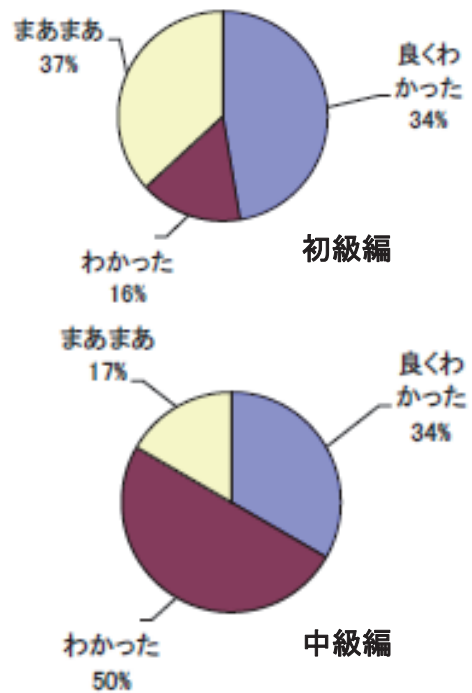
2日間連続して受講される方が大半です。講習会では毎回アンケートを実施しています。今回は初級編と中級編で差があるものについてご紹介します。

まず「今後のGIS講習の必要性」について、中級編は1/3の方が不要としています。



今後のGIS講習の必要性

次に「講習内容の理解度」について、「わからなかった」との回答はなかったものの、やはり中級編の方が少し難しいと読み取れる結果となっています。



講習内容の理解度

他支部においてもこのGIS講習会は非常に人気がある講習会ですが、ハンズオンであることから定員を増やすことができないものです。

これらの結果を踏まえて、例えば初級編と中級編の受講対象者を変えるなど、工夫しながら、来年度も開催に向けて本部と調整していきたいと考えています。

# 現場見学会報告

中電技術コンサルタント株式会社  
道路交通部 片山 大輔

## はじめに

山陰道 長門・俵山道路は、並行する一般国道491号や主要地方道下関長門線の代替路としての目的を有し、山陰地方の高規格幹線道路網の一部を形成する自動車専用道路である。

その中で、今回の現場見学会では、大寧寺第2トンネル、第3トンネルおよび赤ノ谷橋上部工工事を見学した。

## 大寧寺第2、第3トンネル

2つのトンネルの工事現場では、トンネルの施工方法や仮設備について説明を受け、施工時の問題点や留意事項などを学ぶことができた。見学時間も長かったため、坑口周辺やトンネル内部、仮設備など細部まで見学することができ、目の前にある実物と今まで想像していた施工現場のイメージとのギャップに戸惑い、現場を知っていることは大きな強みであることを知った。また、同一路線のトンネル工事でも場所が異なると、施工ヤードの整備方法や工事用道路の構造などが異なるため、トンネル本体の工事以外でも様々なことを学ぶことができた。



大寧寺第3トンネル

## 赤ノ谷橋

赤ノ谷橋は、延長L=170mのPC 3径間ラーメン箱桁橋である。現場見学時は、上部工工事をし

ており、見るもののほとんどが新鮮であったため、その迫りに圧倒された。上部工の仮設計画などは見たことがあったが、実際の現場は机上で見たものとは異なり様々な安全対策がとられており、仮設計画においても設計者側と施工者側の認識の差を感じることができた。構造物を検討する上で、最適な形式を選定することも重要であるが、施工性は実際の現場を見て判断することが大切だと知った。



赤ノ谷橋上部工

## 現場見学会に参加して

これまで、道路工事の現場を見ることはあったが、トンネル工事や橋梁工事の現場を見学したことはなかったため、全てが新鮮であり大変有意義な見学会であった。トンネルについては、設計に関わったことがあり、現場のことを理解していると思っていたが、実際の施工現場と設計図面の関係性が把握できず、現場を見ることの大切さを感じた。

今後は、積極的に現場に行き、施工者側の考え方、施工現場で実際に起こっていることを理解し、設計者としての視点だけでなく、施工者側の視点も踏まえ、利用者、施工者全ての人々が安全で安心な社会インフラ整備について考えていきたい。

●品質セミナー “エラー防止のために”

開催日：平成28年10月18日（火）  
 場 所：KKRホテル広島  
 主 催：本部技術部会技術委員会  
 内 容：・セミナー概要説明  
           ・エラーの技術的分析と改善策  
           (1) 道路／トンネル  
           (2) 橋梁  
           (3) 土質・地質  
           (4) 港湾  
           (5) 河川構造物  
           (6) 砂防・急傾斜  
 参加者：138名（うち発注機関11名）

品質セミナーは、品質に対する発注者の問題意識が高いなかで、協会会員の技術力向上のため

の努力の一端として例年開催されているものです。今年度は多くの多様なエラー事例から内容の一層の充実が図られ、更にこれまでのアンケート結果を踏まえて新たに港湾分野についても講義が行われました。このセミナーは本来会員向けのものですが、エラー防止には発注者の行動も大きな影響をもつことを認識して頂く機会でもあり、発注者各位にもご案内したものです。



品質セミナー 受講状況

●ICTセミナー 2016 開催報告

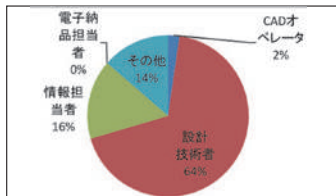
本部情報部会ICT委員会ICT普及専門委員会及びOCF会員会社様の協力のもと、ICTセミナーを開催しましたので報告します。  
 日 時：平成28年10月31日(月) 13:30～16:55  
 場 所：広島県総合体育館 大会議室  
 内 容：CIM、i-Constructionの動向と関連する周辺技術の紹介、OCFの活動報告と関連ソフトの紹介  
 参加者：43名（申込者：65名）

スケジュール：

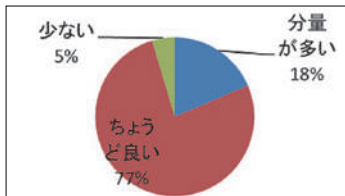
- 第1部13:30～14:40 CIMについて（前半）
- 第2部14:50～15:40 CIMについて（後半）他
- 第3部15:50～16:55 OCFの活動報告と関連ソフトの紹介

定員120名に対して43名の参加と、参加者は多くなかった（昨年度は59名）。アンケート結果を昨年度と比較してみると、ほとんど同様の結果となっている。技術者がCIMやi-Constructionに関心を持っていることは伺われるので、講義内容への満足度向上、受講者増加を目指したい。

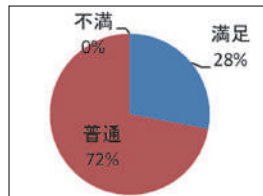
1 職種



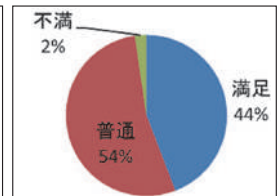
3 講義分量



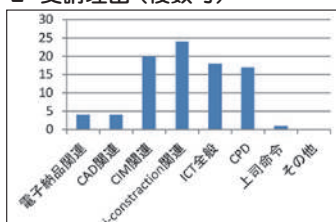
4 講義内容



5 会場感想



2 受講理由（複数可）



ICTセミナー 2016 受講状況

## 研修講師の派遣

### ①中国地方整備局

| 研修名         | 実施日                         | 派遣講師                   |
|-------------|-----------------------------|------------------------|
| 建設生産システムⅡ研修 | 28. 7. 5 (火)                | 矢木一光・木原智晴(復建調査設計㈱)     |
| 基礎技術Ⅰ研修     | 28. 7.28 (木)<br>～ 7.29 (金)  | 吉田仁司・清水豊・山本浩一(復建調査設計㈱) |
| 砂防計画研修      | 28.10.26 (水)                | 荒木義則(中電技術コンサルタント㈱)     |
| 基礎技術Ⅱ研修     | 28.12. 1 (木)                | 木原智晴(復建調査設計㈱)          |
| 構造物設計Ⅱ研修    | 28.12. 5 (月)<br>～ 12. 9 (金) | 田淵智秀・高龍(新日本技研㈱)        |
| 橋梁勉強会       | 28.12.16 (金)                | 日高卓也・有井賢次(㈱長大)         |

### ②国土交通省三次河川国道事務所

| 研修名         | 実施日          | 派遣講師        |
|-------------|--------------|-------------|
| 橋梁設計概論      | 28. 6.28 (火) | 高 龍(新日本技研㈱) |
| 橋梁補修設計      | 28. 9.26 (月) | 高 龍(新日本技研㈱) |
| 設計照査とミス事例   | 28.12.16 (金) | 高 龍(新日本技研㈱) |
| 道路橋示方書の改定概要 | 29. 3. 6 (月) | 日高卓也(㈱長大)   |

### ③国土交通省倉吉河川国道事務所

| 研修名                                    | 実施日          | 派遣講師             |
|--|--------------|------------------|
| i-Construction全般にわたる<br>座学及び3次元測量の実地見学 | 28.12.13 (火) | 奥田真二(㈱エイト日本技術開発) |

### ④広島県

| 研修名       | 実施日                        | 派遣講師  |
|-----------|----------------------------|---|
| 設計実践講座    | 28. 6.27 (月)<br>～ 6.28 (火) | 田淵智秀(新日本技研㈱)                                |
| 測量実践講座    | 28. 7. 6 (水)               | 上治孝文・松仁美治(㈱陸地コンサルタント)                       |
| 中級Ⅱ講座     | 28. 8. 2 (火)<br>～ 8. 3 (水) | 綾貴穂・大下茂・吉田仁司・真鍋孝志<br>渡邊聡・木原智晴・平岡敦彦(復建調査設計㈱) |
| 地質調査等実践講座 | 28. 8.30 (火)               | 山口浩司(中電技術コンサルタント㈱)                          |

⑤広島市

| 研修名    | 実施日          | 派遣講師                |
|--------|--------------|---------------------|
| 土木専門研修 | 28.11.18 (金) | 山本浩一・矢木一光 (復建調査設計㈱) |

⑥広島高速道路公社

| 研修名                | 実施日          | 派遣講師          |
|--------------------|--------------|---------------|
| 熊本地震による橋梁の被害状況について | 28. 9. 7 (水) | 吉国大介 (新日本技研㈱) |
| 橋梁補修設計について         | 28.11.22 (火) | 高龍 (新日本技研㈱)   |

⑦公益財団法人岡山県建設技術センター

| 研修名                     | 実施日                         | 派遣講師                               |
|-------------------------|-----------------------------|------------------------------------|
| コンクリート構造物の点検・診断・補修 (上級) | 28.10. 3 (月)<br>～ 10. 4 (火) | 永田裕司・羽守紀幸・海野達夫・宮原哲<br>(㈱エイト日本技術開発) |
| 会計検査指摘事項の検証 (上級)        | 28.11.28 (月)                | 金田博志 (㈱エイト日本技術開発)                  |



## CIM推進ワーキング活動報告

国土交通省中国地方整備局「中国地方建設現場における生産性向上研究会」への対応などのため、技術部会傘下の組織としてCIM推進ワーキングを立ち上げましたので、その活動について報告します。

### 【ワーキング構成会員会社】

復建調査設計、ニュージェック、エイト日本技術開発、中電技術CT、パシフィックCT、八千代E、ウエスコ、荒谷建設CT、いであ、アジア航測

### 【活動記録】

○JACICとの意見交換会

平成28年1月27日(水)

○「第1回中国地方建設現場の生産性向上研究会の開催に向けた事前打合せ」に対応

平成28年3月1日(火)

○「第1回中国地方建設現場の生産性向上研究会」に対応

平成28年3月22日(火)

「CIMの取り組みについて」20分説明

○ワーキング

平成28年10月4日(火) 15:00～16:50

9月8日、中国地方整備局CIM担当者より要請を受け「維持管理に必要なデータ」について議論

○「維持管理に必要なデータ案」を中国地方整備局技術管理課に提出

平成28年11月7日(月)

○「建設現場における生産性向上研究会合同ワーキング」に対応

平成28年11月15日(火)

建設コンサルタンツ協会としては以下の2点についてのみ発言しました。

①今後、設計用の公共測量を3次元で実施した場合、工事時点での起工測量は実施しないことで良いのか

⇒樹木等がある場合は、起工測量は必要

②人材教育について

⇒ハンズオンの講習を実施。定員を多く設定できないため、3次元設計の発注やソフトの開発状況を鑑みながら、対応予定

### 【維持管理に必要なデータ案】

《対象資産》

道路、橋梁、トンネル、堤防・護岸、樋門・樋管

《維持管理のシーン》

点検、資産管理、補修、災害・事故時

《情報作成時点》

調査、設計、施工、点検

※これから作成されるデータを対象

### 整理例：道路の場合

| 維持管理に必要なデータ<br>(凡例：3Dモデル、属性<br>網掛けが濃いほど重要) | 作成<br>時期 | 維持管理のシーン |          |    |            |
|--|----------|----------|----------|----|------------|
|  |          | 点検       | 資産<br>管理 | 補修 | 災害・<br>事故時 |
| 交通センサス                                     | 1:調査     |          | ○        | ○  | ○          |
| 事故台帳                                       | 1:調査     |          |          |    | ○          |
| 地層線  | 1:調査     |          |          | ○  | ○          |
| 道路台帳                                       | 1:調査     | ○        | ○        | ○  | ○          |
| 照明   | 2:設計     | ○        | ○        | ○  | ○          |
| 信号・規制標示                                    | 2:設計     | ○        |          | ○  | ○          |
| 設計計算書                                      | 2:設計     |          | ○        | ○  | ○          |
| 地下埋設物                                      | 2:設計     |          |          | ○  | ○          |
| 道路設計図                                      | 2:設計     |          |          | ○  | ○          |
| 道路中心線                                      | 2:設計     | ○        |          | ○  | ○          |
| 標識台帳                                       | 2:設計     | ○        | ○        | ○  | ○          |
| 用地境界座標                                     | 2:設計     |          |          | ○  | ○          |
| 施工後の出来形図                                   | 3:施工     | ○        | ○        | ○  | ○          |
| 舗装   | 3:施工     | ○        | ○        | ○  | ○          |
| 点検調書・補修履歴                                  | 4:点検     | ○        | ○        | ○  | ○          |

## 河川委員会の活動報告

### ●河川委員会の開催

#### 第1回河川委員会

開催日：平成28年5月11日（水）

開催場所：日本技術士会中国本部会議室

議題：平成28年度活動方針について

#### 第2回河川委員会

開催日：平成28年6月8日（水）

開催場所：日本技術士会中国本部会議室

議題：中国整備局との河川技術交流会の活動について  
「川の魅力発見」について

#### 第3回河川委員会

開催日：平成28年7月13日（水）

開催場所：日本技術士会中国本部会議室

議題：「川の魅力発見」について  
クリーン太田川について  
「川マップ」配布について

#### 第4回河川委員会

開催日：平成28年9月7日（水）

開催場所：日本技術士会中国本部会議室

議題：河川講習会について  
（中国地方整備局との河川技術交流会）

#### 第5回河川委員会

開催日：平成28年10月5日（水）

開催場所：日本技術士会中国本部会議室

議題：河川講習会について  
（中国地方整備局との河川技術交流会）  
「川の魅力発見」について

#### 第6回河川委員会

開催日：平成28年12月14日（水）

開催場所：日本技術士会中国本部会議室

議題：河川講習会開催報告  
（中国地方整備局との河川技術交流会）  
「川の魅力発見」について  
平成29年度の活動方針について

### ●クリーン太田川参加報告

「クリーン太田川」は、広島県を代表する“太田川”を、河川清掃を通じて美しい河川環境にすることを目的として実施されており、今年度も河川委員会の活動の一環として、以下のとおり「クリーン太田川」に参加しました。

日時：平成28年7月24日（日）

場所：太田川放水路右岸（三滝橋～新己斐橋）

主催：クリーン太田川実行委員会  
（広島市、広島県、国土交通省等）

内容：太田川 河川一斉清掃

参加者：河川委員会他 18名





## ●河川講習会開催報告

### 1. 講習会概要

中国地方整備局河川部と（一社）建設コンサルタンツ協会中国支部では、平成24年度より「(仮称)中国地方河川技術交流会」を立ち上げ、活動を行っています。

河川技術交流会は、河川技術全般における現状の課題を整理し意見交換を行うことで共通認識を持ち、河川技術の維持・向上および業務を推進する基礎的技術力の向上を目的としています。

今年度は、上記活動の一環として、「平成28年度 河川講習会」を開催しました。

開催日：平成28年10月25日（火）

14:30～17:00

場 所：KKRホテル広島

主 催：（一社）建設コンサルタンツ協会  
中国支部

参加者：53名

内 容：①鳥取県中部地震被害状況報告  
国土交通省 中国地方整備局  
河川部 河川計画課  
計画第二係長 山下 篤志 氏  
②河川維持管理DB（RMDIS）の運用状況等について  
国土交通省 中国地方整備局  
河川部  
河川保全専門官 今岡 俊和 氏  
③大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方について  
国土交通省 中国地方整備局  
河川部 河川計画課  
調査第一係長 水谷 一馬 氏

### 2. 講習内容

#### 1) 鳥取県中部地震被害状況報告

平成28年10月21日に発生した鳥取県中部地震における直轄河川の堤防被災状況や被災後の対応状況について紹介して頂きました。

- ・中国地方整備局で、TEC-FORCE 77名が構成され、現地に派遣された。
- ・天神川左岸小鴨川において、天端の亀裂が確認され、最大H=1.68m、W=0.12mの

クラックが発生していた。

- ・堤体のすべりは確認されなかったため、応急復旧を完了後、来年の出水期までに対策を検討する予定。



中国地方整備局 山下計画第二係長の講演

#### 2) 河川維持管理DB（RMDIS）の運用状況等について

笹子トンネル事故を発端として、構築の必要性が提言された、河川維持管理DB（RMDIS）の運用状況について紹介して頂きました。

- ・RMDISは関東を中心に開発された維持管理専用のDBであり、全国に展開。
- ・事務所内や巡視点検者を対象に利活用されるシステムで、現地で点検結果をポータブル端末に入力後、事務所内DBにダウンロードして、出張所、事務所、整備局の3者で統括的に管理し、帳票作成の効率化、河川特性の把握、河川管理データの一元的管理を図るシステム。



中国地方整備局 今岡河川保全専門官の講演

- ・ 構造物の履歴などの重要なデータも含まれることから、業務への活用も可能。

### 3) 大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方について

「水防災意識社会再構築ビジョンに向けた取組」として、減災対策協議会の概要と具体的な取組み状況について、中国地方整備局の河川を取り上げて紹介して頂きました。

- ・ 行政・住民・企業等の各主体が減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する取組み。
- ・ 取組みの効果的な展開を確認する協議会の開催、必要に応じて対策の見直しと改善を行うフォローアップの実施など、持続的な展開が期待される取組みである。



中国地方整備局 水谷調査第一係長の講演

### 3. おわりに

今回の講習会では、鳥取地震の状況や日頃接することの少ない内容についても講演頂け、非常に有意義であったと思います。来年度以降も、「中国地方河川技術交流会」をとおして、技術の研鑽に努めたいと考えております。



## 道路委員会の活動報告

### ●道路委員会の開催状況と主な内容

| 回数  | 開催日      | 主な内容   |
|-----|----------|--|
| 17回 | 4月6日(水)  | ・平成28年度の活動方針について意見交換<br>・平成27年度の竣工検査について意見交換           |
| 18回 | 5月11日(水) | ・CIMに関する話題提供(講師:亀田雄二氏)<br>・業務上の問題点について意見交換(各社報告)       |
| 19回 | 6月8日(水)  | ・ラウンドアバウト現地見学会<br>※岡山県浅口市寄島地内(矢掛寄島線と倉敷笠岡線との交差)         |
| 20回 | 7月6日(水)  | ・業務上の問題点について意見交換(各社報告)<br>・標識、路面表示の調査結果について意見交換(各社報告)  |
| 21回 | 8月3日(水)  | ・業務上の問題点について意見交換(各社報告)<br>・「新技術の活用」について情報提供(山本副委員長)    |
| 22回 | 9月7日(水)  | ・業務上の問題点について意見交換(各社報告)<br>・標識、路面表示の調査結果について意見交換(各社報告)  |
| 23回 | 10月5日(水) | ・スーパーテールアルメに関する話題提供(講師:岡野実氏)<br>・業務上の問題点について意見交換(各社報告) |
| 24回 | 11月2日(水) | ・業務上の問題点について意見交換(各社報告)<br>・新たな議題について意見交換               |
| 25回 | 12月7日(水) | ・業務上の問題点について意見交換(各社報告)<br>・新技術、新工法について情報提供(各社報告)       |

※場所は八千代エンジニアリング(株)と復建調査設計(株)の持ち回り  
※活動時間は17:00～18:00を基本



### ●業務の問題解決とCIMの最新動向の共有

道路委員長 矢木 一 光

平成28年度の道路委員会は、4月委員会から再開し、12月委員会まで9回(通期17回～25回)開催した。

今年度は新たに、(株)ヒロコン、西日本高速道路エンジニアリング中国(株)の2社を迎え、委員が20名となった。

全ての委員会について、委員の約7割以上が参加しており、熱心な活動となった。

今年度の主な活動内容は、前出の一覧表のとおりであり、平成27年度からの継続したテ-

マに加えて、最近の話題を織り交ぜ、意見交換する活動とした。

中でも、6月の岡山での「ラウンドアバウト見学会」については、先行事例を見学し、各委員の疑問について、その場で意見交換したもので、委員間でも好評であった。

また、CIMに関する最新動向について講演を通じて情報共有できたのも好評であった。

平成29年度についても、見学会や様々な分野の講師を招くなどの活動をすすめて、有益な知見を共有したいと考えている。

## 構造委員会の活動報告

### ●構造委員会の開催

| 回 | 開催日          | 内 容   |
|---|--------------|---|
| 1 | 28. 5.27 (金) | ・道路橋メンテナンス技術講習会について<br>・エラー事例収集について<br>・分科会活動(活動方針等)について  |
| 2 | 28. 9.16 (金) | ・防護柵の取替事例の紹介について<br>・橋梁保全意見交換会メンバー報告について<br>・H28道路橋メンテナンス技術講習会の対応報告<br>・外5議題                          |
| 3 | 28.12. 2 (金) | ・道示改定に関する意見聴取について<br>・PC技術講習会後のアンケート結果について<br>・日本橋梁建設協会との意見交換会(「鋼橋の魅力」・「工事費実績」について「熊本地震橋梁被害調査報告」について) |



### ●PC技術講習会

開催日：平成28年10月26日(水)

場 所：KKRホテル広島

主 催：(一社)プレストレスト・コンクリート  
建設業協会  
(一社)建設コンサルタンツ協会  
中国支部構造委員会

講習会の内容：

- (1) 開会挨拶
- (2) PC橋の最近の話題
- (3) PC橋の架設計画(施工計画)と積算
- (4) PC橋の維持管理および補修技術の現状
- (5) 「PC橋の設計施工のQ&A集(平成28年4月発刊)」について事例紹介
- (6) 質疑応答
- (7) 閉会挨拶

参加者：43名



PC技術講習会 中村構造副委員長挨拶

## 港湾委員会の活動報告

### ●港湾委員会の開催

- 第1回港湾委員会：平成28年7月12日（火）  
場 所：日本技術士会中国本部会議室  
（第3ウエノヤビル6階）  
内 容：平成28年度 技術部会・委員合同会議  
報告  
平成28年度の活動方針について  
「漁港・漁場の施設の設計参考図書」  
の勉強会  
・「漁港・漁場の施設の設計参考図書」  
と旧黒本との概略変更部分  
・管理者向け説明会資料
- 第2回港湾委員会：平成28年9月14日（水）  
場 所：日本技術士会中国本部会議室  
（第3ウエノヤビル6階）  
内 容：「漁港・漁場の施設の設計参考図書」  
の勉強会  
・管理者向け説明会資料  
・総論・設計条件

- 第3回港湾委員会：平成28年10月11日（火）  
場 所：日本技術士会中国本部会議室  
（第3ウエノヤビル6階）  
内 容：「漁港・漁場の施設の設計参考図書」  
の勉強会  
・第2編 第5章 津波～第13章 荷重  
・第3編 材料及び諸係数  
・RC浮栈橋の維持管理計画について
- 第4回港湾委員会：平成28年12月9日（金）  
場 所：まちづくり市民交流プラザ研修室B  
（北棟5階）  
内 容：「漁港・漁場の施設の設計参考図書」  
の勉強会  
・第4編 基礎～第5編 外郭施設  
・第6編 係留施設～第10編 荷捌き所  
・平成29年度活動テーマ等

### ●港湾関連技術講演会：平成28年12月9日（金）

- 場 所：まちづくり市民交流プラザ研修室B  
（北棟5階）  
講演題目：  
1) 大口径相対攪拌工法『KS-S・MIX工法』  
あおみ建設 土木本部地盤改良部  
大古利 勝己 様  
2) 港湾施設等に対する電磁波レーダー探査  
みらい建設工業 技術本部技術開発室  
足立 雅樹 様

- 3) アジテータ車のドラム内に設置したプローブによる特殊コンクリートの品質推定  
東洋建設 土木事業本部総合技術研究所美浦研究所  
竹中 寛 様  
4) 浸透固化処理工法における調査・設計・施工上の留意点  
五洋建設 土木設計部・地盤耐震グループ  
山本 敦 様  
5) 没水型長周期波対策工  
不動テトラ 総合技術研究所水理研究室  
久保田 真一 様



港湾関連技術講習会（受講の様子）①



港湾関連技術講習会（受講の様子）②

## 防災委員会の活動報告

### ●防災委員会の開催

| 回 | 開催日          | 内容  |
|---|--------------|---|
| 1 | 28. 4.26 (火) | ・平成28年度の活動計画について(防災教育.講演会.社会貢献活動、若手技術交流、防災見学会)  |
| 2 | 28. 8.25 (木) | ・防災パンフレットの作成について<br>・平成28年度の活動計画(小学校の防災教育、砂防課出前講座、公民館防災講座)について<br>・現場見学会(熊本地震)について  |
| 3 | 28.12. 9 (金) | ・話題提供(東北沖における約100年間の地層記録と2011年の海底攪乱の記録外2題)<br>・防災計画(本年の実績と予定)について<br>・現場見学会報告(熊本地震の被災状況調査及び見学会)<br>・広島土砂災害から2年 安佐南区防災訓練・防災フェア報告<br>・防災パンフレットの作成(最終印刷に向けて)について |



### ●第1回防災講演会

「みんなで考える地震災害～日本列島に潜むリスクと熊本地震災害～」

4月14日と16日に震度7の地震が熊本地方で発生した。依然として余震活動は収束しないなか、現地では復旧作業も進められている。今回の講演会では熊本地震被害の実態を土木と建築両面から紹介していただくとともに、日本列島に潜む新たなリスクについて最新の研究成果について興味深い話題を提供していただいた。

主催：(一社)建設コンサルタンツ協会中国支部 防災委員会

(公社)日本技術士会中国本部 防災委員会

共催：広島県災害復興支援士業連絡会

後援：中国地方防災研究会

日時：平成28年8月25日(木)

13:30～17:10(220分)

場所：広島弁護士会館3Fホール

参加者：240名

内容 基調講演1

「GPS地殻変動観測データから明らかになった西南日本のひずみ集中帯」

京都大学防災研究所准教授

西村 卓也 氏

基調講演2

「熊本地震における地盤災害について」

山口大学大学院創成科学研究科

特命教授 兵動 正幸 氏

基調講演3

「熊本地震における熊本市内の建築物の被害状況と被災建築物応急危険度判定について」

国土交通省 近畿地方整備局

営繕部 営繕調査官 原田 和幸 氏

## ●第2回防災講演会

「みんなで考える地震災害—鳥取中部地震のメカニズムと被害状況」

平成28年10月21日に鳥取県倉吉市南部を震源とするM6.6最大震度6弱を記録する地震が発生した。今回の講演会では地震のメカニズムと被害の状況および支援活動について4名の講師の方に講演をしていただいた。

主催：(一社)建設コンサルタンツ協会中国支部 防災委員会  
(公社)日本技術士会中国本部 防災委員会

共催：広島県災害復興支援士業連絡会

日時：平成29年2月13日(月)  
13:30～17:00(210分)

場所：広島弁護士会館3Fホール

参加者：125名

内容：基調講演1

「鳥取中部地震：地震発生の背景と地震動に及ぼす地盤の影響」

鳥取大学工学部

地域安全工学センター長

香川 敬生 氏

基調講演2

「鳥取中部地震：外観調査に基づく建築物の被害報告」

鳥取大学工学研究科 向坊 恭介 氏

基調講演3

「鳥取中部地震：土木構造物等の被害記録」

シンワ技研コンサルタント株式会社

新 任修 氏



## ●防災委員会現地見学会

熊本地震 被災状況 見学会

防災委員会では11月5日(土)と11月6日(日)に平成28年熊本地震災害の被災状況調査および見学会を企画し、19名の参加のもとに実施した。視察対象は4月14日と16日に震度7の地震に見舞われた熊本県益城町と阿蘇市および南阿蘇村です。

### 【見学要旨】

4月14日と16日に震度7の地震が熊本地方で発生した。ようやく余震活動は収束にむかい、現地では復旧作業が進められている。今回の見学会では、熊本地震被害の実態を斜面災害および土木施設と建築物被害の面から観察した。

日本列島では、どこでも大きな地震が発生する危険が迫っている。今回の見学会で得た知見は、今後の防災教育の場で紹介し、地震災害に対する啓発活動に活用したいと考えている。

### ①益城町宮園での建築物被害の観察

益城町の中心部である宮園地区は最も建物被害の大きい地区である。秋津川の右岸(北側)の丘陵地に位置し、ほとんどの建物が全壊した状態である。視察ルートは益城町役場から南に約300m下り、東に約200m移動して、県道を通って役場まで戻った。家屋の撤去作業のため、重機やトラックが侵入している宅地もあるが、多くは手つかずの状態に残っている。

### ②益城町三竹、堂園の活断層露頭(地表露出部)

益城町の三竹～堂園では布田川断層が地表に現れ、耕作地に変位が発生している状況が観察された。

断層は右横ずれで変位量は約2m、三竹では0.5m程度の高さの変位も認められた。

### ③阿蘇神社の被害

阿蘇神社は江戸時代後期に建造された建物で、楼門は国指定重要文化財になっている。今回の地震では楼門と拝殿が完全に座屈するように全壊した。復元までには10年の歳月が必要とのことである。

K-NET一の宮(阿蘇神社から1.5km)の地震波記録では周期3秒の長周期波が卓越しており、上部が極端に重く、剛性の低い建物が選択的に破壊されたと考えられている。周辺の建物には大きな被害は認められない。

### ④阿蘇カルデラ内の陥没性断裂

阿蘇カルデラ内の阿蘇市北西部で、横に動く地すべりが発生し約9kmに渡って断続的に陥没が発生している。カルデラ内は地下50m付近を境に、上部に沖積世の柔らかい地盤(湖成層)が分布している。温泉の配管の調査では深度50m付近で曲がったり、破損していることが分かっており、今回の地震で水平方向に変位した可能性がある。地表面の陥没性断裂の原因はよく分かっていないが、この地すべりに起因する可能性もある。(西日本新聞 10月10日)

### ⑤阿蘇大橋の落橋と大規模斜面崩壊

阿蘇大橋は1970年に完成した、橋長205.96m、幅員8m、黒川の谷底から高さ76mのアーチ型のトラス橋であった。今回の地震により発生した西側斜面の大崩壊に伴い、橋桁は落下し、両岸の橋台のみが残った。

西側の斜面崩壊は50万 $m^3$ (斜面長約700m、幅約200m)にわたって崩壊する大規模なもので、豊肥本線・国道57号もろとも阿蘇大橋は橋台と桁の一部を残して崩落した。

橋の再建は国が事業費の大半を負担する方針だが、16年7月5日に国土交通省が元の場所から600m下流に橋を架け直すこと発表した。設計後に本格着工するまでは数年程度かかる見通しである。

### ⑥京都大学火山研究所周辺の大規模地すべり

京大火山研究所は約5万年前の噴火による溶岩円頂丘の頂上に位置し、地表部には13m程度の厚さを持つテフラに覆われている。テフラ層下部には2万6千年前の噴火による草千里ヶ浜火山降下軽石と考えられる軽石層が存在し、この軽石層が流動性崩壊の地すべり面となっている。



益城町中心部



阿蘇大橋落橋現場



京大火山研究所地すべり



## ●防災委員会社会貢献活動

### 防災教育

技術部会防災委員会 委員長

榎ヒロコン 青原啓詞

社会貢献活動として行っている防災教育は、平成17年から小中学生と高齢者を対象として行っており、この活動は本年度で12年目を迎え、合計44箇所で開催しています。

今年行った防災教育は以下の5回です。

- ・ 9月16日 広島市立中島小学校 3年生 78名
- ・ 10月25日 広島市立三入小学校 6年生 75名
- ・ 11月25日 広島市立鈴張小学校 4年生 20名
- ・ 12月16日 広島市佐伯区美鈴が丘公民館  
お達者クラブ 40名
- ・ 1月30日 広島市立久地南小学校 5年生 30名

以下に9月16日広島市立中島小学校で行った例を紹介します。

本講座では、地震災害、洪水災害、土砂災害の危険性について、「災害についてみんなで考えよう」をテーマに行ったものである。

中島小学校は平和公園に近接する広島市の中心部に位置し、本川と元安川に挟まれた三角州に位置している。このため、講座の内容は主に地震津波災害と洪水災害を中心とし、土砂災害については一昨年の広島豪雨災害の紹介とした。ハザードマップは学校側の要望があり、洪水浸水を対象としたハザードマップを使用した。

対象が小学3年生であることから、説明用のパワーポイントには簡易な用語を用い、ふりがなを振ってわかりやすいものとした。また、高知県の防災教育で使われている「やなせたかし」のキャラクターをはめ込んで、子供達が入り込

みやすい教材を作った。

### (1) 災害ってなに？ 広島でおこる災害について

#### ①地震、津波災害

平成7年1月阪神淡路大震災、平成23年3月東日本大震災の被災事例を紹介。

#### ②洪水災害

平成27年9月茨城県常総市、平成28年8月岩手県と北海道の洪水被災事例を紹介。

#### ③土砂災害

平成26年8月広島豪雨災害の土砂災害事例を紹介。

### (2) 災害時の避難について

#### ①地震が起きた時の行動について

#### ②近くの避難施設について

#### ③中島小学校の近くで洪水が起きた時の浸水深さについて

### (3) 授業を受けた感想（アンケートより抜粋）

#### ①災害がどんなに大変かよく分かりました。

災害が起きたら教えてもらったとおり、あせらず、急がず、「おはしも」をまもり、自分の大切な【命】を守りたいと思います。

#### ②災害で命をおとしている人が沢山いることが分かりました。

#### ③今まで災害のことなど何も考えていなかったけれど、今日、学習していろいろなことを考えなければならないと思いました。

#### ④今日帰ってから、津波と地震について話合ってみたいと思います。

#### ⑤地震が起きたら火事になることをはじめて知りました。津波では大きなビルが倒れたりビルの上まで車が持ち上げられたりすることが分かりました。地震や津波の怖さが分かりました。



1 組集合写真



ハザードマップ作成風景



ハザードマップの発表

## 地域計画委員会の活動報告

(委員長：森島誠司)

中国支部(地域計画委員会)では、『社会貢献活動：NPO等と連携したフォーラム、イベントの企画、参画』において、右表のとおり定期的に会議を開催し、①まちづくり出前授業、②外国人向けまち歩きガイドの検証、③他団体との協働によるまちづくり活動、④まちトーク(まちづくりに係るフォーラム)及び報告書のとりまとめなどの活動を実施した。



[平成28年度委員会開催実績]

|     | 開催月日   | 参加人数 |
|-----|--------|------|
| 第1回 | 4月27日  | 16名  |
| 第2回 | 5月26日  | 22名  |
| 第3回 | 6月22日  | 14名  |
| 第4回 | 7月20日  | 14名  |
| 第5回 | 8月24日  | 18名  |
| 第6回 | 9月21日  | 16名  |
| 第7回 | 10月19日 | 12名  |
| 第8回 | 11月18日 | 8名   |
| 第9回 | 12月14日 | 11名  |

延べ 131名参加

### ●まちづくり出前授業

広島市立三篠小学校(広島市西区)の総合的な学習の時間及び学校法人永照寺学園永照幼稚園(同)において出前授業を実施した。詳細は下記の通り。

|     |  |   |
|-----|--|---|
| テーマ | まち(三篠)のやさしさ(ユニバーサルデザイン)：森島誠司(中電技術コンサルタント(株))   | 大切なまち(三篠)の環境：<br>森島誠司(中電技術コンサルタント(株))   |
| 実施日 | 平成28年6月15日(2コマ)  | 平成28年9月29日(1コマ)   |
| 対象者 | 三篠小3学年(児童135名+教員8名)  | 三篠小4学年(児童130名+教員8名)   |
| 概要  | JR横川駅を中心としたまちのUD整備について、手すりやブロック等の実物サンプルを使った仕組みの解説やルールなどを説明<br>        | 小学校を取り囲む太田川(放水路・旧太田川)や三滝山、竜王公園ゴミ埋立処分場等を通じ、自然環境・生活環境・3R等についてPPTで説明<br> |
| テーマ | UAV飛行デモンストレーション：<br>森島誠司(中電技術コンサルタント(株))   | 遊具の事故から子どもたちをまもる：<br>森島誠司(中電技術コンサルタント(株))   |
| 実施日 | 平成28年10月18日(1コマ)   | 平成28年11月19日(40分)  |
| 対象者 | 三篠小全学年(児童780名+教員35名)   | 永照幼稚園保護者(35名+教員3名)  |
| 概要  | 土砂災害等でも活用したUAV(スパイダー)の実際の飛行する姿や映像を見せることで最新の建設技術に触れてもらい、興味をもってもらおう<br> | 遊具遊び中の事故事例や消防庁統計データ等をもとに、危険回避のための注意点、遊具基準等ハード面での観察すべき点などについて講演<br>   |

## ●外国人向けまち歩きガイドの検証

昨年発行した「外国人向けまち歩きガイド(ひろしま)」について、留学生や研修生の外国人によるレビュー調査を実施し、ガイドの有用性や改良点について検証を行った。

## ●他団体との協働によるまちづくり活動

広島県サイクリング協会、サイクルフェスタ広島実行委員会との協働により、サイクルフェスタ広島(9月22日)及び広島バイシクルフェスタ(11月5日)(いずれも広島西飛行場跡地)にブースを出展し、自転車マップや冊子などの配布によるPR活動や会場運営を支援した。また、広島市南区、安佐南区の各地域起こし推進課や地域住民と共にTHT(トレジャーハントツーリング:自転車宝探し)を4月(安佐南区戸山地区:47名参加)と6月・11月(南区似島地区:100名参加)に実施し、企画・運営を支援した。



## ●まちトークの開催(11月3日、1月14日)

第11回目となる、まちトーク(フォーラム)は「公営競技とまちづくり」と題し、中国地方に立地するひろしま競輪、ボートレース広島、山陽オートの各施行者と現役選手をゲストスピーカーに迎え、低迷する公営競技の現状や各団体の地域活動、これからの公営競技と地域・行政との連携等について議論した。また、第12回目は「どうする 中山間地域?!」とし、尾道松江線の全線開通に伴い、来訪者が減少した旧54号沿線地域の活性化について、道の駅の新たな役割やサイクリングを切り口としたイベントアイデア等について、各地域で活躍中のパネラーによるトークセッションを行った。

まちトーク2016「公営競技とまちづくり」

開催日:平成28年11月3日(木)

会場:広島市西区民文化センター

参加者:77名

### ■パネリスト

森江信行(一社)日本競輪選手会広島支部支部長代行

山口剛(公社)日本モーターボート選手会広島支部

吉松憲治(一社)全日本オートレース選手会山陽支部支部長

山内塊太 日本写真判定(株)広島事業所事業長

鈴木準市 宮島競艇施行組合 事業局長

松浦博 日本写真判定(株)山陽事業所主任

■コーディネータ 森島誠司 地域計画委員長



まちトーク2017「どうする 中山間地域?!」

開催日:平成29年1月14日(土)

会場:広島市南区民文化センター

参加者:86名

### ■パネリスト

上野一 ジャイアントストア尾道店店長

勝部貴大 広島工業大学大学院工学系研究科博士前期課程

梵大英 専法寺副住職/344Project 代表

難波孝憲 飯南町観光協会(道の駅赤来高原駅長)

服部恵子 飯南町地域おこし協力隊

宮口直之 eNShare CyclingTeamプロロードレーサー

■コーディネータ 森島誠司 地域計画委員長



## ■ 平成28年度親睦活動

厚生部会では、支部協会の親睦と健康維持を目的としてスポーツ大会を開催しています。今年度は10月25日にゴルフ大会、11月5日にフットサル大会、12月16日にボーリング大会を開催しました。業界の景況も長期低落傾向に

歯止めがかかり、忙しい毎日ですが若者を中心に参加者も増加しています。親睦活動を通じてさらに活気ある業界になればと思っています。ありがとうございました。

## ■ 第52回ゴルフ大会

個人戦は中電技術コンサルタントの高本さんが2回目の優勝。  
 団体戦は、小田さん(復建調査設計) 高本さん(中電)  
 寺下さん(八千代) 岩苔さん(荒谷) チームが制覇!

平成28年10月25日(火)に第52回の親睦ゴルフ大会を「鷹の巣ゴルフクラブ」で開催しました。

参加者は前回より1組増え、4年ぶりに5組20名が揃いました。良和ハウスオープン直後で大変速いグリーンに悩まされながらもゴルフ

日和に恵まれ親睦を深めることができました。ハンディはダブルペリアで個人優勝、ベスグロともに中電技術コンサルタントの高本さん。なんと中電勢は4連覇となりました。次はその連覇を阻むべく皆さん頑張りました。

### <個人戦>

| 順位 | 氏名(会社名)       | OUT | IN | G  | HD   | NET  |
|----|---------------|-----|----|----|------|------|
| 優勝 | 高本 徹(中電技術CT)  | 45  | 40 | 85 | 12.0 | 73.0 |
| 2位 | 藤原 節雄(基礎地盤CT) | 48  | 49 | 97 | 22.8 | 74.2 |
| 3位 | 田邊 英章(中電技術CT) | 50  | 45 | 95 | 20.4 | 74.6 |

### <団体戦>

| 順位 | メンバー(会社名)     |               | 平均スコア |
|----|---------------|---------------|-------|
| 優勝 | 小田 秀樹(復建調査設計) | 高本 徹(中電技術CT)  | 78.6  |
|    | 寺下 諭吉(八千代E)   | 岩苔 宏(荒谷建設CT)  |       |
| 2位 | 三浦 輝洋(中央復建CT) | 藤原 節雄(基礎地盤CT) | 78.8  |
|    | 住本 輝明(陸地CT)   | 森脇 克彦(フクヨシE)  |       |

|            | 今回    | 前回    | 前々回   |
|------------|-------|-------|-------|
|            | 52回   | 51回   | 50回   |
| 参加人数       | 20    | 16    | 16    |
| 平均スコア(ネット) | 106.8 | 104.3 | 102.8 |
| 標準偏差       | 13.2  | 9.9   | 12.3  |

## 《ゴルフ大会優勝者の声》

高本 徹さん(写真左)

中電技術コンサルタント(株)

年 齢：60歳

役職位：取締役執行役員 営業本部長

出身地：広島市

①趣味：スキューバダイビング

②ゴルフ歴：40数年

50歳あたりを境目に飛距離は減少の一途をたどりパーオンもままならなくなりましたが、クラブを買い替えゴルフ本を定期的に購読して座学に励み、なんとかモチベーションを保つゴルフライフを送っています。

③ゴルフがうまくなるには：飛距離をあきらめたことから、レッスン本に書いてあった「ゴルフとはフェアウェイに球を運ぶゲーム」との指摘を意識するようになりました。高齢ゴルファーにとって飛距離アップに拘泥するあまり無理に体を回して腰を痛めるよりは、余程、効果的ではないかと思うようになりました。

④今回の勝因：今回のゴルフ大会は久しぶりに(比較的)若手の参加者が増え、組数も5組揃いました。ダブルペリア方式ですから、勝



因は「運」ですが、No.9 (par4) の打数「8」が隠しホールに当たったことからハンディが増えたことが最大要因でしょうか。

(私よりローハンディのプレイヤーもおられました。すみません(笑)。)

⑤その他一言：コンサルタント業界も、昔から長時間労働が常態化している職種の一つです。

某広告会社が世間の厳しい糾弾を受けているように、過重労働はもはや許容されない社会環境となってきました。また、そのような業界は若者の就職の選択肢からも除外されています。

コンサルタント若手社員のみなさん、ゴルフをライフの一つに加えられるてはいかがでしょうか！



気分十分！ スタート前集合写真



団体優勝(左から)岩苕さん、寺下さん、高本さん、小田さん

## ■第8回フットサル大会

### 中電技術若手チーム、悲願の初優勝。 西日本高速道路エンジニアリング中国チームの4連覇を阻む。

平成28年11月5日(土)、第8回フットサル大会を広島のアイフット宇品で開催しました。

忙しいさなかでしたが、12社、20チーム、200名(別に家族約30名)と過去最多の参加となりました。岡山、松江、山口からも駆けつけていただき、楽しくも真剣な1日を過ごし、コンサルに集う仲間としての絆を深めました。

今回も昨年度と同様、あくまで勝敗にこだわる真剣リーグ(6チーム参加)と、親睦を目的とした親睦リーグ(14チーム参加)に分れ、それぞれの楽しみ方をしました。

真剣リーグは、予選を4位で通過した中電技術若手チームが、4連覇を目指すNEXCOエンジニアチームを1点差で破り悲願の初優勝を飾りました。

親睦リーグでは、勝敗数でなく参加チームの投票により、表の5社がチーム賞に選ばれました。

今回も多くの子供たちに来ていただきキックターゲットに参加してもらいました。試合にも出場した小学生もあり、大人をうならせていました。

来年度も同じ時期に行います。ぜひ多くの参加者と子供たちを待っています。

#### 参加チーム&成績

| 真剣リーグ    |                      |        |          |
|----------|----------------------|--------|----------|
| チーム名     | 会社                   | 予選リーグ  | 決勝トーナメント |
| CEC若手    | 中電技術コンサルタント(株)       | 1勝2敗2分 | 優勝       |
| NEXCOエンジ | 西日本高速道路エンジニアリング中国(株) | 3勝1敗1分 | 準優勝      |
| い〜じえっくA  | (株)エイト日本技術開発         | 4勝1分   | 3位       |
| AKC48    | (株)荒谷建設コンサルタント       | 2勝1敗2分 | 4位       |
| ク口復建     | 復建調査設計(株)            | 1勝2敗2分 | 予選敗退     |
| ウエスコFC   | (株)ウエスコ広島支店          | 0勝5敗   | 予選敗退     |



| 親睦リーグ      |                |        |
|------------|----------------|--------|
| チーム名       | 会 社            | 成 績    |
| AKC46      | ㈱荒谷建設コンサルタント山陰 | 3勝1敗1分 |
| AKC47      | ㈱荒谷建設コンサルタント   | 4敗1分   |
| い〜じえっくB    | ㈱エイト日本技術開発     | 0勝5敗   |
| い〜じえっくC    | ㈱エイト日本技術開発     | 1勝4敗   |
| い〜じえっくD    | ㈱エイト日本技術開発     | 1勝3敗1分 |
| アンソニー      | ㈱計測リサーチコンサルタント | 3勝2分   |
| いであとうわ     | いであ㈱           | 3勝2敗   |
| CEC電気本部    | 中電技術コンサルタント㈱   | 3勝1負1分 |
| LSBヒロシマシヤズ | ㈱長大            | 0勝5敗   |
| SEIBU      | 西部技術コンサルタント㈱   | 5勝0敗   |
| アオ復建       | 復建調査設計㈱        | 4勝1敗   |
| シロ復建       | 復建調査設計㈱        | 2勝2敗1分 |
| セトウチ       | ㈱セトウチ          | 0勝5敗   |
| ヒロコン       | ㈱ヒロコン          | 5勝0敗   |

#### 入賞チーム・受賞者

| 第 8 回       |            |                               |
|-------------|------------|-------------------------------|
| 真<br>剣<br>L | 優 勝        | CEC若手 (中電技術コンサルタント㈱)          |
|             | 準 優 勝      | NEXCOエンジ (西日本高速道路エンジニアリング中国㈱) |
|             | 3 位        | い〜じえっくA (㈱エイト日本技術開発)          |
| 親<br>睦<br>L | チ ャ ム 賞    | アオ復建 (復建調査設計㈱)                |
|             |            | い〜じえっくC (㈱エイト日本技術開発)          |
|             |            | アンソニー (㈱計測リサーチコンサルタント)        |
|             |            | AKC46 (㈱荒谷建設コンサルタント山陰)        |
|             |            | AKC47 (㈱荒谷建設コンサルタント)          |
| 個<br>人<br>賞 | MVP (男 性)  | 森本 一行 (中電技術コンサルタント㈱)          |
|             | MVP (50 代) | 中本 進 (中電技術コンサルタント㈱)           |
|             | MVP (女 性)  | 嵐 真由美 (㈱荒谷建設コンサルタント)          |
|             | M G P      | 安永 香里 (復建調査設計㈱)               |
|             | M G P      | 福岡 愛 (㈱荒谷建設コンサルタント)           |

MGPは“もっとも頑張ったで賞”として与えられました。

## 優勝記

中電技術コンサルタント株式会社

多久和 晃志

私たち「CEC若手」チームは第1回大会から出場しておりましたが、これまで勝利に恵まれず、何度も辛酸をなめてきました。第8回大会にしてようやく悲願の初優勝となりました。ありがとうございました。

私たちのチームはチーム名に若手についてはおりますがここ最近新規部員の獲得に失敗しており、年々平均年齢は上がる一方でした。真剣リーグの方には参加者がなかなか集まらないといった状況で、このチームで優勝できたことにいまだに驚いております。

予選リーグは、もともと人数が少ないうえ、途中黒田投手をみるため一時離脱するメンバーもいるといった状況のなか、老体に鞭打ち息を切らせて何とか戦いきりましたが、成績は1勝2敗2分。1勝しかあげることができず、予選敗退かと思いきや結果をみると上位2チームがダントツで、他2チームの最終戦を残し、3チームが1勝で並ぶという大混戦でした。

結果的に2引き分けのおかげで、得失点差でぎりぎり4位で突破することができました。心身ともにぎりぎりでしたが、せっかく決勝リーグまで上がったんだから、いっちょ頑張ります

かと気合を入れなおし、決勝リーグ。準決勝の相手は予選1位突破のイージェックさん。終始押される展開でしたが、何とか守りきり同点のまま迎えたPK戦。お互い一歩も譲らず2周目までもつれこむ大接戦で、心臓に悪かったですが、なんとか勝利することができました。

辛くも勝利し迎えた決勝戦。決勝の相手は、第5回大会から3連覇中でそのうち2度決勝戦でCECが敗れた因縁の相手であるネクスコさん。

お互い気持ちのぶつかり合う激しい戦いで(こちらは熱くなりすぎて審判から注意をされるシーンもありました。すみません)。なんとか1点を守りきり、悲願の初優勝を果たすことができました。振り返ってみると、人数の少ないぎりぎりの戦いばかりでしたが、今回優勝できたのは、チーム全員の団結力と親睦メンバーの応援のおかげだったかと思います。

最後になりましたが、大会を開催していただいた建設コンサルタンツ協会中国支部の皆様、大会運営にかかわられた関係者および参加者の皆様に感謝申し上げます。

来年以降も無事参加できるよう新規部員の獲得を頑張ろうと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。



真剣リーグ初優勝のCEC若手チーム



## MVP喜びの声

中電技術コンサルタント 森本 一行

この度、MVPという大変光栄な賞を頂き誠にありがとうございます。一昨年、昨年と準優勝に終わり、今年においては予選敗退かと思っていたところ、運よく準決勝に上がることができました。準決勝・決勝は接戦で大変苦しい試合でしたが、何とか勝ちきることが出来ました。私自身、サッカーやフットサルになると性格が180度変わってしまい、対戦相手・審判の方々には大変ご迷惑をおかけしました。ただ、このように熱くなれることがあるというのは大変喜ばしいことだと思っています。来年も優勝・MVPが取れるように闘志を燃やしていきたいと思えます。この度は本当にありがとうございました。

## 50代MVPの喜びの声

中電技術コンサルタント 中本 進

建設コンサルタンツ協会のフットサル大会は、一昨年から3回連続して参加させていただいており、一昨年のMGP賞に続き、今年は50代部門のMVPに選定していただきました。本当にありがとうございます。

毎年、この大会を楽しみにしており、今年は、運営要領が配布される2か月前から社内でも参加者を募りました。今大会では、チームの皆さんが私の年齢を考慮し、前線でのプレーができるよう気遣っていただいたことで、4得点(50歳以上の特典として8点)を挙げることができ、チームの皆さんにも感謝しております。

この大会に一人でも多くの方が参加し更に盛り上がることを、また、参加された各社との親睦を深められることを期待しているところです。

なお、大会開催から運営に至るまでお世話をいただいた実行委員の方に深くお礼を申し上げます。

## 女性MVPの喜びの声

荒谷建設コンサルタント山陰支社 嵐 真由美

この度は、このような素晴らしい賞を頂き誠にありがとうございました。

今回、山陰支社は初参加ということで、まずはユニフォームから！今年の広島といえばカープ！ということで、すぐに決まりました(笑)ユニフォームのインパクトに負けられないようにと数回チーム練習を行いました。その中で、普段の業務ではあまり関わることのない方とコミュニケーションを取ることが出来たり、会社とは違う一面を見ることが出来、仕事の面においても良い影響が出たように感じます。

大会当日は、当社から3チームが出場しており、相互に応援し合いました。初対面の方ばかりでしたが温かい声を掛けてもらい、年齢や性別を超えた交流が出来てとても嬉しく感じました。どの試合も周りの大きな声援や拍手が選手を後押しし、最後まで白熱した試合ばかりでした。フットサルを通じて、人と人との繋がりの大切さを再認識した大会となりました。最後になりましたが、大会を支えて下さいました関係者の皆様、本当にありがとうございました。



左から中村厚生部会長、女子MVPの嵐さん (AKC46)、男子MVPの森本さん (CEC)、50代MVPの中本さん (CEC)



親睦リーグチーム賞、各賞のみなさん  
左からチーム賞のい〜じえつくC、AKC46、MGPの安永さん (アオ復建)、チーム賞のアンソニー、MGPの福岡さん (AKC47)

## ■第51回ボーリング大会

### 団体戦はヒロコンチームが初優勝！ 個人戦は、男子、ヒロコンの岩原さん、 女子は復建調査設計の川内さんが初優勝

12月16日（金）忘年会好適日に第51回ボーリング大会を開催しました。場所はいつもの、広島パークレーン。今回は15チームと前回より1チーム増え親睦を深めました。

団体優勝はヒロコンチームが久方ぶりの優勝、個人戦はヒロコンの岩原さんが2ゲーム目で225点というハイスコアをたたき出し優勝、女子は復建調査設計の川内さんが優勝。

#### 〈個人戦〉

|      | 氏名(会社名)        | 1G  | 2G  | 3G  | HD | 計   |
|------|----------------|-----|-----|-----|----|-----|
| 優勝   | 岩原 涼介 (ヒロコン)   | 153 | 225 | 170 | —  | 548 |
| 準優勝  | 川平 英史 (新日本技術)  | 163 | 180 | 174 | —  | 517 |
| 女子優勝 | 川内 小十 (復建調査設計) | 129 | 117 | 115 | 45 | 406 |

#### 〈団体戦〉

|     | 会社名・メンバー                          | スコア計  |
|-----|-----------------------------------|-------|
| 優勝  | ヒロコンチーム                           | 1,361 |
|     | 松本幹雄 (383) 小新田寿一 (430) 岩原涼介 (548) |       |
| 準優勝 | 復建調査設計チーム                         | 1,307 |
|     | 木場孝一 (400) 高田浩行 (501) 川内小十 (406)  |       |

#### ■団体優勝

##### 株式会社ヒロコン

松本 幹雄、小新田寿一、岩原 涼介  
この度、第51回建設コンサルタンツ協会中国支部ボーリング大会において、久しぶりに団体優勝することができました。当日の夜には会社の忘年会があり、優勝トロフィーを持って報告することができました。有難うございました。

今回は、新入社員の岩原君の神ってる大活躍で高得点を重ね、男子個人優勝にも輝き団体優勝に貢献してくれましたが、みんなの安定した調子で優勝できたと思います。

仕事を離れ、みんなで一喜一憂できた楽しい時間を過ごせたと思います。

建設コンサルタンツ協会中国支部厚生委員の

皆様におかれましては、毎回このような機会を与えて頂き、誠に有難うございました。

#### ■男子個人優勝

##### 株式会社ヒロコン 岩原 涼介

この度、第51回建設コンサルタンツ協会中国支部ボーリング大会において

スコア(1G153+2G225+3G170=548点/3Av=182点)個人優勝することができました。さらに団体においても優勝することができました。

今年初めて、大会に参加させていただきレーンのコンディションも良く上司の方々にも支えていただき新参者の私ですが、優勝することができました。

ありがとうございました。

建設コンサルタンツ協会中国支部厚生委員の皆様におかれましては、このような機会をいただき、誠にありがとうございました。私のような新人には親睦の場として仕事ではない交流の場は数少ない貴重な機会です。今後も継続して参加させていただきたいと思いますので宜しくお願い致します。

本当にありがとうございました。

## ■女子個人優勝

復建調査設計株式会社 川内 小十

この度、初めて参加させていただきました。初参加で女子の部優勝！という事でとても楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございます。

チームの足を引っ張らないようにという事だけ考えながら参加した結果、今までに無い好成績を出すことができ、とてもうれしく思います。

建設コンサルタンツ協会中国支部厚生委員の皆様にはこのような会を開いて頂き感謝しております。これからも機会がありましたら参加させていただきたいと思います。

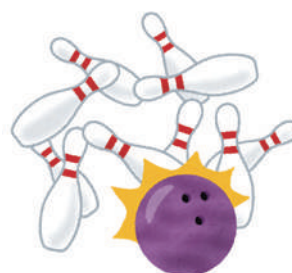
ありがとうございました。



団体優勝チーム：ヒロコンチーム  
右から 松本さん、岩原さん（個人優勝）、小新田さん、  
（左は、中村厚生部会長）



女子優勝：復建調査設計の川内さん



## ウエスコ ジョギング部の紹介

株式会社 ウエスコ  
赤池 曜

### 1. はじめに

我が社のジョギング・マラソン好きが集まったジョギング部（通称ジョグ部）を紹介します。部員数は約30名であり、その年齢層は20代前半の新入社員から60歳以上のおじさんまでとかなり幅広い。発足のきっかけは、近年ブームでもあるリレーマラソンへの出場でした。どうせ出場するならクラブを作ろうといった流れで発足し、今年で3年目を迎えます。

### 2. 活動紹介

ジョギング部の活動といっても、部員が集まって一緒に走ったり、トレーニングする訳ではありません。基本的には自主練習です。では、活動はというと、「みんなで一緒に大会に出場しましょう」といったスタイルで、岡山県内を中心としたマラソン大会へ出場しています。中でも、「6時間リレーマラソン」「おかやまマラソン」「吉備路マラソン」は多くの部員が出場する大会です。

マラソンはリレーマラソンを除いては、個人競技です。走っている最中は「なぜこんな辛い思いをしてまで走ってるんだ！」という時もありますが、仲間や沿道の応援で頑張れたり、完走後の達成感を共有できたり、仲間と祝杯をあ

げたりできるところに、ジョグ部の魅力があるなど感じています。

### 3. おかやまマラソン

今年のメイン大会でもある「第2回おかやまマラソン」の活動を紹介します。第2回おかやまマラソンには、ウエスコジョグ部から11名が出場し、見事全員がフルマラソンを完走しました。発足当初は、フルマラソン完走者はほんの数名しかいなかったことを考えると、目覚ましい進歩で、部員のチャレンジ精神の賜だと思えます。

また、今回のおかやまマラソン前には、一人で長距離の練習をするのは難しいという要望に応え、20km走の練習会を開催しました。この練習会のおかげで完走できたという声もあり、今後は合同練習等も取り入れ、活動の幅を広げていきたいと思えます。

### 4. おわりに

今後も、「走ってみようかなという方」「フルマラソンに挑戦したい方」を応援できるジョグ部でありたいと思えます。また、マラソンに熱心な部員が増え、各自が自己ベストを年々更新し良い刺激になっており大変嬉しく思っていますが、一方で私も負けていられないなど自主練習に励んでいる今日この頃です。



# Youth Talk 若手社員プレゼン大会

株式会社荒谷建設コンサルタント

浅野 拓馬 (筆者)、小畠 雅史、栗井 洸匡

今回は社内活動として行っている「Youth Talk 若手社員プレゼン大会」について紹介します。

本大会は、弊社創業100周年という節目に始まった企画であり、若手社員が自分の将来ビジョンや今思うことなどを「自由に」発表するプレゼン大会です。先日(2016年10月17日)、第二回の開催を終え、第一回とあわせると、総勢12名の若手社員(内新入社員は4名)が、社長・役員をはじめとするアラタニ全社員に自分の思いを発表しています。聴講者は第一回、第二回ともに100名を超える参加があり、社内で盛り上がりを見せています。

本大会開催の経緯は、当時の新入社員が「自分の思いを聞いてほしい」と社長に伝え、快諾頂いたことがきっかけです。その後、発案者を含む新入社員3名が中心となり企画運営を行い、実現に至りました。発表のルールは、「Needsではなく、Wantsを語ること」のみです。そのため、各発表は特色のある発表となっています。

これまでに発表された内容を少し紹介します。

【若手社員H】地盤大好き「岩ガール」の立場から、女性が働きやすい社内環境について具体的な自分の状況や課題を踏まえ、今後に向けた工夫点等の発表を行いました。

【新入社員A】キャリアビジョンとして途上国

開発に携わること、ライフビジョンとして音楽や食、農業、アート等のイベントの企画や運営を行うことなど、自分が今後やりたい100のコトについて発表を行いました。

【若手社員W】業務提携や広報委員会設置、荒谷ファンタジー企画部設置などやりたいことは沢山あるが、やりたいことができる環境がないという問題提起から、思いつきを育てる「課題解決ラボラトリー制度の提案」について発表を行いました。

【新入社員K】大学院の研究テーマである生物多様性オフセット、生態系の定量評価手法を将来仕事にしたいという比較的専門性の高い発表を行いました。

この他にも、エネルギーを強みに地域計画を行いたいという思いを発表した社員や、地質CIM技術者になりたいという思いを発表した社員などがおり、バラエティ豊かなプレゼン大会となっています。

「Youth Talk若手社員プレゼン大会」のコンセプトは、各社員の特色に今まで以上に光を当て、声を上げやすい、垣根の低い風土をつくっていくことです。

アラタニの若手は元気です。今後ともよろしく願いいたします。



## “我が中国”は生き残れるか 連載第8回(最終回)／楕円形の地域構造

元 復建調査設計株式会社  
企画開発本部技師長 池上 義信(建設部門)



日本の総人口は、国勢調査2010→2015でいよいよ「減少」に転じた。

都道府県単位で見ると、福岡や大都市圏の計8都県が増加する分、残る39道府県に「減少」圧力が強く働いていることになる。

この「地方の減少」には、高齢化、少子化による自然減に加えて、東京などへの若者流出による社会減が大きく働いている。特に39道府県には、地域社会の崩壊を危惧させる“砂漠化”が押し寄せているのである。

残念ながら、我が中国5県は、39の砂漠化グループに含まれている。

砂漠化の進行が不可避とすれば、地域の生き残りはオアシス都市の盛運にかかってくる。

中国5県のオアシス都市の代表格である県都及び県都に次ぐ人口を持つ都市の、2015人口及び2010→2015増減率を見てみよう。

(島根県)

松江市20.6万人 -1.1% (石見)  
出雲市17.2万人 0.1% (出雲)

(鳥取県)

鳥取市19.4万人 -1.9% (因幡)  
米子市14.9万人 0.7% (伯耆)

(岡山県)

岡山市72.0万人 1.4% (備前)  
倉敷市47.7万人 0.4% (備中)

(広島県)

広島市119.5万人 1.8% (安芸)  
福山市46.5万人 0.8% (備後)

(山口県)

山口市19.8万人 0.4% (周防)  
下関市26.9万人 -4.4% (長門)

10都市のうち、人口減は日本海側の3都市のみで、7都市は何とか盛運を維持している。

注目してもらいたいのはカッコ書きの文字である。県都も県都に次ぐ人口の都市(副都)も、歴史的な国の単位である「旧国」の歴史的な中心都市と符合している。

県都と副都がそれぞれの旧国エリアを背後地とした「2核のオアシス都市構造」を成すのは5県共通で、ここに我が中国地方の地域構造特性を読み取ることができる。

中心が1つで一極の同心円構造は、災害などのリスクに弱く、中心都市の盛運によって地域全体の盛衰が一次関数的に支配される。焦点が2つの2核楕円形構造は、リスクや地域の盛衰に弾力性があり、強靱である。

「2核」構造は、国や地域にダイナミズムと強靱を生む賢い方法論かもしれない。

天皇の都(平安京)と将軍の都(鎌倉)。ワシントンとニューヨーク、北京と上海、江戸と大坂といった政治首都と経済首都。東ローマ帝国と西ローマ帝国。

広島市が進めるに楕円形都心づくりにおける八丁堀・紙屋町(西の都心核)と広島駅周辺(東の都心核)。

生物界の頂点にいる人類の身体構造における心臓と頭脳。

もう一度、5県の人口増減率を見て欲しい。どの県においても、オアシス都市が2つ揃って衰運を共にするケースはなく、県都が衰運の場合副都で盛運をカバーする形(島根、鳥取)や、副都の衰運を県都の盛運でしのぐ形(山口)で、県全体の強靱性を確保している。

広島県と岡山県は、県都、副都ともに盛運である。

5 県の10オアシス都市の中では、広島市と岡山市が大都市級（政令市）で、人口増加率も抜きん出ている。

中国地方の広がりにおける広域の地域構造は、広島市と岡倉市（岡山市と倉敷市をデータで合体すると、人口や産業経済や中枢都市機能が広島市と同列に並ぶ）の2核構造として把握できそうである。

盛運の広域オアシス都市である広島市と岡倉市を擁することで、広域としての強靱性を確保している。それが中国地方である。

どうやら、連載寄稿のテーマ「我が中国地方は生き残れるか」の答の核心が見えてきた。

我が中国地方のこれからの地域づくりやまちづくりにおいては、「旧国」が息づく強靱な楕円形地域構造を、歴史の教えとして活かし、後世にも引き継ぐこと。

人口の稀少、生産活力の疲弊がもたらす地域の砂漠化（地方消滅の危機）にはオアシス都市との連携で立ち向かうこと。

この二つが、生き残りを保証する道筋であり、広島市と岡倉市の盛運維持と、県都・副都の共倒れを防ぎつつ補完し合う関係の保持が、鍵となる。

敵を知り自らを知るところから、生き残りの戦いは始まる。この連載シリーズは、人口動向などの新データを観察しながら、「敵」（地域の砂漠化、地域崩壊の危機など）及び「自ら」（活力や強靱性の要素など）を分析してきたものである。

同時に、「地方創生」など国の政策が地域に浸透し好作用を及ぼす兆候が表れはしないかと、心待ちしてもいた。

その「心待ち」していた部分を最後に述べる。国の地方創生の戦略図は次の通りである。

〈政府機能、企業本社機能、人口の地方への移転・移住を促進することによって、東京一極集中を是正しつつ、地方を活性化する〉→〈2020の東京圏の社会増をゼロにする〉

心待ちしていた現実とは、どうか。

（移転・移住3策について）

①政府機能は、全面移転の文化庁（→京都）、一部移転の消費者庁（→徳島）、一部移転の総務省統計局（→和歌山）が具体化したのみである。

②企業の本社機能は、依然として東京集中が止まらない。2015年に地方から東京圏へ本社移転した企業は335社にも上る。

③東京圏から地方への移住は、社会増データの動向から見ると微々たるものである。

（東京圏の社会増について）

2014年が約11万人、2015年が約12万人と、大台をキープしたまま、減る兆候はない。東京一極集中の車にはブレーキが利かないようであるから、国の政策目標である〈2020の東京圏社会増ゼロ〉の達成は不可能と断定できそうである。

現在進行形の地方創生に評定を下すにはまだ早い。もともと「中央集権のまま」やろうとするのは自己矛盾であろう。「地方分権」が伴わない「地方創生」策が実効（顕著な費用対効果）を上げるのは困難だからである。

地方創生の核心は、「地方が自立的に創造性を発揮する」ことにあると思うが、それを担保するには、「人や財（地域の資本）や権力を地方に分与すること」が不可欠である。つまり地方分権である。

〈地方創生を作動させる地方分権の進展〉を心待ちしながら、連載稿を閉じたい。

8回に渡る連載の機会を与えてもらったことに、感謝します。

# 海外研修報告

## ～ハワイ諸島における

## エネルギーシフトの現状と国際観光のあり方～



中電技術コンサルタント株式会社

村上 紀章

### 1. はじめに

ハワイ州はアメリカ合衆国の南太平洋島嶼地域にあり、大小19の島々からなる。今回、最初に訪れたハワイ島の面積は四国の約半分で、人口は約15万人。全体が溶岩と熱帯雨林に覆われるダイナミックな島である。次に訪れたオアフ島は、言うまでもなく世界屈指のリゾート地であり、近年は、積極的にMICE（国際会議等）の誘致に力を入れている。そして、ハワイ州は、再エネ（RE）導入比率を2030年までに70%に引き上げる州法（ハワイ・クリーンエネルギー・イニシアチブ）を制定し、現時点でその比率が20%以上に達する等、石油から風力・太陽光等へのエネルギーシフトが急速に進められている。

今回、ハワイ諸島におけるエネルギー施策の現状を認識し、先進的な国際観光振興のあり方等に触れる研修の機会をいただいた。以降に、実施した海外研修の報告を記す。

### 2. ハワイ島

機内の窓から、赤黒い溶岩跡の荒野の一角に、アスファルトの滑走路と古ぼけた平屋建のコナ

国際空港が見えた。着陸した後、周りが見えた風景は南の島というより“最果ての地”というフレーズがしっくりくるほど一帯に広がる溶岩跡の印象が強烈だった。また、空港の建屋はまるで公園の東屋のように、屋根と柱のみで壁面や窓が無いことに少々驚いた。気候さえ良ければ、空港施設ですら壁も空調も不要であることを教えられ、これでOKなところに“らしさ”を感じた。

また、空港では預けた荷物が2便も遅れて届いた上、予約していたハーツレンタカーの受付が大盛況で手続きに1.5時間を要する等、初日から海外の洗礼を受けるとともに、ハワイの地で忍耐を培った。

### 3. パキニヌイ・ウィンドファーム

翌日、気を取り直してハワイ島の最南端に位置するパキニヌイ・ウィンドファームに向かった。ここは、1987年に運用を開始したかつての世界最先端設備であり、当初は三菱重工業社製の日本初の輸出風力発電設備が設置されていた。現在は、老朽化により撤去され、GE Energy社（アメリカ）のものに一新されている。広大な牧場に囲まれ定格出力20.5MW、計14機



写真1. 壁なきコナ国際空港



写真2. パキニヌイ・ウィンドファーム



の風車の姿は、南の島というよりアメリカ本土を思わせた。風況に恵まれ、低周波やシャドーフリッカーといった生活環境上の問題とは無縁の場所で、風力発電にはこの上ない適地と感じられた。なお、ハワイ島には2箇所 Wind Farm があり、ここから約6,000戸分の電力が供給されている。

#### 4. ハワイ火山国立公園(世界自然遺産)

パキニヌイ・ウィンドファームから約50マイルで世界自然遺産であるハワイ火山国立公園(キラウエア火山)に辿り着く。キラウエア火山の火口の大きさは約2km。視界に入りきらない巨大さは映画のCGのようだった。御嶽山の記憶も新しく「安全面はどうなの?」という不安もあったが、ビジターセンターでは震度測定、大気測定(SO<sub>2</sub>、PM2.5)、地表面変動観測(定点測量)等のリアルタイム情報が一般にも分かり易く示され、安全性が強調されていた。

また、周辺の熱帯雨林地帯にハワイの固有種であるネネ(ガンカモ科の鳥類)が生息しており、保護を促すための警告や標識が至る所に設置されていたことが印象に残った。



写真3. キラウエア火口(左)、ネネの標識(右)

#### 5. ハワイ州立自然エネルギー研究所(NELHA)

3日目は朝から激しい雷雨となった。この日はハワイ州立自然エネルギー研究所(NELHA)を訪れた。NELHAは1974年に設立され、主に海洋水や地熱、太陽光・太陽熱等の自然エネルギーの他、海洋温度差発電で大量に汲み上げる海洋深層水の利活用研究が進められている。近年は、こうした先進的な取組についての研修や見学会を盛んに行っており、環境施策の広報機能の一面も有している。日本からの珍客にも、

英語力に乏しい問合せメールの段階から、きちんと対応してくれた。



写真4. 研修の様子(左)、海洋深層水の送水管(右)

この施設の一番の売りは世界初の海洋温度差発電設備(OTEC)であり、定格出力は200kWと小規模ではあるが、将来的な水素製造実験も計画されている。海洋深層水はほぼ無尽蔵に使えるクリーンエネルギーである一方、海洋深層水を汲み上げるためポンプを稼働させる必要があり、他のREより効率が劣る点がネックとなる。日本では2013年から久米島での実証事業をスタートさせており、OTECで長年培った成果が“泣きたくなるほど”活かされていると冗談交じりに紹介されていた。また、汲み上げた冷たい海洋深層水は空調冷媒の他、養殖産業や健康食品等への幅広い活用を展開することで、実証事業全体の参画企業を増やし、課題となる採算性の向上につなげるスキームが形成されていた。なお、NELHAには集光集熱型メガソーラーも整備されているのだが、研修中に台風の接近による大雨警報が発令され、残念ながら研修と施設見学は途中で中止となった。

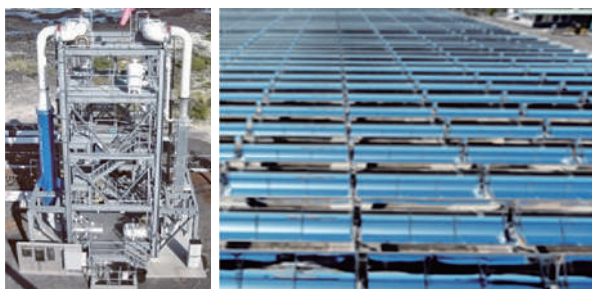


写真5. OTEC(左)、集光集熱型PV(右)

#### 6. アジア・パシフィック・クリーンエネルギーサミット&エキスポ

ハワイ島からオアフ島ホノルルへの移動を経

て、最後の目的であるアジア・パシフィック・グリーンエネルギーサミット&エキスポに参加した。このイベントは、20カ国以上の政府関係者や自治体、エネルギーの専門家等が集まり、技術や政策のセミナーやブース展示等が開かれ、最新技術に関する有用な情報に触れることができた。

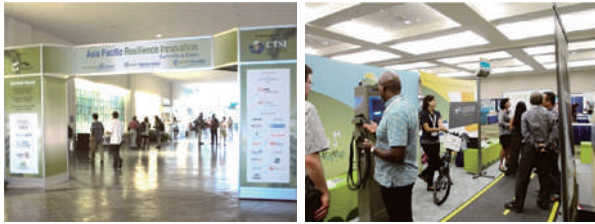


写真6. サミット&エキスポの様子

また、開催場所はハワイコンベンションセンターであり、2011年にはAPECがここで開催されている。今回、国際的なイベントに初めて参加し、国際観光拠点として積極的にMICE (Meeting、Incentive、Convention、Exhibitionの略)を誘致し、国際対応力や安全性、快適性

等をうまくPRすることで、その地位を更に高める姿を体感することができた。



写真7. トヨタ展示(左)、パネルディスカッション(右)

## 7. おわりに

今回の海外研修は、天候に恵まれない部分もあったが、時間の許す限り自ら動き回り、ここでは書き切れないほど密度の濃い研修となった。島嶼地域の特性を活かしたRE導入のあり方に触れ、国際観光振興について考えることができたことは一生の財産である。異国で体感し、感動したことを今後活かしたいと思う。

最後に、今回このような貴重な機会を与えていただいた会社、そして関係者の皆様にこの場を借りて改めて感謝申し上げたい。



## 社会人1年目



株式会社日水コン  
下水道事業部西部事業マネジメント部 広島技術課 高木 雄貴

2016年4月14日熊本地震が発生した日、私は本社(東京)で新人研修を受けていました。研修も残りわずかとなり、その夜は同期で親睦会をしていました。地震発生ニュースメールが配信されたのでしょうか、突然、みんなが一斉にスマートフォンを見始めた光景をよく覚えています。

今回の震災において、上下水道施設もかなりの被災を受け、上下水道専門の建設コンサルタントである弊社は災害支援本部として上下水道の復旧支援業務に携わりました。

まだ、入社したばかりで何もわからない状態でしたが、少しの間、災害支援本部に行き、下水道の復旧業務を手伝いました。内業が主体でしたが、時折、被災現場にも行かせてもらえました。震災の被災現場を見るのははじめての経験で、被害の特に大きかった益城町では家屋が倒壊している様を目の当たりにした時は、とても衝撃を感じ自然の力の大きさに愕然としました。

4～5月は自己学習が主で、平穏な社会人ライフでしたが、6月から復旧支援の業務に携わるようになると、がらりと状況が変わり、その多忙さから6月はあっという間に過ぎさりまし

た。災害支援本部に派遣された約一週間は、主に調査会社から上がった管渠の被害データの整理、支所に戻ってからは査定図書作りの補助を行いました。復旧支援業務をするにあたっては、普段ではあまり一緒に仕事をする事のない、本社、他支所の方、または他コンサルタントの方と一緒に仕事できたことや、震災対応という特殊な業務がどのような流れで進められていくのかを近くで見ることができたことは貴重な経験になりました。一方、災害支援本部では自分の作業に必死で、周りの状況を把握できなかったことは反省点だと感じています。

7月以降は震災関連の業務から離れ、支所で下水道計画の業務をしています。12月に入り年度末工期に向けて忙しさが加速していますが、今はまだ一人で仕事を完結できず、多くの人に頼って業務をこなしています。現在、下水道計画の業務に携わって感じることは、正確かつ幅広い知識が必要という事です。打ち合わせの度にそう感じますが、1日も早く頼られる側の人間になれるようこつこつとがんばっていきたいと思います。



## 新入社員紹介



フクヨシエンジニアリング株式会社  
技術部 技術2課(設計) 松本 龍也

私は、平成28年3月に高等学校を卒業し、4月よりフクヨシエンジニアリング株式会社で設計業務に携わっています。まだ、ほんの9ヶ月。親元から離れ1人暮らしの新社会人です。

現在は主に、道路や河川砂防の設計業務に携わっています。学校は農業高校であったため、土木の専門知識がなく0からのスタートでした。日々の社会人生活では、業務をこなしてい

るという実感はなく、勉強の毎日ですが、少しずつ自分なりに成長を感じています。先輩方には自身の業務が忙しいのにもかかわらず、専門知識のない私に、わかりやすく根気強く指導していただいています。しかし、まだまだ、期待に応えられないことに憤りを感じています。

先日、入社して初めて打合せ協議に同席させていただき、そこで大切だと感じたことが2つあります。1つ目は、メモの取り方とその後の確認です。話している内容全てをメモすることは難しいので指示事項やアドバイス等のポイントをおさえてメモを取り、後から整理をして要点をまとめてわからないところがあれば確認することです。2つ目は、協議を円滑に進めていく上でコミュニケーション能力や理解力も大切だと感じたことです。業務内容をしっかりと把

握し、自分の考えや疑問をしっかりと伝え、発注者が求められていることや意見を理解することが、協議、業務を円滑に進めていく上で大切なことだと思いました。私は、言葉で相手に説明することが苦手です。専門知識を身に付けるのと同時に、表現力や言語能力も鍛える必要があります。

今後たくさんの業務に携わっていく上で、具体的な目標としては、技術士1次試験や測量士補などの資格を取得することであり、自身のスキルアップのための時間も作っていきたくです。業務においては、先輩方から教わったことを少しでも早く自分の知識として身に付け日々の努力を怠らず、一人前の技術者、仕事の喜びをたくさん感じられる技術者になれるように頑張りたいです。



## 新入社員の抱負

株式会社荒谷建設コンサルタント  
金子 剛



私が荒谷建設コンサルタントに入社して早9か月、目の前に与えられた仕事を必死にこなす日々を送ってきました。入社当初はわからないことばかりで話を聞いているだけで頭が痛くなっていました。今は、専門用語には慣れたのですが、考え方など話についていくのに精一杯な状態です。

私は港湾漁港設計課に所属しており、現場は海沿いばかりです。海がきれいなところで生まれ育ち、海好きな私にとっては最適な職場だと感じています。つい先日、幼い頃から釣りをする時の椅子替わりだったコンクリート壁が護岸であることに気が付きました。そこであって当たり前で、知らない、気が付かないところで私たちの生活を守っている仕事に魅力を感じた一時でした。同時に、まだ実績がないので自分が

設計したものだと胸を張って言えるものをつくりたいと強く感じました。

一人前の技術者になり胸を張れるものを設計するため、勉強の毎日を送っています。設計の考え方はもちろんですが、その他にも仕事を円滑に遂行していくためのテクニックやコミュニケーションなど私は持ち合わせていないものばかりです。これらを補うために今は、設計をコツコツと勉強すること、与えられる機会には積極的にチャレンジし様々な経験を積むこと、多くの人との付き合いを大事にすること、この3つを常に心がけています。

我社は今年(平成28年)で100周年を迎えました。この良き節目に入社した私たちが次の100年への堅固な礎になれるよう日々努力していきたいと思います。

## 入社して感じたこと



株式会社ヒロコン  
広島支社 吉岡 隼也

私は2016年3月に広島工業大学を卒業し、2016年の4月から株式会社ヒロコンに入社しました吉岡と申します。

まず私は1年間、技術部の道路部門に配属され、その部門の業務に携わり約9か月が経過したところです。入社から今日までの間、学生と社会人の違いである責任を所属している会社の一員として感じながら、日々経験を積み重ねております。

現在は先輩方の仕事の図面作成や協議資料の作成の補佐などの仕事に取り組んでいますが、まだまだ分からないことが多々あり、何度も説明を聞くことがあります。他には打ち合わせ協議に同席した際には業務内容が理解できていないため、話を聞くだけで協議を終えることもあります。また、現場では指示を待つだけで私から自

発的に行動ができないということがありました。色々悩むことが多くありましたが、同期に入社した社員とお互いに分からないことを教え合うこと、相談し合うことや先輩方に聞くことにより、少しずつではありますが、入社当初に比べて仕事内容を理解し、成長しているところです。そして同期の社員の支えは大切なことと実感しながら、日々の業務に必死に取り組んでおります。

現在は繁忙期に入り、多忙な日々が続いておりますが、私が携わる仕事は責任を持ってコツコツとこなしていきます。まだまだ、これからも先輩方や皆様にご迷惑をお掛けすることがありますが、少しでも早く一人前の技術者になれるように、資格取得にも励み、多くの知識と経験を身に付ける努力をしていきたいと思っております。

今後ともよろしくお願いたします。



## 入社して感じたこと



西部技術コンサルタント株式会社  
設計第2グループ 大寺 葉月

入社してから8か月が経ちました。毎日が目まぐるしく、あっという間に今日まで過ぎたように感じています。入社前までは四国に住んでおり、期待と不安を抱えて初めて住む岡山へと出てきました。新しい生活と環境にもようやく慣れ、改めて気持ちを入れ直して日々の仕事に取り組んでいます。

この8か月間業務に携わっていく中で、入社前に持っていた建設コンサルタントのイメージが変わりました。業務はデスクワークが中心で、

現場に出るといっても大まかな状況を把握するために行くのだと思っていましたが、実際は1日中現場に出て本格的に測量をすることもあり、思った以上に体力が必要な仕事であると感じました。また、建設コンサルタントは官公庁や民間企業との関わりがほとんどだと思っていましたが、地域の住民の方たちにも密接に関わっている業界なのだと分かりました。

現在は地中設計グループに配属され、CADを用いた作業を中心に業務に携わっています。

大学では土木の専攻でしたが電気に関する知識も必要な業務であり、未経験の分野に刺激を受けながら仕事に取り組むことができていると感じています。初めは図面の意味や打ち合わせなどで話している内容が全く理解できませんでしたが、段々と分かる部分が増え、それが業務にどう関わってくるのか考えられるようになりま

した。

まだまだできないことだらけで要領も悪く、上司や先輩方に助けて頂いてばかりです。これからも失敗することが多々あると思いますが、周りの人から多くのことを学んで、少しずつでも成長していけるよう挫けず頑張っていきたいと思っています。



## 新入社員紹介

株式会社宇部建設コンサルタント  
設計部 砂防・急傾斜チーム 高垣 京平



早いもので入社して、9ヶ月が経ちました。入社以来、設計部 砂防・急傾斜チームの一員として悪戦苦闘の毎日を送っています。農学部出身である私が建設コンサルタント業界へ進むことを決意したきっかけは、学生時代のアルバイトで、平成25年7月に発生した山口・島根豪雨災害の災害復旧に建設工事会社の一員として従事したことです。初めて災害現場を目の当たりにし復旧作業を行う中で、自分の地元である山口県で防災に関わる仕事がしたいという気持ちが強く芽生えました。

入社して初めて先輩の打合せ協議に同行させていただいた際には、話の内容にさっぱりついていけず悔しい思いをしました。それからは、ただ協議に同行するだけでなく、協議の事前準備を徹底することで、今では協議の度に理解が

深まっていることを実感しています。

また、技術者として大切なことは「顧客の信頼を得ること」だと、先輩から口が酸っぱくなるまで言われています。顧客に対して密な連絡、迅速な対応、協議の際の話し方など、先輩の背中を見ながら日々の業務に励んでいますが、これらは今の私には足りていない部分だと痛感しています。憧れの先輩のような顧客に信頼される技術者へと成長するために、先輩から学ぶことは多いですが、一つひとつ着実に自分のものにしていきたいと思っています。

こんな私ですが、あと数ヶ月で後輩ができます。まだまだ自分に自信が持てず不安な部分も多いですが、後輩たちの良き手本となれるよう、地道に努力していきたいと思っています。

# 今思うこと



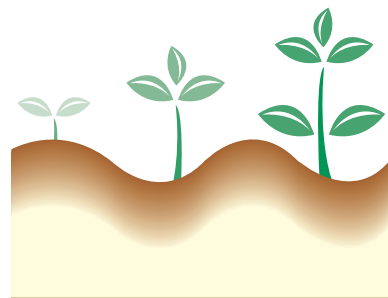
アサヒコンサルタント株式会社  
本社 地質調査部 山口 裕季

アサヒコンサルタント株式会社 地質調査部、  
入社1年目の山口と申します。

私は大学生の時に企業説明会に来られていた建設コンサルタントの方のお話を拝聴して、絶対に建設コンサルタントの仕事には就きたくないと思いました。しかし、今は仕事をする事、日々勉強をすることがとても楽しいと感じています。絶対に就きたくないと思っていた仕事をやってみようと思ったのは自分自身でもよく分かりませんが、例えて言うなれば、畑に空いた得体の知れない穴に指を突っ込みたくなる感覚と似ていました。というのも、大学時代は森林が専門で、土質、地盤のことは全くと言っていいほどやっていませんでした。実際に仕事を始めても、入ってくる知識が多すぎて、私の小さい脳みそはオーバーフローする毎日でした。しかし、そのオーバーフローした知識を嫌な顔一つせず何度も教えてくださる上司の方々には

日々感謝です。

話は変わりますが、先日、母校の鳥取大学に弊社の企業説明会に行ってきました。予想以上に私たちのブースには人が集まらず、どこのブースに行こうか迷っている生徒に声をかけたりして、「建設コンサルタントって知っていますか？」と尋ねると全員知らないとのことでした。私のようにマイナスのイメージを持つところが、職種すら知られていないのです。とてももったいないと思います。もっとセミナーや勉強会など交流の場を広げることも大事なのではないかと感じました。技術士会や地盤工学会の集まりに積極的に参加してきて、他社の建設コンサルタントの方や大学の教授とお話しすることはとても勉強になると感じております。仕事が休みの日でも参加する価値はあると思うので、これからも積極的に参加していきたいと思っております。



# 創業100周年を迎えることができました

株式会社荒谷建設コンサルタント

専務取締役 中村 慈孝

## 1. はじめに

弊社は、平成28年1月5日に創業100周年を迎えることができました。発注機関、地域の皆様、同業者、取引先の皆様に心より感謝申し上げます。又、幾多の困難を乗り越えて歴史を刻んでこられました先輩諸氏に改めて敬意を表したいと思います。

当紙面をお借りしまして、弊社の歩みを紹介させていただきます。

## 2. 始まりと戦前戦後（大正5年～）

弊社の歴史は、大正5年1月5日、現会長荒谷壽一の祖父・初代 荒谷誠一が広島市西引御堂町（現在の十日市町）において井戸堀りとポンプを設置する仕事を家業として始めたことに始まります。

井戸堀りの掘削技術を応用しボーリング調査業務に幅を広げ、戦前は旧内務省（現在の国土交通省も含まれていた）や広島県、山口県から受託するようになりました。原爆投下により壊滅的打撃を受けましたが復員した兄弟・従業員により事業を再開できました。昭和25年のキジア台風による錦帯橋流出の架け替え工事のボーリングなどが記録として残っています。

## 3. ボーリング工業所時代（昭和32年～）

戦後の荒廃した国土の再建に、多くの公共事業に携わるようになるにつれ、会社組織への機運が高まり、昭和32年4月9日に資本金1,500千円、初代社長に2代目荒谷誠一が就任し、株式会社荒谷ボーリング工業所を設立しました。法人としての基盤整備に取り組み建設業者登録（昭和35年）、測量業者登録（昭和37年）を行うとともに、松江、今治への出張所開設や旅費規定などの規則類の整備が進められました。

## 4. 社名変更と組織の拡充、経営危機（昭和39年～）

昭和39年4月、建設コンサルタント登録制度が創設されたことを機に、社名を株式会社荒谷建設コンサルタントに変更し現在に至っています。当時の日本経済は急成長のさなかで、田中内閣の日本列島改造計画に後押しされた建設業界は空前の活況を呈し、当社もその恩恵を得て業績が急伸し、山口、岡山、鳥取、三次に事業所を開設するなど体制固めを図りました。当時の代表的な業務としては弥栄ダムのボーリング調査があります。

このように順調に推移していた業績も第4次



初代社長 荒谷 誠一



荒谷ポンプ



錦帯橋ボーリング



中東戦争に端を発した昭和48年のオイルショックにより、「総需要抑制策」が採られ、消費は低迷し、大型公共事業が凍結・縮小される事態となりました。当社もこの影響の例外ではなく、受注の停滞、それによる資金ひっ迫が発生し、深刻な経営危機に陥ることとなりました。

## 5. 新生アラタニ（昭和50年～）

このような経営危機の中で、当時東京のアジア航測株式会社に勤めていた現会長 荒谷壽一は、経営の立て直しに取り組むため昭和49年末に帰広し、アジア航測時代の上司である小川裕史を専務として迎えその任を託すことになりました。“管理の徹底”の大方針のもと、経営陣の刷新、不採算事業所の閉鎖、中期計画・年次事業計画の策定、課単位の月次決算制度、給与規定など諸規定の整備に取り組み、当社の管理スタイルの原型が形作られたといえます。このような仕組みづくりとともに、“企業は人なり”の理念のもと教育の強化、社内報「アラタニふぁみりい」の刊行、社員の親睦組織である「交友会」活動の充実により、人材・人心面での取り組み強化を図りました。このような取り組みと市場の好転もあり、昭和56年の本社社屋の建設をもってオイルショックによる経営危機を脱したといえます。



昭和50年 60周年時の荒谷壽一社長と小川専務（右）

## 6. 飛躍の時（昭和60年～）

昭和61年1月11日、広島全日空ホテル（現・ANAクラウンホテル）において創業70周年式典を開催しました。発注機関、協会関係者、協力会社、金融機関などの100名余のご来賓を賜り社員270名をもって新生なったアラタニの姿を披露するとともに、今後のアラタニの方向性を示す「ビジョン80th」の発表、創業以来の歴史を取りまとめた「70周年記念小史」の刊行を行いました。「ビジョン80th」は10年後のアラタニはどんな会社になっていきたいかを取りまとめたもので、基本コンセプトを「情報化の推進と専門能力の開発・組織化により、新規事業を開拓し、地域に密着したゆとりと活力あるアラタニグループを目指そう」とし、その後の戦略形成のベースが形作られたといえます。

昭和60年代から平成初期の業界を取り巻く環境はたいへん恵まれたものでありました。日本の貿易収支が史上最高の黒字幅に達し、国際摩擦解消のため内需拡大策がとられ公共投資の拡大が続くという、建設業界が環境利潤を得た時代でありました。平成2年のバブル崩壊後も平成10年までは景気浮揚策のため公共投資は拡大し続け、当社の業績も平成7年度（第40期）に過去最高を記録し、当時は決算賞与の支給は当たり前という時代でありました。

このような業績拡大の中で、本社に続き、山陰支社（松江）、本社測量別館、岡山支社、四国支社（松山）、三次支社、福山支社、鳥取支社と相次ぐ社屋新築、全社員のOAチェア化などともに、平成5年に完全週休2日制への移行、平成6年の新職能資格制度、平成9年にはグループウェア「ノーツ」の導入による全社情報化システムの整備など、ハード・ソフト両面からの環境整備に取り組んだ時代でありました。また全社運動会、国内外の全社旅行など社員の連帯感を高める催しが盛んに開催された時代でもありました。

またこの時期に、1級建築事務所、計量証明事業所などの登録を果たし、補償コンサルタント、環境調査も手掛ける総合コンサルタントとしての態勢を確立しました。



昭和61年 第1回全社運動会



昭和61年 創業70周年パーティー

業界環境としては、建設省は平成5年に「建設コンサルタントの中長期ビジョン」いわゆるATI構想を発表し、“魅力に満ち、技術を競う、独立した知的産業”を目指すことが指針として示されました。また、当時は一連のゼネコン汚職が表面化し、明治以来続いてきた指名競争制度が官民癒着や汚職の温床となっているとして、技術力評価による業者選定の流れが定まった時代でありました。成果品に対する「瑕疵担保責任」が契約約款に明記されたのもこの時代でした。

当時のプロポーザル方式による代表的な業務としては、建設省中国地方建設局の「加村橋詳細設計検討業務」、広島県府中市の「こどもの国整備事業」などがあります。

## 7. 公共事業縮小のうねり（平成11年～）

国・地方の財政難を背景に平成10年を境に縮小に転じた公共事業予算は、平成13年の小泉政権の誕生により前年比削減の方向が定まりました。事業のウェイトが新設型から維持補修型に変わったのもこの時代でした。平成20年

のリーマンショックに加え、平成21年に誕生した民主党政権は更にその流れを加速させ、平成24年度の当初予算はピーク時の半減という状況であったのはご承知のとおりです。

このような中で業績は悪化し、昇給停止、給与カット、賞与減額などの対応では間に合わず、平成16年には希望退職者の募集という苦渋の選択をし、33名の仲間が会社を去るという縮小均衡の時代を迎えることになりました。前年比割れに歯止めがかかるには平成24年末の第2次安倍内閣誕生を待たねばなりませんでした。

このような冬の時代ではありましたが、ISO9001の認証取得、テクリス・電子入札・電子納品などのCALS/EC等、新たな仕組みへの対応にも積極的に取り組んだ時代でもありました。

また、不況時であるからこそ将来に向かって希望の持てる会社とすべく新たなビジョンを策定することになり、課長クラスのメンバーによる「NEXT10」プロジェクトチームを立ち上げました。平成18年6月の創業90周年式典において“ここで働きたいアラタニ”をメインテーマとするビジョンが発表され、以後の施策、気持ちの持ち様の指針となりました。

なお、平成21年には、資本と経営を分離しリスク分散と事業展開の機動性を高めるため持ち株会社「アライズホールディングス」を設立し、荒谷建設コンサルタントもこの会社の子会社ということになりました。

## 8. 新たなステージに（平成27年～）

非常に厳しい冬の時代をなんとか乗り切った当社は、アベノミクスや国土強靱化施策等により平成25年以降業績が急回復し、平成28年6月の創業100周年式典を機に、新たな世紀へのステージへと漕ぎ出すことができました。昭和50年以来40間にわたり社長として先頭に立ってきた荒谷壽一に代わり荒谷悦嗣が社長に就任し、“Be Araise! 次世代に誇れる価値共創企業へ”をメインテーマとする第3次中期ビジョンの発表など新たな世紀への指針が示されました。

またその前年には、新入社員の発案による“Youth Talk”という若手社員のプレゼン大会が開催され、新たなステージへの息吹を感じさせるものとなりました。

## 9. 終わりに

以上が創業100周年を迎えた株式会社荒谷建

設コンサルタントの歴史です。紆余曲折はありましたが一貫して大事にしてきたことは、“人間と自然を考える”をテーマに“地域に密着し、かゆいところに手の届く対応で社会に貢献したい”という思いです。

今後とも皆様のご指導ご支援のほどよろしく  
お願い申し上げます。



策定委員によるアライズビジョン2026の発表



第3代社長 荒谷悦嗣



創業100周年記念北海道旅行（2班に分かれて楽しみました）

# 創業70周年を迎えて

復建調査設計株式会社

経営管理本部副本部長 高橋 祐司

## 1. はじめに

震災からの復興を旗印に掲げ設立された当社は、平成28年5月、おかげさまで創業70周年を迎えました。この節目を機に、当社のこれまで、そしてこれからのことについてご紹介したいと思います。

## 2. 創業のころ

当社の前身は、社団法人復興建設技術協会の中国四国支部です。同協会は、昭和21年5月、戦後の荒廃した国土を復興させることを旗印に、大陸から引き揚げてきた建設技術者が集結して設立されました。当初の支部職員は30人、朝鮮鉄道の出身者を中心に南満州鉄道や華北交通などからの引揚者らで構成され、支部事務所は、戦後広島市霞町に移転していた県庁2号館の内務省中国四国土木出張所の一部を借用したものでした。その後、昭和35年4月に中国四国支部が独立して株式会社中国四国復建事務所となり、以降、今日まで建設コンサルタントとして歩んでまいりました。

## 3. 70年のあゆみ

創業以来の社是である「一、進取 二、協力 三、信頼」のもと、常に生活者の立場に立ち、「安心・安全かつ強靱な国土形成」の実現に取り組んでまいりました。

### (1) ネットワークの拡大と体制整備（昭和35年～昭和55年）

昭和41年12月、社名を「復建調査設計株式会社」に変更しました。昭和44年6月には、現所在地に本社ビルが完成し、業容の拡大にともなってネットワークも拡大しました。昭和33年の高松出張所を皮切りに、福山出張所、下関出張所、山陰出張所を続けて開設していきました。会社設立とともに開設していた大阪の天満

分室は、昭和41年に大阪出張所となり、岡山、松山、長崎、大分にも事務所を開設していきました。その後、第一次、第二次石油ショックを経て、景気は急降下し、長い不況の時代を迎えましたが、そうした状況の中でも、体制の整備と経営の合理化に取り組みました。

### (2) 総合建設コンサルタントをめざして（昭和55年～平成8年）

建設需要の多様化に対応し、港湾・河川・上下水道そして環境アセスメントへの取り組みも強化していきました。とりわけ、「奥出雲おろちループ」と名づけられた道路は、11の橋梁と3つのトンネルから成る日本最大規模の二重ループの建設事業で、全部門をあげて取り組み、「技術の復建」の名を、広く知らしめるものとなりました。昭和61年12月から始まった大型景気により、関西国際空港建設事業、羽田空港沖合展開事業、新広島空港建設事業、みなとみらい21プロジェクト、広島市のアストラムライン建設プロジェクトなど多くのビッグプロジェクトに参画し、当社の業績は拡大しました。

### (3) 冬の時代を乗り越えて（平成8年～平成28年）

バブル経済崩壊後の長引く不況、特に平成13年からの公共事業の減少により、厳しい冬の時代を経験し、組織の合理化により体力強化を図っていきました。その状況にあっても、平成9年にヤンゴン事務所（ミャンマー）開設、平成19年にベトナムに合併会社設立、平成23年にアジア航測株式会社と資本業務提携締結、平成26年には、海外展開の拠点として、ミャンマーに現地法人設立など、常に前向きに活動してまいりました。

また、平成7年阪神・淡路大震災、平成23年東日本大震災や平成26年広島土砂災害など未曾有の災害が発生した際には、即時対応するとともに、平成26年から、災害に強い次世代の都市開

発を目指すため、東京大学などと共同で「復興デザイン研究体」を開設、研究を進めています。



(写真：東京大学復興デザインスタジオ【広島土砂災害】)

#### 4. 創業70周年記念講演会・式典・祝賀会

平成28年5月20日、広島市で創業70周年記念講演会・式典・祝賀会を開催しました。全国各地から役職員600人が集結し、これまで会社を支えてくださった諸先輩方とともに70年の節目を祝いました。広島銀行の角廣会長による記念講演会の後、記念式典において、小田社長は、「新たな挑戦を引き続き行い、80年そして100年を迎えたい」とあいさつし、「信頼を得る復建であり続けるため、全社一丸で努力する」と誓いました。

その後行われた祝賀会では、西条酒造り唄や広島交響楽団の弦楽四重奏が披露されるなど、華やかで暖かい雰囲気のパーティに、集まった社員一同、大いに感動し、大盛会となりました。

#### 5. 社風

当社には、3つの不文律があります。1つめは、オーナーや外部株主をもたないこと。社員

の自主性、会社の独立性を保つため、当社で働く役員により全株式が保有されています。2つめは、役員の子弟は入社させないという申し合わせ。世襲制を排除し、職員の誰もが経営者になれる機会を等しく提供しています。そして3つめは、会社の利益3分法。全員で創出した利益は、社員への還元・納税・次への投資のための内部留保に3分割しています。利益は、オーナーや外部株主ではなく、努力した社員に還元していこうという思いからです。

これらは、創業以来変わることなく続けてきた当社の伝統であり、これからも大事にしていくべき社風であります。

#### 6. これからの復建

時代や環境が変化するなかにあっても、着実に社会資本整備を担っていくことこそ我々の使命であると捉え、次の3つを実現のための柱としております。1つめは、培ってきた技術のさらなる高度化とサービス力を拡充すること（マネジメントできる体制の強化）。2つめは、人口減少社会における人手不足へ対応すること（生産性向上）。3つめは、70年間培ってきた地域づくり、まちづくり、環境改善などのノウハウを諸外国へ提供することで発展に寄与すること（海外への技術協力）です。

「信頼無くして協力無し、協力無くして進取無し」を基本とし、今後とも「未来社会創造企業」として存続・成長しながら社会貢献に努め、飛躍を目指してまいりたいと考えておりますので、これからもご指導くださいますようお願いいたします。



(写真：創業70周年記念講演会・式典・祝賀会)





## 自己紹介

いであ株式会社  
執行役員中国支店長 藤井 登

このたび、中国支店長ならびに建コン中国支部理事を仰せつかりました藤井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、特別名勝 三段峡のある広島県安芸太田町の出身です。地元の工業高校を出て広島県内の建設コンサルタントに入社しました。時代の浮き沈みのなかで、3度の転職を経験し、現在は、いであ株式会社に所属しています。専門は、道路、構造物、土地造成などの陸上部門の設計業務全般です。これまで社会人として、広島から一度も離れたことがなく、中国地方の事業に関連する業務に携わってきましたが、ここ数年は九州や関東地方の業務にも参画する機会が増えています。支店運営や支部理事としての重責もあるなかで、同僚、部下の支援を受けながら“土木設計屋”も続けさせていただいてお

ります。

個人的には、この仕事の魅力・やりがい・達成感を日々感じておりますが、一方でワーク・ライフ・バランスを重視する社会的要請に対して、建コン業界としても労働環境の改善は早急に取り組む課題でもあります。そのなかで、当協会では会員各社に対して一斉ノー残業デー推進の要請や、担い手の育成・確保として業界のイメージアップPR活動等を実践されており、業界の維持・発展のためには、今後も当協会の活動が益々重要になってくるものと考えます。

私はこれまで、建コンの活動に関わることがほとんどありませんでしたが、これからは、中国支部理事として、建設コンサルタンツ協会の発展に微力ながら尽力する所存です。ご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



## ご挨拶

明伸建設コンサルタント株式会社  
大石 宏

このたび、伊藤の後任として中国支部理事を引き継ぎました大石と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は広島で生まれ、高校・大学時代も広島で過ごし、明伸建設コンサルタントに入社しました。入社以来30数年間、地盤調査・解析に関

わる業務に携わってきました。

さて、近年多発する自然災害や社会資本施設の老朽化問題により、あらためて国土の脆弱性と社会資本の重要性が減災や防災の観点から認識され、建設コンサルタントに求められる役割は大きいと考えています。一方、課題として技術者育成、担い手の確保、年齢構成の偏りの是正がありますが、人材の確保と育成は重要な問題です。どのようにして人材を求めていくか、

今一度、考えさせられるところですが、建設コンサルタントの仕事が残るモノづくりなど、「やりがいのある仕事」であるとして伝えたいと思います。

私は、これまで建設コンサルタンツ協会の活動に関わる機会があまりありませんでしたが、これからは当協会の発展に微力ながら、お役に立てるように努力してゆく所存でございます。ご指導・ご支援のほどよろしくお願いいたします。



## 自己紹介

株式会社エイト日本技術開発  
岩本方克

平成28年6月に、東北支社（宮城県仙台市）から中国支社長として岡山に赴任しました岩本と申します。

出身は愛媛県で、八雲建設コンサルタント（エイト日本技術開発の前身）の道路設計の技術職として入社しましたが、技術営業として営業職に異動し、四国地域を主に歩んでまいりました。

営業職が長い関係で、顧客との話題づくりにと、何でもトライしているうちにとても多趣味になりました。バレーボール、ゴルフ、スキー、トレッキング、釣り、旅行と一年中休む暇がないくらい動き回っており、おかげで“エイト日本技術開発で一番の遊び人”と呼ばれています。

平成22年の秋に四国支社から東北支社へ赴任し、翌年の平成23年3月11日に東日本大震

災に遭いました。震災復旧・復興では官・民が協力して事業促進する三陸道路PPPや、沿岸被災地街づくりのプロジェクト全般をゼネコンとコンサル共同体で運営管理するCMRなど、新しい取り組みに弊社も多く参画することができたことは、将来の防災計画に対する大きな自信となりました。

中国支社への異動で、前任の志水（中国支社長）から引き継ぎ、業務部会委員を仰せつかりました。初めての経験であり、ご迷惑をお掛けすることがあるとは思いますが、建設コンサルタントが魅力ある業界になるために、少しでもお役に立てればと考えておりますので、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



## ご挨拶

明伸建設コンサルタント株式会社  
福原 真爾

このたび、前任の当社背戸川内の後を継いで、中国支部業務部会委員を仰せつかりました。昨年3月に、37年間の広島県庁生活を卒業し、入社したての新入社員（臺のたった）です。県時代は、道路、都市、港湾、空港など“陸海空”に加え、最後は企業局で“水”（水道）に携わり

ました。

協会を取り巻く様々な課題がありますが、委員長や他の部会委員のご指導を頂きながら、少しでも建設コンサルタント協会のお役に立てればと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



## 就任ご挨拶

株式会社宇部建設コンサルタント  
渡辺 忍

このたび、前任の宮崎春男 業務部会委員の後を継いで、中国支部業務部会委員を仰せつかりました。

山口県出身で株式会社宇部建設コンサルタントに入社し24年間、本社で勤務しております。弊社に入社して主に地盤調査、発注者支援業務に従事した後、営業部へ異動となり、

以後15年営業に携わってまいりました。

私個人としては、建設コンサルタンツ協会の活動は経験がありません。今後は、建設コンサルタンツ協会の一員として、業務部会などを通じ、協会の発展や業界全体の活性化に貢献したいと考えておりますので、ご支援のほど、宜しくお願い致します。





## 新任ご挨拶

株式会社長大  
貞 入 将 人

このたび、厚生部会委員を仰せつかりました、株式会社長大の貞入将人と申します。

平成8年に建設コンサルタント業界に足を踏み入れ、20年が経過しました。中国地方本社の会社を経て現在は株式会社長大に籍を置いております。広島県内の大学を卒業後、営業職として中国地方から出ることもなく従事しており、中国地方での業界の変遷を見てまいりました。建設コンサルタントに求められる役割がこ

れからも変化していく中で、顧客のニーズに答えられるよう企業はもちろんのこと、私自身も努力していかなければならないと考えています。

私はこれまで、協会の活動に関わる事がほとんどありませんでしたが、これからは建設コンサルタント協会の活動に微力ではございますがお役に立ちたいと考えております。ご指導、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



## ご挨拶

株式会社荒谷建設コンサルタント  
代表取締役社長 荒 谷 悦 嗣

平成28年7月に弊社代表取締役社長を仰せつかりました。

出身は広島市ですが、中学・高校時代は愛媛県松山市で過ごし、東京の大学・大学院で文学研究科を修了後、都銀系シンクタンク勤務を経て(株)荒谷建設コンサルタントに入社し、今年で10年目の節目を迎えました。建設コンサルタントにおいては異色の経歴であろうかと思いますが、地元広島を20年間離れていた文学修士という「よそもの」の視点と経験こそが自分の強みであると自負しています。

弊社は昨年、創業100周年を迎えました。大

正5年1月に「井戸掘り屋」として創業した弊社は、ポンプ設置で原爆投下後の広島復興に尽力した後、その技術を活かしてボーリング工業所を設立、更には測量業、建設コンサルタント業登録を行って現在に至ります。業態は変化しましたが、それは時代に応じて、地域から求められる社会資本整備を行ってきた結果であると考えています。建設コンサルタントを取り巻く環境は、私が入社してからのたった10年間でも大きく変化しました。会社経営は「環境適応業」と言われますが、そうした環境の変化に機敏に対応し常に地域のニーズに応えら

れる弾力的な会社で在り続けるよう心がけて参ります。

今般の担い手不足を根本的に解決するためには、私たちの業界の知名度とプレゼンスを向上させる必要があり、そのために建設コンサルタ

ンツ協会の果たす役割は大きいと考えています。微力ながら協会の発展に尽力して参りますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## 新任のご挨拶

大日本コンサルタント株式会社中国支社長  
友 光 宏 実

このたび、前任の坂本支店長の後を継いで、中国支店長を仰せつかりました。

私は山口県出身で、山口高校から山口大学を経て大日本コンサルタントに入社して32年間、主に大阪、九州と西日本地区を中心に橋梁設計・保全業務に携わってきました。

平成28年7月に九州支社から転勤予定でしたが、4月に発生した熊本地震の対応のため赴任が遅れておりましたが、復旧設計が一段落着いたことからようやく10月に中国支店に赴任してまいりました。

熊本地震では地震発生の翌日から現地派遣や緊急点検、災害復旧対応等の陣頭指揮を執っていました。今回の地震では活断層付近での橋梁

の落橋や支承部の損傷、上部工の逸脱等が数多くみられました。特に数mもの地盤変位による損傷に特徴があり、従来の知見を超える事象(想定外)にどのように対策するのか、課題が見つかったと感じています。また、建設コンサルタントとして、脆弱な国土の社会インフラ整備の重要性を改めて痛感しました。

私はこれまで、主に建コン九州支部の技術部会で品質向上委員会、ならびに道路技術委員会で活動をしてまいりました。

これからは、中国支部での支部活動などを通じて、建設コンサルタンツ協会の発展にお役に立ちたいと考えていますので、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

## ■ 支部日誌（平成28年4月～29年3月）

- 4月 6日（水）第1回道路委員会
- 4月 7日（木）平成27年度会計監査
- 4月14日（木）第46回定時総会
- 4月26日（火）第1回防災委員会
- 4月27日（水）第1回地域計画委員会
- 5月11日（水）第1回河川委員会
- 5月11日（水）第2回道路委員会
- 5月26日（木）第2回地域計画委員会
- 5月27日（金）第1回構造委員会
- 5月30日（月）第1回業務部会
- 5月31日（火）道路橋メンテナンス技術講習会（～2日（木））
- 6月 2日（木）道路橋メンテナンス講習現場実習（～3日（金））
- 6月 3日（金）道路橋メンテナンス講習確認試験
- 6月 8日（水）第2回河川委員会
- 6月 8日（水）第3回道路委員会
- 6月10日（金）第1回技術部会・技術委員長合同会議
- 6月15日（水）まちづくり出前講座 まち(三篠)のやさしさ(ユニバーサルデザイン)  
広島市立三篠小学校
- 6月16日（木）中国支部会員名簿更新発行
- 6月22日（水）第1回総務部会・県委員長合同会議
- 6月22日（水）第3回地域計画委員会
- 6月27日（月）研修講師派遣 広島県（～28日（火））設計実践講座
- 6月28日（火）情報セキュリティ講習会
- 6月28日（火）研修講師派遣 国土交通省三次河川国道事務所 橋梁設計概論
- 6月29日（水）第1回役員会
- 7月 5日（火）研修講師派遣 中国地方整備局建設生産システムⅡ研修
- 7月 6日（水）第4回道路委員会
- 7月 6日（水）研修講師派遣 広島県 測量実践講座
- 7月 7日（木）中国地方ブロック意見交換会
- 7月12日（火）第1回港湾委員会
- 7月13日（水）第3回河川委員会
- 7月14日（木）CIMハンズオン講習会（～15日（金））
- 7月19日（火）国土交通省中国地方整備局功労者表彰の受賞
- 7月20日（水）第4回地域計画委員会
- 7月22日（金）マネジメントセミナー
- 7月24日（日）クリーン太田川参加
- 7月28日（木）研修講師派遣 中国地方整備局（～29日（金））基礎技術Ⅰ研修
- 8月 2日（火）研修講師派遣 広島県（～3日（水））中級Ⅱ講座
- 8月 3日（水）第5回道路委員会

- 8月24日(水) 第5回地域計画委員会
- 8月25日(木) 第2回防災委員会
- 8月25日(木) 第1回防災講演会
- 8月29日(月) GIS講習会(～30日(火))
- 8月30日(火) 研修講師派遣 広島県 地質調査等実践講座
- 9月1日(木) 災害時対応演習
- 9月6日(火) 第2回業務部会
- 9月7日(水) 第6回道路委員会
- 9月7日(水) 研修講師派遣 広島高速道路公社  
熊本地震による橋梁の被害状況について
- 9月7日(水) 第4回河川委員会
- 9月14日(水) 第2回港湾委員会
- 9月16日(金) 第2回構造委員会
- 9月16日(金) 防災教育、広島市立中島小学校
- 9月21日(水) 第6回地域計画委員会
- 9月22日(祝) サイクルフェスタ広島
- 9月26日(月) 研修講師派遣 国土交通省三次河川国道事務所 橋梁補修設計
- 9月29日(木) まちづくり出前講座 大切なまち(三篠)の環境 広島市立三篠小学校
- 10月3日(月) 第1回独占禁止法に関する特別委員会
- 10月3日(月) 研修講師派遣 岡山県建設技術センター(～4日(火))  
コンクリート構造物の点検・診断・補修(上級)
- 10月5日(水) 第5回河川委員会
- 10月5日(水) 第7回道路委員会
- 10月11日(火) 第3回港湾委員会
- 10月13日(木) 技術部会現場見学会
- 10月14日(金) 中国地方建設技術開発交流会2016(～11月9日(水) 中国4県)
- 10月18日(火) 技術委員会/品質セミナー “エラー防止のために”
- 10月18日(火) まちづくり出前講座 UAV飛行デモンストラーション  
広島市立三篠小学校
- 10月19日(水) 第7回地域計画委員会
- 10月20日(木) 建設関連5団体共催独禁法講習会
- 10月25日(火) 河川講習会
- 10月25日(火) 防災教育 広島市立三入小学校
- 10月25日(火) 第52回ゴルフ大会
- 10月26日(水) 研修講師派遣 中国地方整備局 砂防計画研修
- 10月26日(水) PC技術講習会
- 10月27日(木) 第1回中国支部HPリニューアル検討会
- 10月31日(月) ICT普及専門委員会講習会 (ICTセミナー)
- 11月2日(水) 第8回道路委員会
- 11月3日(祝) まちトーク2016「公営競技とまちづくり」

- 11月 5日 (土) 熊本地震被災状況調査および見学会 (～6日 (日))
- 11月 5日 (土) 広島バイシクルフェスタ2016
- 11月 5日 (土) 第8回フットサル大会
- 11月 8日 (火) 中国地方整備局意見交換会
- 11月10日 (木) 広島県意見交換会
- 11月11日 (金) 建設技術フォーラム2016in広島 (～12日 (土))
- 11月13日 (日) RCCM資格試験
- 11月15日 (火) 岡山県意見交換会
- 11月18日 (金) 研修講師派遣 広島市 土木専門研修
- 11月18日 (金) 第8回地域計画委員会
- 11月19日 (土) まちづくり出前講座 遊具の事故から子どもをまもる  
学校法人永照学園永照幼稚園
- 11月22日 (火) 第1回JCCA中国編集会議
- 11月22日 (火) 研修講師派遣 広島高速道路公社 橋梁補修設計について
- 11月24日 (木) 中国支部若手技術者の会発足会
- 11月25日 (金) 防災教育 広島市立鈴張小学校
- 11月28日 (月) 研修講師派遣 岡山県建設技術センター 会計検査指摘事項の検証(上級)
- 12月 1日 (木) 研修講師派遣 中国地方整備局 基礎技術Ⅱ研修
- 12月 2日 (金) 第3回構造委員会
- 12月 5日 (月) 研修講師派遣 中国地方整備局 (～9日 (金)) 構造物設計Ⅱ研修
- 12月 7日 (水) RCCM登録更新講習会
- 12月 7日 (水) 第9回道路委員会
- 12月 9日 (金) 第4回港湾委員会
- 12月 9日 (金) 港湾関連技術講演会
- 12月 9日 (金) 第3回防災委員会
- 12月12日 (月) 第2回中国支部HPリニューアル検討会
- 12月13日 (火) 研修講師派遣 国土交通省倉吉河川国道事務所  
i-Construction全般にわたる座学及び3次元測量の実地見学
- 12月14日 (水) 第6回河川委員会
- 12月14日 (水) 第9回地域計画委員会
- 12月16日 (金) 広島市意見交換会
- 12月16日 (金) 防災教育 佐伯区美鈴が丘公民館「防災を考える会」
- 12月16日 (金) 第51回ボーリング大会
- 12月16日 (金) 研修講師派遣 国土交通省三次河川国道事務所 設計照査とミス事例
- 12月16日 (金) 研修講師派遣 中国地方整備局 橋梁勉強会
- 12月19日 (月) 第2回中国支部若手技術者の会
- 12月21日 (水) 第3回中国支部HPリニューアル検討会
- 12月22日 (木) 第2回総務部会
- 12月22日 (木) 鳥取県意見交換会
- 1月 4日 (水) 官民合同新年互礼会

- 1月14日(土) まちトーク2017『どうする中山間地域?!』
- 1月30日(月) 防災教育 広島市立久地南小学校
- 1月31日(火) 第2回役員会
- 2月13日(月) 第2回防災講演会
- 2月14日(火) 第3回業務部会
- 3月 3日(金) 本部・中国支部との意見交換会
- 3月 6日(月) 研修講師派遣 国土交通省三次河川国道事務所 道路橋示方書の改定概要
- 3月中旬 JCCA中国 vol.45 発刊

## 事務局からのお知らせ

### ●JCCA中国会誌のホームページへ掲載について

この中国支部の広報誌は、JCCA vol.38の発行から中国支部ホームページにPDF版にて掲載していますのでご利用ください。

<http://www.jcca.or.jp/kyokai/chugoku/index.html>

### ●JCCA中国へのご寄稿依頼

中国支部の広報誌JCCA中国は、年1回発行しています。

会員の皆様のグループ活動、読者のコーナー、連載寄稿等の自由なご寄稿を頂きますようお待ちしております。

ご寄稿頂きますと心ばかりのお礼をさせていただきます。



## ■ 編集後記

今年度を振り返り、まずはカーブ優勝おめでとうございます。25年間の思いを成し遂げられた方も多いと思います。今回の優勝による経済効果はなんと340億円もあったそうです。今年も明るい話題を提供してほしいと思います。個人的には2019年のワールドカップに向けて地元のチームを応援してやみません。

さて、昨年2016年も色々な出来事がありました。皆様は如何でしたでしょうか。北海道新幹線が開通し移動が便利になったこと、シャープの買収、電力の自由化など話題は事欠きませんが、我々にとっては熊本の地震に始まり、鳥取の地震で終わった1年であったかと思えます。

熊本ではローム層での土砂災害、旧河道での液状化現象など考えさせられることの多い地震であったと思います。

鳥取の地震では身近な場所ゆえに交通インフラの断絶が生活や経済的に多大に影響を及ぼす

ことを実感できたことと思います。

さて、この号が発刊されている2017年度はどのような年になっているのでしょうか。暫定道路の4車線化など業界として明るい話題もありますが、維持管理・防災・減災に関する業務は今後増えてくると考えられます。建設コンサルタント業界として既存のインフラを長く延命化を提案していくことは大事なことと感じます。

今回、JCCA中国の編集に関わり土木遺産など旧構造物に触れる機会をいただきました。先人達の熱き思いと崇高な思想には驚きを隠せませんでした。この思いや知見を次世代や次々時代の技術者に伝えるのが、伝えられるのが中高年世代の急務と痛感しました。

最後に、JCCA中国では少しでも皆様のお役に立てるよう、様々な情報を提供していけるよう努力してまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

(T. T)

■「JCCA中国」の編集は次の者が担当しております。  
今後とも皆様のご協力をいただきますようお願い申し上げます。

来山 尚 義 (復建調査設計株式会社)  
樋野 光 宏 (株式会社福山コンサルタント)  
西井 彰 (株式会社エイト日本技術開発)  
大下 倫 明 (株式会社荒谷建設コンサルタント)  
山室 正 人 (株式会社ウエスコ)  
中村 憲 行 (中電技術コンサルタント株式会社)  
下 紺 裕 人 (復建調査設計株式会社)  
田 堂 敏 宏 (八千代エンジニアリング株式会社)  
長 岡 隆 (建設コンサルタンツ協会中国支部)

## 「JCCA中国」に対する照会は事務局へ

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会  
中国支部事務局  
「JCCA中国」編集グループ  
〒730-0013  
広島市中区八丁堀1番8号  
エイトビル8F  
TEL (082) 227-1593  
FAX (082) 227-4940  
E-mail cg-jcca@sage.ocn.ne.jp

H29.3 発行

## 一般社団法人建設コンサルタンツ協会倫理綱領

会員は、社会のニーズに応じて、技術に関する知識と経験を駆使し、社会の健全な発展に寄与する建設コンサルタントの使命と職責を自覚し、信義に基づき誠実に職務の遂行に努め、職業上の地位及び社会的評価の向上を図らなければならない。

そのため次の事項を遵守するものとする。

### 1. 品位の保持

会員は、常に建設コンサルタントとしての品位の保持に努めるものとするとともに、会員相互の名誉を重んじなければならない。

### 2. 専門技術の権威保持

会員は、常に幅広い知識の吸収と技術の向上に努め、依頼者の良き技術的パートナーとして、技術的確信のもとに業務にあたらなければならない。

### 3. 中立・独立性の堅持

会員は、建設コンサルタントを専業とし、建設業者又は建設業に関係ある製造業者等と、建設コンサルタントとしての中立・独立性を害するような利害関係をもってはならない。また、依頼者の支払う報酬以外いかなる利益をも受けてはならない。

### 4. 秘密の保持

会員は、依頼者の利益を擁護する立場を堅持するため、業務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

### 5. 公正かつ自由な競争の維持

会員は、公正かつ自由な競争の維持に努めなければならない。

## 一般社団法人建設コンサルタンツ協会中国支部会員名簿

・支部長 小田 秀樹(復建調査設計(株)代表取締役社長)

・副支部長 末國 光彦(中電技術コンサルタント(株)取締役社長) ・副支部長 小谷 裕司(㈱工イト日本技術開発代表取締役社長)

| 会社名                | 会社名                 | 会社名                   |
|--------------------|---------------------|-----------------------|
| アサヒコンサルタント(株)      | 国土防災技術(株)鳥取営業所      | ㈱東京建設コンサルタント中国支社      |
| アジア航測(株)広島支店       | 新日本技研(株)西部支社        | ㈱なんば技研                |
| ㈱荒谷建設コンサルタント       | シンワ技研コンサルタント(株)     | 西日本高速道路エンジニアリング中国(株)  |
| いであ(株)中国支店         | 西部技術コンサルタント(株)      | ㈱日水コン広島支所             |
| ㈱ウエスコ              | ㈱セトウチ               | 日本工営(株)広島支店           |
| ㈱宇部建設コンサルタント       | セントラルコンサルタント(株)広島支店 | 日本シビックコンサルタント(株)広島事務所 |
| ㈱工イテック中国支社         | ㈱総合技術コンサルタント中国支店    | ㈱ニュージェック中国支店          |
| ㈱工イト日本技術開発         | ㈱大広エンジニアリング         | パシフィックコンサルタンツ(株)中国支社  |
| 応用地質(株)広島支店        | 大日本コンサルタント(株)中国支店   | 広建コンサルタンツ(株)          |
| ㈱オリエンタルコンサルタンツ中国支店 | ダイホーコンサルタント(株)      | ㈱ヒロコン                 |
| 川崎地質(株)中国支店        | ㈱ダイヤコンサルタント関西支社中国支店 | ㈱福山コンサルタント中四国支社       |
| 基礎地盤コンサルタンツ(株)中国支社 | 中央開発(株)中国支店         | フクヨシエンジニアリング(株)       |
| ケイ・工ム調査設計(株)       | 中央復建コンサルタンツ(株)中国支社  | 復建調査設計(株)             |
| ㈱計測リサーチコンサルタント     | 中国開発調査(株)           | 明伸建設コンサルタント(株)        |
| ㈱建設環境研究所広島支店       | 中電技術コンサルタント(株)      | 八千代エンジニアリング(株)広島支店    |
| ㈱建設技術研究所中国支社       | ㈱長大広島支社             | ㈱陸地コンサルタント            |
| 国際航業(株)広島支店        | ㈱千代田コンサルタント広島支店     |                       |

平成29年3月1日現在 (50社)





# JCCA

*Japan Civil Engineering Consultants Association  
Chugoku Branch.*